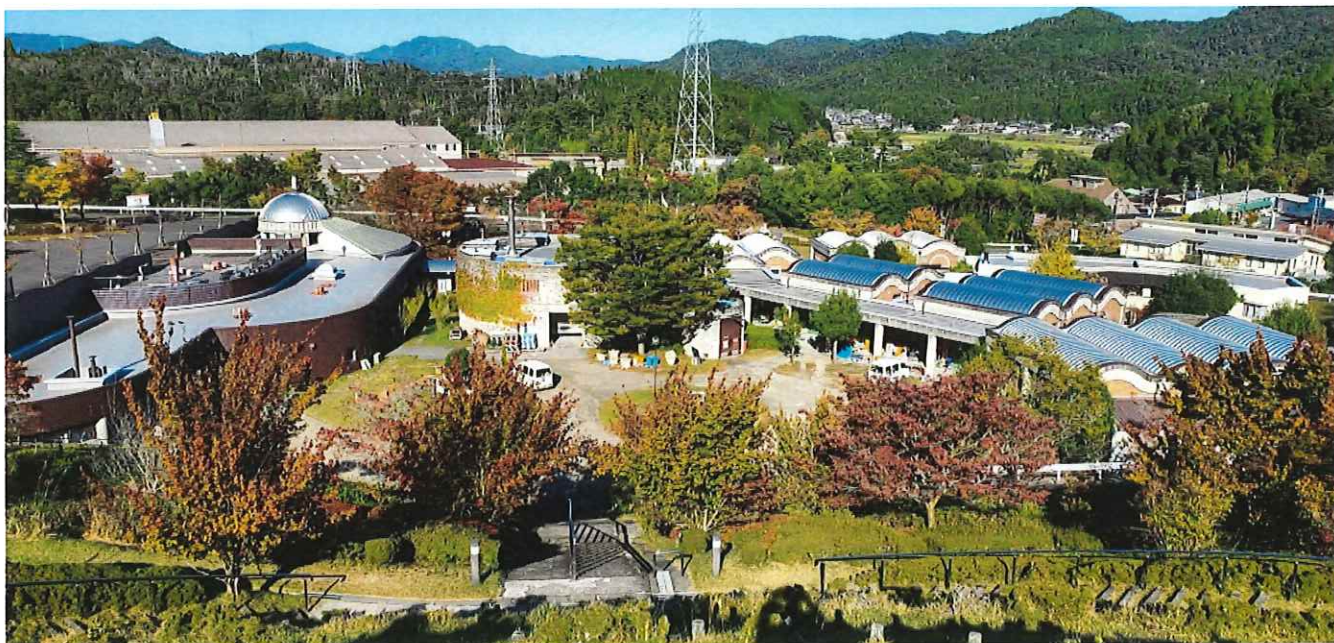


令和4年度 滋賀県立陶芸の森 年報

The Shigaraki Ceramic Cultural Park
Annual Report 2022



公益財団法人 滋賀県立陶芸の森

目 次

県民に親しまれる施設運営に関する事業

公園機能の充実

陶芸作品の野外設置	1
-----------	---

陶芸の森ボランティアの活動	2
---------------	---

地域の観光拠点としての集客促進事業

しがらき学ノススメ!	2
------------	---

イベントの開催・誘致

第16回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致	4
-----------------------	---

第27回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催	5
-----------------------------------	---

2022 わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催	5
----------------------------	---

「信楽 陶芸の森フォトコンテスト」の実施	6
----------------------	---

財団所有作品の貸し出し	6
-------------	---

利用者拡大に向けた情報の発信	6
----------------	---

地域拠点活用事業	7
----------	---

施設の管理	7
-------	---

陶芸の森やきもの振興基金	8
--------------	---

陶芸文化の発信事業

展覧会開催事業

特別展「信楽窯業技術試験場移転記念展

JAPAN STYLE —信楽・クラフトデザインのあゆみ	9
------------------------------	---

特別展「土に託されたきらめき～子どもたち×アーティスト

／セラミック最先端	17
-----------	----

特別企画「Human and Animal 土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端」

特別展「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート」	25
---------------------------------	----

特別企画展「ちょっと昔の日本を旅しよう!

湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの	38
----------------------	----

陶芸館ギャラリー企画展	50
-------------	----

陶芸館・新収蔵の逸品展—JAPAN STYLE (戦前編)	50
-------------------------------	----

アーティスト・イン・レジデンス展

「漆茉莉 ながれ—あはうみの つちときおく」	51
------------------------	----

信楽窯業技術試験場移転記念企画展

アニマルトイ誕生!—現代陶芸の巨匠たちがデザインした干支シリーズ	52
----------------------------------	----

特別映像放映「Marty Gross 編集 韓国の陶工 作業工程 1974」	53
陶芸の森「陶芸館 3D デジタルアーカイブ」	55
博物館実習	57
陶磁ネットワーク会議への参加	57
調査研究活動	58
創作事業	
アーティスト・イン・レジデンス事業	60
スタジオ・アーティストの受け入れ	60
ゲスト・アーティストの招へい	65
アーティスト・トーク、陶芸館ギャラリー展覧会の開催	67
国内外のレジデンス機関との連携	68
国別・年度別アーティスト滞在回数	70
種別・年度別アーティスト滞在回数	71
つちっこプログラムー子どもやきもの交流事業ー	
本物と出会うー総合学習プログラム	72
世界にひとつの宝物づくり	73
産業の振興に関する事業	
信楽窯業技術試験場との連携事業	75
人材育成事業	75
滋賀県立信楽高等学校への支援事業	75
若手陶器産業後継者への支援事業（デザイン活性化事業）	77
信楽産業展示館運営事業	
展覧会の開催	78
企画展 ギャラリー展示	78
その他の事業	
陶芸の森ミュージアムショップ6センス	79
資 料	
収蔵品収集実績	80
2022（令和4）年度 収蔵作品一覧	81
施設利用実績	
陶芸の森 年度別・月別入園者数	85
陶芸館 年度別・月別観覧者数	85

陶芸館展覧会別観覧者数	86
収藏品展・特別企画展など	
信楽産業展示館 年度別・月別観覧者数	89
信楽ホール・会議室利用件数	
沿革と記録	90
組織・名簿	93
組 織	93
公益財団法人滋賀県陶芸の森評議員名簿	94
公益財団法人滋賀県陶芸の森理事および監事名簿	95

県民に親しまれる施設運営に関する事業

公園機能の充実

前年度に引き続いての新型コロナウイルス感染症の流行も年度後半には収束傾向が見られ、展覧会や各種イベントの開催、陶芸講座や子どもやきもの交流事業等の実施を通じて、入園者は概ねコロナ禍前に回復したと考えられます。

太陽の広場や星の広場などを自由に楽しめるよう、公園機能の充実を図り、施設の安全性と清潔さを保ち、陶芸の森の魅力ある空間づくりに向けた新たな取り組みを進めてまいりました。

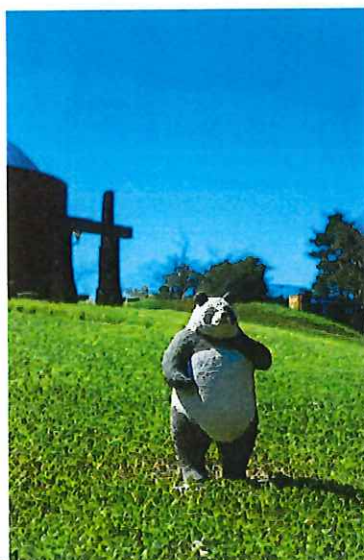
そうした中で、令和4年度の入園者数陶芸の森の入園者数は、施設修繕工事に伴う1月間の臨時休園があったものの、目標値の35万人に迫る346,154人でした。(令和3年度：352,159人)



陶芸作品の野外設置

陶芸の森の名に相応しく、滞在した陶芸家の創作作品を野外展示し、オープン・エア・ミュージアムとして、自然の中で広く芸術作品を鑑賞できる機会を提供しました。

また、魅力ある展示エリアの再構築を計画的に進めるため、野外作品の点検、一部劣化の激しいものの撤収の計画をたてました。(下記の写真は、現在の展示作品であり、撤収予定作品ではありません。)



陶芸の森ボランティアの活動

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業など、コロナ禍対策をとりつつ、ボランティアによる活動を推進し、利用者へのきめ細やかなサービスを提供しました。

- ・令和4年度登録者数 26人 (令和5年3月31日現在)
- 延べ活動人数 7人



地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森は滋賀県南部地域の観光拠点として、地域資源を活かしながら新規来園者やリピーターをつくることを目的とし、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを甲賀市やびわこビジターズビューロー、観光協会等と連携し、陶芸の森の魅力発信をおこない、誘客促進に努めました。

しがらき学ノススメ！

陶芸初心者から経験者まで、多くの方々に陶芸の魅力を体感していただくことを目的にした事業です。地元信楽の陶芸家を講師に迎え、薪窯の魅力に触れる「穴窯・登り窯講座」や個別技法を専門的に学ぶ「技法別講座」を開講。講師の行き届いた指導とニーズに即した幅広いメニューで参加者の作陶をサポートしました。

① 技法別講座

やきものについて広く学ぶことができるよう手びねりによる器づくりや、ミニ窯づくりなど、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催しました。

開催日	テーマ	講師	参加者数
5月22日(日)	ラク焼の茶碗をつくる	神崎 秀策	16人
6月12日(日)	七輪でやきものを焼いてみよう	当館職員	19人
6月26日(日)	練り込みのうつわをつくる	村田 彩	16人
10月9日(日)	キムチ甕のオンギをつくる		
	特別展「静中動」の関連講座として、出展作家を講師に迎え、韓国を代表する保存容器「オンギ(甕器)」を伝統技法で制作し、その報告動画を配信。	玄 尚哲	16人
3月12日(日)	ミニ窯をつくる	越沼 信介	12人
3月19日(日)	ラク焼の茶碗をつくる	奥田 英山	16人

② 穴窯講座

中世古窯信楽の伝統技術・穴窯焼成を学ぶ講座。参加者の習熟度に合わせて、初級・中級・上級・焼成の4クラスに分けて実施しました。

初級講座：2kgの粘土を使用、下記のテーマで制作

中級講座：5kgの粘土を使用、下記のテーマで制作

上級講座：10kgの粘土で大壺を制作

焼成講座：30kgの粘土で自由制作、窯詰から焼成、窯出しまでを体験

開催日	講座種別	テーマ	講師	参加者数
10月15日(土)16日(日)	上級	信楽大壺をつくる	神崎 継春	5人
10月30日(日)	中級	信楽水指、茶碗をつくる	六代 上田直方	9人
11月13日(日)	初級	信楽焼のうつわをつくる	五代 高橋楽斎	8人
11月27日(日)	初級	信楽焼の干支をつくる	八幡 満	14人
焼成クラス 参加者14人				
焼成日：令和5年3月15日(水)～3月19日(日)				

③ 登り窯講座

近世から近代における信楽焼の伝統技術のひとつ、登り窯焼成を学ぶ講座。火袋で作品を焼成しました。習熟度に合わせて、初級、中級、上級の3クラスに分けて実施しました。

初級講座：2kgの粘土を使用、自由制作

中級講座：5kgの粘土を使用、下記のテーマで制作

上級講座：10kgの粘土で大壺を制作

開催日	講座種別	テーマ	講師	参加者数
8月28日(日)	初級	信楽焼のうつわをつくる	神崎 秀策	13人
9月10日(土)11日(日)	上級	信楽大壺をつくる	篠原 希	14人
9月25日(日)	中級	信楽壺、蹲をつくる	藤本 秀	8人

④ トレインキルン築窯講座

8月28日（日） 説明会

令和2年度に築窯したトレインキルンを焼成。窯の構造、焼成方法を学びました。

焼成：11月26日（土）、27日（日）

参加者14人



イベントの開催・誘致

やきものをテーマにした展示即売会を開催・誘致し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、来園者と陶芸作家・窯元の交流や消費を結びつける機会を創出することにより、作家活動を支援しました。

第16回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

■内容 5月の連休に実行委員会形式で開催。

陶芸関係者に陶芸作品販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、好評を得ました。

■日時 5月2日（月）～5日（木・祝）＜4日間＞ 9時～17時

■主催 信楽作家市実行委員会

■出展者 陶芸家出展者 117件 飲食 14件

■来園者数 40,579人



第27回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

- 内容 「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸を中心とする工芸家が自ら制作した作品を販売する場を、新型コロナウイルス感染症対策を十分にとったうえで提供しました。
- 日時 11月4日(金)～6日(日)(3日間) 9時～16時30分(最終日は16時00分)
- 主催 陶芸の森
- 出展者 物販ブース129ブース 93件 飲食ブース7件
- 来園者数 17,457人



しがらき森のクラフトフェスタの誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者の判断で中止

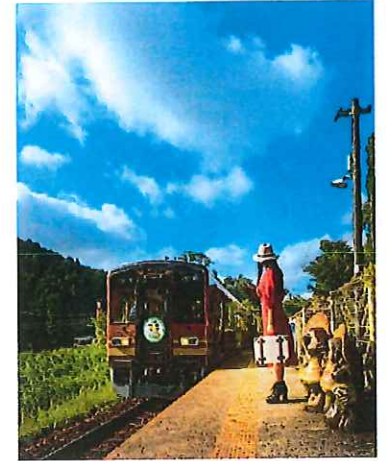
2022 わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催

- 内容 陶芸の森園内および周辺散策路でのウォーキングや ニュースポーツ体験を通して、陶芸の森の豊かな自然を満喫していただきました。玉桂寺駅方面へと園外の散策路を歩くコースを設定し、多数の方々に参加いただきました。
- 日時 12月4日(日) 9時～12時30分
- 主催 公益財団法人滋賀県陶芸の森
- 協力 ぽぽんた倶楽部(総合型地域スポーツクラブ)・甲賀市スポーツ推進員
- 参加者 39人



「信楽 陶芸の森フォトコンテスト」の実施

- 内容：信楽焼等の魅力を発信することによって、信楽や陶芸の森のファン層形成に努めるため、自然豊かな信楽を素材とした、「インスタ映え」する写真を募集。
- 募集期間：令和4年4月1日～令和5年1月31日
- 投稿数：161件
- 受賞作品：入賞 3点／ホームページ発表／陶芸館パネル展示



野外音楽イベント「SIVEL WARS」の誘致

※新型コロナウイルス感染症流行のため主催者の判断で中止

財団所有作品の貸し出し

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品(財団所蔵作品)を、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めました。

貸出実績 7箇所 計 29作品

令和4年度は滋賀県立文化産業交流会館に「響器」 田中哲也 2019-19 2019年制作

「馬/壺」 梶本桂子 2011-08 2011年制作 の2点を貸し出しました。

利用者拡大に向けた情報の発信

新聞広告等の有料媒体を始め、ウェブを中心とした無料媒体への情報提供や、パブリシティ、ホームページの充実を通じて積極的な情報発信を行い、来園者の拡大に努めました。

○主な掲載・放送実績

- ・TVラジオ 9件 『おうみ発630』(NHK)、『かいつぶりニュース』(BBC) 他
- ・新聞 37件 『京都新聞』、『中日新聞』、『朝日新聞』、『読売新聞』 他
- ・雑誌 37件 『関西日帰りさんぽ旅』(朝日新聞)、『韓国/月間陶芸』 他

- ・Web サイト 19件 『タビガタリ』(JR 東海)、『M KYOTO/湯呑茶碗展』(リ-フ)

○バーチャルミュージアムの充実

収蔵品や展示作品の3D・高精細VR映像紹介サイト「陶芸館3Dデジタルアーカイブ」に、収蔵品3点の3D映像を追加更新するとともに、展示室を訪れている様な体験ができるパノラマVRツアーを追加し、信楽窯業技術試験場の技術協力を得て、特別展「静中動」と陶芸館ギャラリー「アニマルトイ」展の360°パノラマ撮影画像を紹介して、展示を見逃した方や再度観覧したい方への情報発信に努めました。

地域拠点活用事業

陶芸の森地域連携拠点となる、まちなかギャラリーF U J I K I (旧藤喜陶苑)の運営を「F U J I K I 運営委員会」に委託し、地域に根差した施設運営・活用に努めました。

- ・展覧会開催 2件
- ・情報発信 2件
- ・ワークショップ 3件
- ・その他活用 6件

施設の管理

地域の産業振興や文化、観光の拠点として、また、来園者にくつろいでいただける場となるよう、適切な施設の維持管理に努めました。

なお、令和4年度についてはコロナ禍による休館等はありませんでしたが、台風接近時には災害警戒と来園者の安全を考慮し、休園措置をとりました。

また、園内における給水塔の改修工事に伴い、令和5年1月5日から2月2日までの間において臨時休園としました。

- ・台風接近休園 令和4年9月19日
- ・修繕工事休園 令和5年1月5日～2月2日

花咲く公園整備

公益財団法人滋賀県緑化推進協会様を通じて、「ゴルフ緑化協力金事業」により、サクラ(神代アケボノ)11本の寄贈を受け、園内沿道に植樹していただきました。

来園される方々の目につくところで、楽しんでいただけるよう景観維持に努めました。



施設の維持修繕

県の長期保全計画に基づく建物や設備の保全工事を県および事業者と調整して実施するとともに、園内および各建物にかかる所用の修繕を行い、長期的な機能確保に努めました。

陶芸の森やきもの振興基金

平成 25 年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行いました。

陶芸文化の発信事業

展覧会開催事業

信楽窯業技術試験場移転記念展

JAPAN STYLE —信楽・クラフトデザインのあゆみ

■趣 旨

世界的なコロナ禍を転機に、暮らし方への関心が高まりつつあります。日常に癒しやくつろぎを求めようとする意識の変化にともない、生活空間のなかで、いま手仕事の温かさと土の魅力を活かした普段づかいの〈うつわ〉のデザインが注目を集めています。

〈デザイン〉という言葉が広く知られる契機は、1957年にはじまるグッドデザイン商品選定制度にありました。同時に国際競争力の強化を目指したデザイン振興施策が相次いで打ち出され、日本独特の美意識を活かした〈ジャパン・スタイル〉が探求されています。



こうした動向のなか、クラフトデザイン運動の指導者として国内の陶産地で活躍したのが日根野作三（1907-1984）でした。現在の信楽窯業技術試験場を拠点に展開した日根野のデザイン指導を通して、陶産地信楽のモノづくりは新たな活路を見出してゆきます。

日根野や熊倉順吉（1920-1985）の指導により、産地が一体となり火鉢低迷の苦境を乗り越えたあの頃。本展では、朝の連続ドラマでも記憶に新しい活気に満ちた当時を振り返りつつ、新時代を予感させる信楽で話題の作家たちの〈うつわ〉を併せて紹介しました。

■展示構成 下記のテーマから作品 103 件・資料（動画映像含） 27 件を紹介

- 〈Section 1〉 戦後クラフトデザインのあけぼの〈1945-1960〉
- 〈Section 2〉 陶磁デザイナー・日根野作三との出会い
- 〈Section 3〉 産地の挑戦—試験場とクラフトデザイン運動
- 〈Section 4〉 出会いと交流のなかで—育まれた新たな息吹き
- 〈Section 5〉 ニューノーマル時代の〈やきもの〉と暮らし

■会 期 4月1日（金）～6月9日（木）60日間（令和3年度から継続）

※休館日 毎週月曜日（5月2日は開館し、5月6日振替休館）

■主催 滋賀県立陶芸の森 滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場
京都新聞

■後援 滋賀県教育委員会 甲賀市 NHK大津放送局

■協力 公益財団法人日本陶磁器意匠センター

■観覧料 一般600円(480円)、高大生450円(360円)、中学生以下無料
*()内は20人以上の団体料金

■入場者数 4,181人(1日平均70人) *全会期=5,363人(1日平均65人)

■関連企画&連携事業

(1)ギャラリートークー学芸員による展示解説

[日時] 4月24日(日)、5月22日(日) 13:30 ~ 14:30

[参加者] 10人

(2)ショップ企画販売

会期中、森正洋・加藤達美・柳宗理・鈴木治ら出品作家のプロダクト製品を販売した。

(3)協賛事業

地元信楽の山田牧場が「POP UP SHOP」を陶芸館前に開店、土日祝日に自社製乳製品を販売。

(出店日数 = 26日) (令和3年度16日・令和4年度10日)

■団体案内

4月23日 信楽窯業技術試験場研修生(レクチャー&鑑賞会)15人

6月1日 信楽陶器工業組合青年部(レクチャー&鑑賞会)22人

6月9日 信楽窯業技術試験場運営委員 10人

■掲載記事・紹介番組等

(1)テレビ・ラジオ

5月9日 あいコムこうか「こうか!かわら版」~5月11日まで随時

5月11日 NHK大津放送局「おうみ発630」

(2)新聞関係

4月1日(金) 「くらしインフォア美術館」京都新聞夕刊

4月1日(金) 「美の探訪 ジャパン・スタイルー信楽」陶業時報

4月16日(土) 「陶磁のあゆみ一端を披露 戦前までの14点」京都新聞(地域)
→ 関連企画 新収蔵の逸品展 ジャパン・スタイル [戦前編]

5月7日(土) 「JAPAN STYLE 展生活彩るデザイン追求」京都新聞(美術)

(3)インターネット

陶芸館展覧会(陶芸の森) / 陶芸の森ツイッター / 陶芸の森フェイスブック / Tokyo Art Beat
(株式会社アートビート) / 美術手帖(カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社) / デザイン
情報サイト JDN イベント情報(株式会社 JDN) / 全国のおすすめ展覧会100(ケイティコム) / ほ
っとミュージアム談話室(COOCAN) / アートデザイン(ソーシャルワイヤー株式会社) / ウォ
ーカープラス関西のイベント(株式会社 KADOKAWA) / haconiwa 今週末行きたいイベント10選 in
関西(株式会社 RIDE) / 旅する、千年、六古窯 お知らせ(備前市日本遺産課) / 信楽陶器窯 大西
左朗

■アンケート集計結果 (別紙)

■作品リスト

<Section 1> 戦後クラフトデザインのあけぼの (1945-1960)

No.	作者・デザイナー	作品・資料名	制作年	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
1	陶磁器試験所 (デザイン=水町和三郎)	青草草花文パン皿	1933	高2.2×口径17.7×底径13.0		図案	独立行政法人産業技術総合研究所 (愛知県陶磁美術館管理)
2	石川 宗彦	赤絵小皿	1946	高7.2×口径9.0・9.4×肩径9.5・9.7×底径5.0		共箱 箱書き=赤絵小皿/襷■印 (附) 裏=昭和二十一年夏於九谷作之	個人
3	ニッコー (デザイン=柳宗理)	ポーンチャイナシリーズ (松村硬質陶器N型シリーズ復刻版)	1990 (デザインc.1952)	ポット=高14.9×幅22.0×奥行15.1×底径9.5 シュガー=高10.8×幅12.0×奥行9.1×底径7.8・5.8 クリーマー=高8.4×幅13.4×奥行9.9×底径6.2		色絵転写鉢 FINE BONE CHINA DESIGNED BY SORI YANAGI NIKKO COMPANY JAPAN ・茶	個人
4	濱田庄司	黒絵灰漆し	1940-1985 (デザインc.1940)	高6.3×幅12.5×奥行8.2×底9.0・5.8		記念品 (日本専売公社)	個人
5	濱田庄司	開目文筒描マグ	1950s	高14.0×幅13.0×奥行 (口径) 10.6×底径5.9		記念品・贈答品 (アサヒビール)	個人
6	日本陶磁器協会 (デザイン=指田=日根野作三)	色絵皿	c.1949	高2.6×口径25.4×底径15.7		色絵転写鉢 日本陶磁器協会 赤地=金中製陶所 (増濃) 太平洋陶園にて焼付け	個人
7	日本陶磁器協会 (デザイン=指田=日根野作三)	色絵鉢	c.1949	高3.9×口径19.6×底径10.6		匠 美と科学と生産 第二号 (1949.12) 日本工部協会会	個人
8	水月窯	粉引梅鉢文湯出し	1960s	高7.9×口径9.6×底径5.6		鉄絵鉢 水月窯、【20c後半の日本陶磁器クラフト】	多治見市美術館ミュージアムNo.4373
9	水月窯	絵唐津清香	1960s-1970s	高8.9×口径7.8×肩径8.1×底径5.0		鉄絵鉢 水月窯 共箱 箱書き=唐津風清香/虎渡山/水月窯 印 (水月窯)、茶 (小山富士夫)	土岐市美術館陶磁歴史館 (二宮コレクション)
10	水月窯 (制作=貫川武夫)	鉄絵清香	1960s	高9.7×口径7.5×底径5.6		鉄絵鉢 水月窯、【20c後半の日本陶磁器クラフト】	多治見市美術館ミュージアム
11	小山 富士夫	灰粘清香	1940s後半	高10.5×口径7.5×底径3.9		美濃 (小名田) にて制作	個人
12	小山 富士夫	灰粘茶碗	1940s後半	高6.6×口径13.0×底径5.3		美濃 (小名田) にて制作	個人
13	平安陶苑 (デザイン=富本憲吉)	色絵「花」文字文角花瓶	1960s (デザインc.1957)	高19.8×口径3.6×肩径7.8×肩径8.0×底径6.1		染付鉢 富本、共箱 箱書き=富本憲吉茶/色絵花文字花瓶/平安陶苑 印 (富本)、茶 (八坂工芸・唯登)	個人
14	平安陶苑 (デザイン=富本憲吉)	染付色絵 角壺・陶器・茶物	1960s (デザインc.1957)	角壺=高8.4×幅13.9×奥行10.3×底径10.8・7.3 陶器=高8.0×口径6.0×口径9.0×底径5.0 =高13.2×口径7.1×幅・奥行9.3×底径8.1		染付鉢 富本、共箱 箱書き=富本憲吉茶/染付色絵角壺・陶器・茶物/平安陶苑 印 (富本)、茶 (NIPPON CRAFT)	個人
15	平安陶苑 (デザイン=富本憲吉)	色絵竹文香茶器	1960s (デザインc.1957)	急須=高 (本体) 9.8×口径8.7×幅15.8×奥行13.8×底径7.6/茶碗=高5.5×口径8.9×底径4.5		染付鉢 富本、共箱 箱書き=富本憲吉茶/色絵竹文/香茶器/平安陶苑 印 (富本)、茶 (NIPPON CRAFT)	個人
16	近江化学陶器 (デザイン=持山昌久)	色絵手焙	1950s後半	高23.8×口径26.8×底径23.8		図案 (横38.1×縦27.1)	個人
17	滋賀県立信楽窯業試験場 (給付=富本憲吉)	鉄描刷彩「富貴」字火鉢	1951	高26.3×口径40.0×肩径40.5×底径28.8		鉄絵鉢「富」/印鉢「富」	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
18	富本憲吉	鉄描刷彩竹月夜文壺	1950 / 昭和25	高6.8×口径30.4×底径16.4		鉄絵鉢「富」/「信楽にて」	個人
19	滋賀県立信楽窯業試験場 (給付=赤澤健太郎)	色絵花卉文花瓶	1947	高2.50×径25.0			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
20	赤澤 健太郎	染付黒風景陶皿	1970s	高3.5×口径26.2×底径18.8		鉄絵鉢「紋」 チーフ=高橋宗善窯の登壇	個人
21	新井 理也	染付北京公園行商人陶皿	1947	高9.6×口径36.0		染付鉢「字解面書」【■小亭図】	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
22	新井 理也	染付文字入り煎茶器組	1947	急須=高8.2×幅14.9×奥行8.8/湯冷し=高6.3×幅8.2×奥行7.8/湯呑=高5.3×径6.0			同上
資料 1	「リビングデザイン」美術出版社	デザイナー訪問 柳宗理 水戸塚	1956.4	縦25.9×横18.2×厚0.4/1冊		P.36-40	個人
資料 2	日本陶磁器協会	「日本陶磁器協会展覧会録」	1947	B5 (26.3×18.5) /1冊		展覧 (入会申込)	多治見市美術館ミュージアム
資料 3	富本 憲吉	書籍 鉄描刷彩「富貴」字火鉢について 平野敏三あて	1951	縦14.3×横9.9/縦14.3×横9.9 (原稿=縦14.3×横31.7)			個人
資料 4	参考写真	柳宗理、河井寛次郎、濱田庄司、バーナード・リーチ 信楽来訪	1949	信楽窯業試験場にて			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場

<Section 2> 陶磁デザイナー・日根野作三との出会い

No.	作者・デザイナー	作品・資料名	制作年	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
23	Stuebenville (デザイン=イン・ラッセル・ライト)	American Modernシリーズ	1939-1959 (デザイン1939)	ピッチャー=高28.0×幅16.5×/シュガー=高 6.5×径 11.5 / カップ =高4.8×幅12.5×奥行・径9.8/ソーサー=径14.8		印刷誌 Russel Wright MFG BY STEUBENVILLE	個人
24	山茶窯 (デザイン=日根野作三)	タンブラー	1929-1932	高13.3×口径8.8×底径5.6			多治見市美術館ミュージアム
25	陶磁器試験所 (デザイン=日根野作三)	彩色人魚灰皿	1934	高18.0×径16.5×底径7.6		図案	独立行政法人 産業技術総合研究所 (愛知県陶磁美術館管理)
26	佐藤具陶磁器研究所 (給付=日根野作三)	赤絵鳥文皿	1941-1943	高4.2×口径25.0×底径14.0		染付鉢 文	多治見市美術館ミュージアム
27	日根野作三	青緑文楽茶碗	1960-72	高9.1×口径11.6×肩径16.8×底径9.0			個人

<Section 2> 陶磁デザイナー・日根野作三との出会い

No.	作者・デザイナー	作品・資料名	制作年	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
28	日根野作三	陶板「煙燻」	1974	縦19.7×横27.2×厚1.5		サイン=1974 hineno	多治見市美術館ミュージアム
29	日根野作三	スケッチ「煙燻」	1934	横40.0×縦28.0		サイン=hineno 1934	
30	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=ポール・オットー・マッテ)	鉄絵花器	1958	高30.0×径7.0		鉄絵銘「MATTE 58」	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
31	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=ポール・オットー・マッテ)	鉄絵花器	1958	高29.0×幅×奥行13.0		鉄絵銘「MATTE 58」	同上
32	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=ポール・オットー・マッテ)	灰皿	1958	高8.0×幅52.0×奥行16.2			同上
33	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	灯籠	2021 (デザイン1959)	高61.0×径45.5		図案、賞状(第9回ワシントン州国際貿易見本市)、1960マル手封製作、マル手報告書(HANDICRAFTS OF JAPAN 会場写真)	同上
34	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	灯籠	2021 (デザイン1959)	高41.3×径31.1		図案、1960マル手封製作、マル手報告書(HANDICRAFTS OF JAPAN 会場写真)	同上
35	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	花器	1958	高38.5×径18.0		図案、昭和33年度「滋賀県立信楽窯業試験場業務報告」巻頭	同上
36	滋賀県立信楽窯業試験場 ゼイン=日根野作三)	(デ 鉄肌粘花器	1958	高39.5×径19.05		図案、1960マル手封製作、昭和33年度「滋賀県立信楽窯業試験場業務報告」巻頭	同上
37	滋賀県立信楽窯業試験場 ゼイン=日根野作三)	(デ 漆木鉢	1959	高52.5×径41.5		図案、昭和34年度「滋賀県立信楽窯業試験場業務報告」巻頭	同上
38	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	天目釉灰皿	1959	高7.7×径16.0		印刷誌 志がらき・ノゾワ、1960マル手封製作、昭和34年度「滋賀県立信楽窯業試験場業務報告」P6	同上
39	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	汽車土瓶	1959	高9.4×幅9.8×奥行5.5/高9.5×幅9.5×奥行5.0/高8.8×幅9.7×奥行8.0		図案	同上
40	滋賀県立信楽窯業試験場	花瓶	1960	高23.5×口径12.2		1960 マル手封製作	同上
41	滋賀県立信楽窯業試験場	コンボート	1960	高23.5×口径12.2		1960 マル手封製作、昭和35年度「滋賀県立信楽窯業試験場業務報告」P6	同上
資料 5	青年派工房	同人誌『青年派工房』	1932	No.1 (白) = 縦28.4×横20.4×厚0.25 No.2 (黒) = 縦28.8×横21.4×厚0.25			多治見市美術館ミュージアム
資料 6	日根野作三 (滋賀県立信楽窯業試験場)	講演要旨『図案講習会』『陶磁器の装飾技』	1955/1959	B5 (26.3×18.5) / 2冊		図案講習会 (1955.3.25-26)、陶磁器の装飾技について (1959.1)	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 7	日根野作三	ノート『シエトロ ラッセルライトプラン』	1960	B5 (26.3×18.5) / 1冊			多治見市美術館ミュージアム
資料 8	日根野作三 著作	20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録/陶磁器デザイン板絵/陶磁器の装飾技法	1969/1979	20.3×22.1/B5 (26.3×18.5)		光村推古書院/岐阜陶磁器工業組合連合会/日本陶磁器歴史センター	滋賀県立陶芸の森陶芸館
資料 9	日根野作三	ノート『Craft ④ 四日市・みの・常滑・信楽』	c.1959	A5 (20.8×15.6×0.3) / 1冊			多治見市美術館ミュージアム
資料 10	日根野作三	ノート『信楽の為に』	c.1959	A5 (20.8×15.6×0.3) / 1冊			多治見市美術館ミュージアム
資料 11	ポール・オットー・マッテ (滋賀県立信楽窯業試験場)	輸出陶器デザイン講習会テキスト 『シルクプリントについて』	1958	B5 (18.5×26.3)		記録写真 (資料12=講習会会場)	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 12	記録写真	輸出デザイン講習会 - 滋賀県立信楽窯業試験場にて	1958			ポール・オットー・マッテ、寺本武直、奥田陶器夫	
資料 13	日本貿易振興会	報告書『日本手工芸品対米輸出推進計画』	1960-1961-1962- 1964-1965	B5 (26.3×18.5) / 1冊、A5 (20.5×14.7) / 4冊 (S35-S36-S37-S39-S40)			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 14	日本貿易振興会	図録『HANDICRAFTS OF JAPAN 1966』	1966	B5 (26.3×18.5)			
資料 15	記録写真	日本手工芸品対米輸出推進計画開催指導 - 信楽中学校講堂にて	1960.05.14			左から寺本武直、平野敏三、今井一敏、ロバート・フォン・ニューマン、モルト・L・ローゼンバーク、上田直、日根野作三	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 16	記録写真	贈答預言、日根野作三、平野敏三 - 滋賀県立信楽窯業試験場にて	1960-1966				個人

<Section 3> 産地の振興-試験場の取組みとクラフトデザイン運動

No.	作者・デザイナー	作品・資料名	制作年	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
42	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=熊倉清吉)	珪瑁具	2002 (デザイン1963)	高65.0×蓋径32.7×胴径23.5×台径17.0		図案、1963ガーデンファニチャー展出品、賞状(1963グッドデザインショウ)	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
43	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=熊倉清吉)	ガーデン・オブジェ (珪瑁具)	1962	高84.5×幅60.0×奥行20.0		図案、1963ガーデンファニチャー展出品	同上
44	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=熊倉清吉)	パーベキューセット (テーブル・トン)	1962	テーブル=高35.0×径62.0/トン=24.0×径30.0		1963ガーデンファニチャー展出品	同上
45	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=船津英治)	置物 (陶)	1956	高14.0×幅22.0×奥行8.5		東海通線米原駅開業記念品	同上
46	船津 英治	リスの陶形	1950s	高39.9×幅18.0×奥行15.5			同上

<Section 3> 産地の振興-試験場の取り組みとクラフトデザイン運動

No.	作者・デザイナー	作品・資料名	制作年	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
47	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=船津栄治)	干支 (未)	1966	高13.5×幅18.5×奥行9.5			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
48	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=八木一夫)	干支 (寅)	1961	高10.8×幅29.8×奥行6.2			同上
49	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=船倉清吉)	干支 (丑)	1972	高11.4×幅22.5×奥行9.3			同上
50	門工房 (デザイン=八木一夫)	柿柿裏	c.1962	急須=高20.0×幅17.8×奥行19.7/ 高6.0×口径8.0×底径		湯呑=	同上
51	船倉 清吉	色絵林鳩文・蒸気灰皿	1950s	高3.6×幅・奥行12.9/高3.4×幅・奥行12.4			同上
52	セラミック・ジャパン、須原陶器 (デザイン=加藤謙夫)	月光シリーズ カップ&ソーサー	1960s	カップ=高6.1×幅11.2×奥行・口径8.5×底径5.7 ソーサー (小) =高1.9×口径15.9×底径9.5 ソーサー (大) =高 2.5×口径26.4×底径16.0		印刷性 SEYEI CHINA DESIGNED BY TATSU.K / 色絵 転写技 CERAMIC JAPAN DESIGNED BY TATSUMLK.	個人
53	美濃窯業 (デザイン=八井孝二)	置物 燗	c.1957	高21.8×幅12.0×奥行9.2		美濃窯業工芸品の英、美濃窯の英	個人
54	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=船倉清吉)	小物入れ	1970s	高=高13.6×径9.0/真中央=高11.1×径7.5/真左高11.2×径6.5/ 真右高=高6.1×径7.1/トルコ骨中央=高6.3×径7.1/トルコ骨左= 高7.2×径7.7			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
55	白山陶器 (デザイン=森 正洋)	M型コーヒーセット	c.2006 (デザイン1973)	ポット=高10.1×幅17.8×奥行17.8/シュガーポット=高6.8×幅12.2/ク リナー=高3.8×幅5.5×奥行5.6/カップ=高5.8×口径5.8×底径5.7×奥行 12.7/ソーサー (小) =高2.1×口径13.8×底径7.8/ソーサー (大) =高 2.4×口径18.0×底径12.2		色絵転写技 HAKUSAN JAPAN	個人
56	加藤 統一	美濃皿		高4.3×口径30.8×底径17.4		換付 銘 類	個人
57	セラミック・ジャパン (デザイン=柴木 正敏)	カップ&ソーサー	1970s	(換付) カップ=高6.0×幅8.5×奥行6.0、ソーサー=高2.0×口径 11.3/ (色絵) カップ=高5.8×幅11.0×奥行8.0、ソーサー=高1.7 ×口径14.7		色絵転写技	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
58	伊藤 慶二	急須	1960s	高12.2×口径6.2×胴径7.6×底径6.5		【20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録】	多治見市美濃焼ミュージアム
59	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	漬物セット	1974	手付鉢=高4.0×径19.0/醤油差し=高8.7×径5.6/小皿= 高2.5×径11.0			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
60	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	ティーセット	1967 (デザインc.1965)	ポット=高14.2×幅20.0×奥行14.4/カップ=高6.5×幅12.6×奥行9.0 /ソーサー=高2.4×径17.4/砂糖入れ=高10.4×径10.2/ミルク入れ =高8.8×幅10.9×奥行9.2		マルテ対象作、[HANDICRAFTS OF JAPAN 1966]	同上
61	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	灰皿	1969	高9.0×幅・奥行21.0			同上
62	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	コーヒーセット&スプ&碗皿	1974	ポット=18.0×11.0/カップ=7.0×8.0/ ソーサー=2.5×15.0 /シュガー=10.0×9.0スプ&ボウル=5.5×12.0/受皿小=2.5× 20.0/受皿中=2.8×31.0			同上
63	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	パーティーセット	c.1975	バスケット=高23.7×幅13.3×奥行13.5/ ハンドソープ=高11.4×幅13.3×奥行8 /皿大=高14.4×幅23.9/皿小=高14.4×幅14.4/カップ=高2.2×幅11.0×奥行 18.7/ソーサー=高2.2×幅14.2/皿=高4.8×口径13.5/水皿=高21.0×幅18.7/ドレッシ ング皿=高16.6×幅44.4×奥行6.2/皿大=高12.3×幅22.2/皿中入 (白) =高5.7×幅 15.0		第12回陶磁器試験研究機関作品展出品	同上
64	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	モーニングセット	1979	トレイ=2.5×幅28.3×奥行13.3		第16回陶磁器試験研究機関作品展出品	同上
65	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	寿司鉢セット	1977	醤油皿=高8.0×幅17.7/鉢大=高4.4×径25.5/鉢中=高4.1×径 2.2/鉢小=高2.4×径10.2		第14回陶磁器試験研究機関作品展出品	同上
66	滋賀県立信楽窯業試験場	番茶器セット	1970	土瓶=高10.8×幅19.5×奥行13.3/湯呑=高 5.7×8.1			同上
67	滋賀県立信楽窯業試験場	ランプスタンド	1966	高30.0×径24.0		マル優対象作、昭和41年度マル優指導カルテ	同上
68	滋賀県立信楽窯業試験場	相皿	1967	高6.0×口径47.0/高2.7×口径18.0		マル優対象作、1968アトランティックシティ チャイナ・アンド・グラスショー (アメリカ)	同上
69	滋賀県立信楽窯業試験場	おろし皿	1966	高2.5×幅19.0×奥行16.3		マル優対象作、昭和41年度マル優指導カルテ、 1967アトランティックシティチャイナ・アン ド・グラスショー (アメリカ)	同上
70	鈴雲窯 (制作=前川幸生)	梅形皿	1966	高3.0×口径9.0・8.3×底径5.0・5.8		マル優対象作、昭和41年度マル優指導カルテ、 1967アトランティックシティチャイナ・アン ド・グラスショー (アメリカ)	多治見市美濃焼ミュージアム
71	中岡陶房 鈴木 深丞	マグカップ (2個)	1968	高10.8×幅13.8×10.1			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
72	陶場窯 大西 忠志	タンブラー (2個)	1969	左=高12.6×口径8.1/右=高12.8×口径8.2		マル優対象作、1970アトランティックシティ チャイナ・アンド・グラスショー (アメリカ)	同上
資料 17	貞田陶器夫 (滋賀県立信楽窯業試験場)	寸法録	c.1959-1972				同上
資料 18	記録写真	八木一夫デザイン「干支 (寅)」制作風景	1961				同上
資料 19	信楽焼青年市場調査グループ	信楽市場調査報告書	1962	B5 (26.3×18.5) /1冊			個人
資料 20	滋賀県立信楽窯業試験場	パンフレット「ガーデンファニチャー」	1963				滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 21	信楽クラフトデザイン協議会	信楽クラフトデザイン協議会 (設立趣意書・会則・名簿)	1964	B5 (26.3×18.5) /3冊			同上
資料 22	滋賀県立信楽窯業試験場 (指導=日根野作三)	昭和41年度マル優指導カルテ	1966	縦36.7×横76.3			同上
資料 23	日本貿易試験会・ 日本産業デザイン協賛会	図録「日本優秀デザイン展覧会報告書 (マル 優)」 アトランティックシティチャイナ・アンド・グ ラスショー (アメリカ)	1967-1968・1970・ 1971-1972	B5 (26.3×18.5) /5冊			同上

<Section 4> 出会いと交流のなかで-育まれた新たな息吹

No.	作者	作品・資料名	制作年(代)	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
73	丸伊製陶 (デザイン-船田慶市郎)	傘立て	1960s	高44.0×口徑22.8×底徑14.8		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
74	小島太郎	ペンダントランプ	1960s	高50.0×径20.0		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	同上
75	庵原神山易久陶房・神山易久	トン (ガーデンアクセサリー)	1962	高27.8×口徑45.0×幅径36.3×底徑25.4		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	同上
76	陶山窯・西尾恭彦	丸皿	1966	高2.4×口徑19.7×底徑13.5		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	同上
77	寸越英・神山清子	鉢々皿	1963	高2.5×幅13.2×奥行13.0		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	同上
78	寸越英・神山清子	小鉢皿	1963	高1.3×幅15.1×奥行15.2			滋賀県立陶芸の森 陶芸館
79	中野薫・鈴木茂丞	一輪生	1968	高19.2×口徑2.9×胴徑16.4×底徑7.5		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
80	大谷明晴	白磁鞋履/磁部検査	1963	高25.5×径20.0/高27.5×径20.0			個人
81	笹陶房・笹山忠保	花筒	1960s	高32.8×口徑14.0×胴徑9.9×底徑9.9		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
82	滋賀タイル 須陶房 (デザイン-熊倉清吉)	陶板 十二支 (申)	1979	高19.4×幅19.4×奥行1.5			滋賀県立陶芸の森 陶芸館
83	神云窯 (制作-加藤文平)	小花瓶	1960s	高13.6×口徑1.4×胴徑0.6×胴徑8.5×底徑3.8		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
84	川端陶器 (デザイン-鈴木治)	磁部花入	1970s	高14.4×口徑5.0・4.4×幅10.9×奥行9.9		専用紙箱 花入、名刺	個人
85	川端陶器	マグカップ	1960s	高9.0×口徑・幅10.0×奥行7.0×底徑5.7		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
86	頼三陶房・小川頼三	灰釉五角形皿箱	2005	大皿=高3.2×幅36.6×奥行34.6 / =高2.8×幅19.0×奥行17.6			滋賀県立陶芸の森 陶芸館
87	れいさい工房・広川純	鉢セット	2004	高17.4×径36.0/高17.0×径22.0/高12.0×径26.5			同上
88	映月窯・宇田清	磁器利	2012	高14.8×幅9.0×奥行3.7×底徑4.5			個人
89	美香窯・高橋美香	湯呑	1960s	高8.6×口徑7.7×胴徑8.6×底徑5.7			多治見市美術館ミュージアム
90	美香窯・高橋美香	四方皿	1974	高2.2×幅・奥行14.3×底8.0・7.4			同上
91	福村哲・川口雄司	Pitcher & Ice Pail	1977	Pitcher=高22.4×口徑6.5×幅10.6×奥行9.3×底徑7.3 / Ice Pail=高12.2×口徑8.3×幅15.7×奥行12.6×底徑11.2		第21回陶磁器デザインコンペティション入選作 (次点)	個人
92	庵原神山易久陶房 (デザイン-神山易久)	「縁抜き」シリーズ	2022 (デザインc.1969)	カップ=高7.5×幅12.0×奥行8.0/ソーサー=高2.0×径15.2 / ポウル=高24.5×幅24.5×奥行24.5 / 大皿=径28.0			個人
93	壺新製陶所 奥田正男	灰皿スタンド	1960s	高51.3×口徑16.0×胴徑27.4×幅径15.0×底徑29.8		『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
94	川崎美研 川崎千足	透彫傘立	1970s	左 (チタン柄) =高44.0×幅34.5×奥行26.0 右 (天目柄) =高64.0×幅26.5×奥行24.5			個人
95	丸伊製陶 (制作-奥田周弘)	室内照明具	1960s	高30.0×口徑19.2×底徑19.8		電球・ソケット・電源コード (スイッチ付)、 『20c後半の日本陶磁器クラフトデザインの記録』	多治見市美術館ミュージアム
資料 24	記録写真	青陶会展会場風景	c1957-1960				滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場
資料 25	日本陶磁器意匠センター	報告書『輸出陶磁器デザインコンクール』	1957-1989	B5 (26.3×18.5) /26冊 (23冊・3冊)			滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場/個人

<Section 5> ニューノーマル時代の〈やきもの〉と暮らし

No.	作者	作品・資料名	制作年(代)	寸法 (cm)	画像	備考 (付属資料ほか)	所蔵者
96	秋月 葉 宇田原 介	鉛鉛ティーセット	2022	ポット=高10.7×幅16.2×奥行11.7×底径5.1 カップ=高6.8×幅12.1×奥行9.8×底径4.4 ソーサー大=径20.0、ソーサー小=径13.2			個人
97	安見 工房	鉛鉛線刻シリーズ・メルヘン	2022	インスタレーション ボトル4・蓋物4・きりん1・カバ2			個人
98	宇野 有 哉	Vision	2021	ポット=高14.4×幅19.0×奥行11.2、ポウル大=高8.0×口 径12.3×脚径13.0×底径5.7、手付カップ=高10.5×幅12.1 ×奥行8.5、皿=高2.5×口径24.2・22.4			個人
99	大谷 哲 也	ドリッパー&サーバー/マグ/帽子鉢 /銅網鉢/ポウル	2022	ドリッパー&サーバー=高16.1、マグ=高7.0×幅11.5×奥 行9.2、帽子鉢=口径20.7、銅網鉢=最大径30.0、ポウル= 高8.6×口径13.4、高10.2×口径13.0			個人
100	山田 洋 次	文字のスリップウェア (レッドウエ ア・焼締め)	2022	大=径23.0、中=径20.0、小=径10.0			個人
101	古谷 宣 章	ハレとケの間	2022	インスタレーション - 徳利 1・皿 4・蓋 3・片口 1・湯呑茶碗 1・碗 1・箸置 3			個人
102	阪原 純	「Heart」シリーズ	2022	杯=高8.1×口径6.0×底径5.0、皿大=幅30.0×奥行 14.5、皿中=幅18.0×奥行11.0、皿小=幅11.0×奥 行6.0			個人
103	古谷 奈 里	イロイロ	2022	インスタレーション - ピッチャー6・カップ&ソーサー3・カップ10			個人

映像 1	信楽まちなか芸術祭2021 アーカイブ部会	アー スライドショー 陶器・信楽の風景-1970年代を中心に	1970s			(写真提供) ルイズ・アリソン・コート	滋賀県立陶芸の森 陶 芸館
映像 2	信楽まちなか芸術祭2021 アーカイブ部会	インタビュー Archives of the Region 1960-1980s -情熱と活気に満ちた産地のあの頃	2021	18分 -川崎千足・菅山忠保・大谷司郎・西尾千秋	出演 	(映像提供) SIGARAKI MANIA	信楽まちなか芸術祭 2021 アーカイブ部会

■アンケート集計結果

(信楽窯業技術試験場移転記念展ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ)

入館者数	5,363人(1日平均64人)		
会期	2022(令和4)年3月5日(土)～6月9日(木)83日間		
回答者数	118人		
回答率	2.2%		
年代	10歳未満	10人	8.5%
	10代・20代	26人	22%
	30代・40代	19人	16.1%
	50代・60代	35人	29.7%
	70代以上	27人	22.8%
	未回答	1人	0.8%
住所	滋賀	51人	45%
	京阪神	38人	33%
	奈良・和歌山	4人	4%
	東海	12人	11%
	北陸	1人	1%
	首都圏	3人	3%
	関東・甲信越	3人	3%
	中国・四国	1人	1%
展覧会評価	大変満足	51人	43%
	満足	48人	41%
	普通	17人	14%
	やや不満	1人	1%
	不満	0人	0%
	無回答	1人	1%
再来館	思う	102人	86%
	思わない	9人	8%
	無回答	7人	6%
目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	59人	43%
	陶芸の森のイベント	17人	13%
	作陶体験	0人	0%
	陶器の購入	22人	16%
	旅行社ツアー	1人	1%
	MIHO MUSEUM	5人	4%
	学校行事	2人	1%
	その他	27人	20%
無回答	3人	2%	

特別展

「土に託されたきらめき～子どもたち×アーティスト/セラミックス最先端」

■趣 旨

土は、様々な姿に形を変えることができる魅力的な素材です。デジタル化が進む現代社会の中で、自らの手で素材を触覚で感じながらモノをつくる機会は少なくなっています。土を造形素材とすることは、感性を表現することに繋がります。コロナ禍の中も、多くの学校がこの土に触れる体験活動に取り組みました。今、まさにその大切さを私たちも再認識しているところです。令和4年度は、この土を素材にモノをつくる喜びや感動・本物の芸術と出会う教育プログラム「つつっこプログラム」を展開して、20年目に当たります。この間に15万人の子どもたちがこれを体験しました。これまでの年月を振り返り、土に映し出された子どもたちの感性溢れる作品や、このプロジェクトに関わった陶芸家、子どもたちの造形に関心を寄せるアーティストたちの作品を展示しました。

また、ロケット部品から器以外のやきものが、私たちの暮らしを支えていることは、あまり知られておらず、企業の協力によりセラミックスの産業製品を紹介し、子どもたちにやきものの幅広い可能性と、研究の中で生み出されるモノづくりの世界を知ってもらおう機会となりました。

■展示構成

- ① 土と向き合う 岡本太郎や陶芸家や若手アーティストたち
- ② 子どもたちの作品～県内小中学校、高校（子どもたちと陶芸家との出会い）
- ③ コラム展示～大人になった、あの時の子どもたち・・・（文章と作品）
- ④ 暮らしに広がるセラミックス製品 研究を重ねて生み出されるモノづくり


■会 期 6月25日（土）～9月4日（日） ※休館日 毎週月曜日

■主 催 滋賀県立陶芸の森、京都新聞

■後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市、NHK 大津放送局、公益財団法人日本セラミックス協会、
守山市教育委員会

■協 力 MIHO MUSEUM、滋賀次世代文化芸術センター、大塚オーミ陶業株式会社、京セラ株式会社、
株式会社村田製作所、三喜ゴム株式会社信楽事業所

■協 賛 山田牧場

■助 成 AFF ARTS for the future! 、ノエビアグリーン財団

■観覧料 一般 500円（400円）、高大生 380円（300円）中学生以下無料

*（ ）内は20人以上の団体料金

■入場者数 4,608人（一日平均 74人）

■関連行事

(1) オープニングセレモニー

〔日 時〕 6月25日（土）

〔参加者数〕 32人

オープニングセレモニーの後、世界にひとつの宝物づくり実行委員会に協賛いただいている大塚オーミ陶業株式会社へ感謝状を贈呈した。

(2) ギャラリー・トーク (学芸員と出品作家による展示解説)

〔日 時〕 8月6日(土) 学芸員/宮本ルリ子(陶芸家)〔参加者数〕 7人

9月4日(日) 学芸員/橘 功一郎(陶芸家)〔参加者数〕 20人

8月11日(水)、9月23日(木・祝) *新型コロナウイルス感染症対策のため中止

11月23日(火・祝) 参加者:10名 13:30~

(3) 夏休み特別講座 つちつつこプログラムの超人気メニューを体験!

8月7日(日)「シーサーをつくろう!」

(4) 陶芸の森対話の森から土・信楽・アートと暮らしをめぐる対話

8月27日(土) 保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター)×松井利夫(館長)

〔参加者数〕 40名

(5) ミュージアムショップ特設「土に託されたきらめき」展コーナー

展覧会の出品作家による作品や夏休みの子ども向け制作グッズ、「がちゃがちゃ」など期間限定商品が並びました。◀福岡佑梨、田中哲也、灘さとみ等

(6) 山田牧場/展覧会への協賛事業

■掲載記事・紹介番組等

(1) テレビ・ラジオ

あいコムこうか

(2) 新聞関係(抜粋)

5月27日 京都新聞社告(金・朝刊)

6月24日 読売新聞「ギャラリー」

(3) 雑誌

・『教育美術8月号』 教美インフォメーション

・7・8月号 滋賀+1 Vol.198 「暮らしの情報局」展覧会

・『教育美術9月号』 特集社会に発信するアート 「今を生きる、その日常とあり方を問う〜滋賀の「連携授業」で起きていること〜」 県立膳所高校教諭 山崎仁嗣著

・「甲賀フリモ」6、7、8月号

・れいかる7、8月号

・陶業時報 8月1日 他

(4) インターネット、SNS等

インターネットミュージアム、いこーよ、旅する千年六古窯、展覧会・美術館・博物館・記念館、Walker Plus、個展なび、日本美術倶楽部、関西文化.com、SSS、大塚オーミ陶業株式会社、cafevoyage、This is media、あいさ、TETSUYA TANAKA ECWEB、dmenu ニュース、navitime、goo ニュース、信楽町観光協会、Leaf、マイ広報紙、47NEWS、ジェイソン、NTA 日本旅行、ORICON NEWS、陶芸の森HP、Twitter&Facebook、村田製作所、京セラ株式会社他

■アンケート集計結果

『土に託されたきらめき 子どもたち×アーティスト セラミックス最先端展』

2022年6月25日(土)～9月4日(日)

入館者数	4,608 人		
回答者数	196人		
回答率	4.3%		
住 所	北海道・東北	0人	0%
	関東・甲信越	1人	1%
	首都圏	6人	3%
	北陸	3人	2%
	東海	12人	6%
	滋賀県	133人	70%
	京阪神	27人	14%
	奈良・和歌山	2人	1%
	中国	2人	1%
	四国	1人	1%
	九州・沖縄	1人	1%
	無回答	3人	2%
	展覧会評価	大変満足	83人
満足		80人	41%
普通		21人	11%
やや不満		3人	2%
不満		4人	2%
無回答		5人	3%
再来館したいと 思いますか	思う	175人	89%
	思わない	11人	6%
	無回答	10人	5%
信楽に来た目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	113人	55%
	陶芸の森のイベント	13人	6%
	町内のイベント	1人	0%
	陶器の購入	15人	7%
	旅行社ツアー	1人	0%
	MIHO MUSEUM	4人	2%
	学校行事	10人	5%
	その他	45人	22%
	無回答	5人	2%

■作品リスト 「土に託されたきらめき 子どもたち×アーティスト セラミックス最先端」展
 シーン1 「土と向き合う きらめきの時 岡本太郎や陶芸家・アーティストたち」

No.	作家名	作品名	制作年	サイズcm	所蔵
1	藤平 伸	射る	2002	H21.4 × W16.0 × D7.4	滋賀県立陶芸の森陶芸館
2	藤平 伸	太陽神	2002	H32.0 × W36.4 × D10.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館
3	岡本 太郎	犬の植木鉢	1954	H39.0 × W54.0 × D14.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館
4	川尻 潤	こわれていてもかがやきながらここにいますVOL3	2021	H128.2 × W122.5 × D106.8	滋賀県立陶芸の森陶芸館
5	川尻 潤	はなれていてもかがやきながらつながっています	2021	H87.4 × W45.5 × D41.3	滋賀県立陶芸の森陶芸館
6	神山 清子	信楽鎗四方壺	1980	H40.0 × W/D22.5	滋賀県立陶芸の森陶芸館
7	岩村 遠	Neo Jomon: POT	2021	H40 × 径35	作家蔵
8	大石早矢香	0	2018	H56.0 × W56.0 × D4.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館
9	大石早矢香	1	2018		滋賀県立陶芸の森陶芸館
10	バブアニューギニア/セビック川中流域 アイボム村	サゴヤシ澱粉貯蔵用壺	1990年代		公益財団法人滋賀県陶芸の森
11	セビック川中流域 アイボム村	サゴヤシ澱粉貯蔵用壺	1990年代		公益財団法人滋賀県陶芸の森
12	河井寛次郎	青薬抜蠟菱花扁壺	1941-1944	H19.9 × 口8.8・7.4 × W26.5 × D11.8 × 底15.4・6.4	滋賀県立陶芸の森陶芸館

シーン2 「子どもたちと陶芸家との出会い～県内小中学校、高校」

No.	作家名	作品名	制作年	サイズcm	所蔵
1	橋 功一郎	シーサー	2022	H45 × W/D35	作家蔵
2	宮本 ルリ子	ネガイカナエタヌキ	2007	H58.2 × W50.7 × D40.4	滋賀県立陶芸の森陶芸館
3	灘 さとみ	唐草陶管	2022	H14.0 × W32.2 × D12.0	作家蔵
4	灘 さとみ	花陶管	2022	H9.5 × W9.0 × D7.5	作家蔵
5	灘 さとみ	蛙香合	2022	H5.5 × W18.0 × D9.8	作家蔵
6	津守 愛香	こどもの絵のやきもの あくま たい てんし	2021	天使：H31 × W24 × D16、 悪魔：H29 × W25 × D19、	作家蔵
7	田中 哲也	時器TOKI—光の器 記憶の器 永遠の器	2022	可変	作家蔵
8	松本 治幸	無題	2022	H35 × 径25	作家蔵
9	高間 智子	花想華	2022	H13 × W/D13	作家蔵
10	福岡 佑梨	たねのゆめ	2022	H16 × W15.5 × D14.0	作家蔵
12	藤田 真理乃	春を待つ	2021	40 × 40 × 40	作家蔵
13	松波 曜子	無題	2021	H60 ×	作家蔵
14	金丸 美代子	elapsing	2005	①H60 × W20 × D20②H60 × W20 × D20、	作家蔵
15	小牧あやこ	粉引き金彩ケーキスタンド	2021	H21 × 径23、径14 × H15	作家蔵
16	木ノ戸 久仁子	飛行石	2021	H20 × W32 × D25	作家蔵
17	笹山 忠保	片屋根のかたち	1986	41.0*61.0	滋賀県立陶芸の森陶芸館

シーン2 「子どもたちと陶芸家との出会い～県内小中学校、高校」

No.	作家名	作品名	制作年	サイズcm	所蔵
18	谷野 明夫	黒地堆二彩抜絵花小紋壺	1998	35.3×21.0×17.5	滋賀県立陶芸の森陶芸館
19	神崎 継春	信楽緋文鉢	2015	H12.0×W52.5底径16.4	滋賀県立陶芸の森陶芸館
20	梶 なな子	コーヒー・カップ&ソーサー	2008	H5.0×W21.4×D21.4/ ソーサーH2.0×W10.4×	滋賀県立陶芸の森陶芸館
21	中田 美穂	息抜き	2019	H14 × W / D9.8	作家蔵
22	中田 美穂	注器一分ち合う器一	2017	H 7.8 × W13.6 × D2.4	作家蔵
23	北大路魯山人	色絵葡萄文扇形鉢	1943	H8.0×W28.5 × D24.5	滋賀県立陶芸の森陶芸館

No.	学校名	学年	点数	作者名	作品
1	膳所高校	1～3年生	12		陸と海 など
2	MIHO美学院		9		器
3	草津市のこどもたち	小3～中3	16		器
4	大津市立瀬田北小学校	5年生	29		土面
5	守山市立玉津小学校	5年生	6		茶碗
6	長浜市立湖北中学校	2年生	6		ソーサー
7	野洲市立中主中学校	1～3年生	3		器
8	守山市立中洲小学校	5年生	3		土面
9	大津市立瀬田東小学校	4年生	32		土鈴
10	大津市立瀬田北小学校	5年生	29		土面
11	滋賀県立淡海学園	1～6年生	5		ソーサー
12	安乎中学校	3年生	3		器
13	吉身小学校	5年生	7		器
14	彦根市立平田小学校	4年生	10		たぬぎ
15	雲井小学校	6年生	15		令和土器

シーン3 「20年間の思い出～大人になった子どもたち・・・」

No.	学校名	学年	点数	作者名	作品名
1	老上小	OB	1	田畑 凜仁	恐竜
2	老上小	OB	1	田畑 凜仁	ブラックバス
3	膳所高校	OB	1	小牧 遊太郎	皿
4	膳所高校	OB	1	小牧 遊太郎	茶碗
5	瀬田北小学校	OB	7	津屋 圭祐	たぬぎ他

シーン3 「20年間の思い出～大人になった子どもたち～」

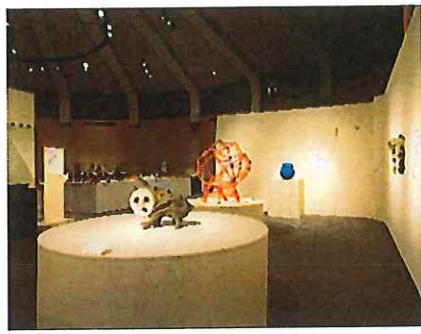
No.	学校名	学年	点数	作者名	作品名
6	膳所高校	OB	1	芳野 敬弥	乾山
7	膳所高校	OB	1	芳野 敬弥	リュトン
9	笠縫東小学校	OB	1	村井 花野	カメレオン
10	老上小学校	OB	1	上窪 悠真	おもてなしの器
11	老上小学校	OB	1	上窪 莉央	命の大切さ
12	老上小学校	OB	1	上窪 莉央	おもてなしの器
13	山田小学校	OB	1	横江 藤真	シーサー
14	山田小学校	OB	1	横江 藤真	おもてなしの抹茶碗
15	膳所高校	OB	1	横江 藤真	抹茶碗「みち」

シーン4 「暮らしを支えるセラミックス～モノづくりの舞台裏にきらめきの瞬間」

No.	作家名	作品名	制作年	サイズcm	所蔵
1	ヤン・フェルメール	美術陶板： 真珠の耳飾りの少女	2002	H46.5×W40	大塚オーミ陶業株式会社
2	フィンセント・ファン・ゴッホ	美術陶板：ひまわり	2002	H29.7×W20.9	大塚オーミ陶業株式会社
3	クロード・モネ	美術陶板：緑のハーモニー	1954	H28.7×W29.7	大塚オーミ陶業株式会社
4	国宝 火炎型土器	陶器による複製	2021	H46.5×W43.8×D42.5	大塚オーミ陶業株式会社
5	葛飾北斎	美術陶板：富岳三十六景	2021	H24.6×W36.5	大塚オーミ陶業株式会社
6	国宝高松塚古墳壁画 西壁壁画	陶器による複製	1980	H60.0×W60.0	大塚オーミ陶業株式会社
7	フィルター	陶土	2021	H40×W40	三喜ゴム株式会社
8	スポンジ	プラスチック	2018		三喜ゴム株式会社
9	村田製作所	①ツツミ型マッフル炉	1940年頃		村田製作所
10	村田製作所	②酸化チタン磁器コンデンサ	1944		村田製作所
11	村田製作所	③創業当時使用されていたはんだ付け工具			村田製作所
12	村田製作所	④信楽焼で作ったスピーカー	1998 1999		村田製作所
13	村田 昭	⑤創業者が試作した焼き物			村田製作所
14	村田製作所	⑥kVA <small>こうしゅうはよう</small> (高周波用コンデンサ)	1999		村田製作所
15	村田製作所	村田製作所チアリーディング部レプリカ3体			村田製作所
16	村田製作所	砂時計コンデンサ			村田製作所
17	京セラ株式会社	Uj字ケルシマ 【フォルステライト】		テレビのブラウン管用絶縁セラミック部品	京セラ株式会社
18	京セラ株式会社	携帯電話		半導体コンデンサー	京セラ株式会社
19	京セラ株式会社	電子蚊取り器		心棒部分	京セラ株式会社

シーン4 「暮らしを支えるセラミックス～モノづくりの舞台裏にきらめきの瞬間」

No.	作家名	作品名	制作年	サイズcm	所蔵
20	京セラ株式会社	混合栓用フォーセットバルブ			京セラ株式会社
21	京セラ株式会社	時計のカバーガラス、ベゼル、ベルト		サファイアクリスタル	京セラ株式会社
22	京セラ株式会社	セラミックス/包丁、ピーラー、ハサミ			京セラ株式会社
23	京セラ株式会社	CERAMAG/タンブラー			京セラ株式会社
24	京セラ株式会社	セラブリッド/鍋、フライパン			京セラ株式会社
25	京セラ株式会社	CERAPHIC/LED照明			京セラ株式会社
26	京セラ株式会社	ボールペン		ファインセラミックボール	京セラ株式会社
27	京セラ株式会社	クレサンベール/オパール			京セラ株式会社
28	京セラ株式会社	家庭用固体酸化物形燃料電池 (SOFC)			京セラ株式会社

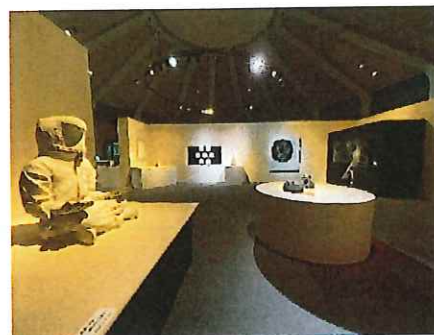


特別展「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート」

■趣 旨

劇変する歴史の中で他文化と交流しながら、独創的な世界観を生み出してきた韓国アート界には、静の中に潜められる動のエネルギー、「静中の動」の精神が垣間見える。とりわけ、人・文化の交流を通じた変容により、新たな美が生まれる一方、その動きの中で相対的に浮かび上がるアイデンティティや、変わらない伝統の精神性なども根底にうかがえる。その精神性の代表例の一つとして挙げられるのが、朝鮮白磁の「満月壺 (MOON JAR)」である。満月壺は近年ジャンルを問わず、韓国のアーティストたちに通底する美・文化のキーワードとしてたびたび登場する。

本展では、静中動の視点から伝統を踏まえて、様々な表現・理論へと展開された韓国アート、主に陶を素材にした作品を中心に紹介し、その根底にある精神性と魅力について、歴史的に多くの接点を持つ日本のやきものとの関わりを通じて浮き彫りにした。



■展示構成

序章 「精神性の根源」— 一時を越えて見出されるもの

〔作品・作家〕 甕器、青磁、粉青沙器、白磁、満月壺など
／藤本 巧(写真)、Marty Gross(映像)

第1章 「静」— 静に潜められた動のエネルギー

〔作家〕 具本昌(写真)、申相浩、李秀鐘、李康孝、裴泳和、劉炳豪、
尹柱哲、尹豪浚、金愛榮、李寶那 ※特別展示：松井利夫

第2章 「中：関係性」— 物と空間、平面と立体、韓国と他国

〔作家〕 李禹煥(絵画)、李承熙

第3章 「動」— 動きの中で浮かび上がるアイデンティティ

〔作家〕 元慶煥、禹寛壕、林美岡、金鉉淑、呂宣九、玄尚哲

第4章 「静中動をこえて：いま、ここ」— 同時代の動きの中で

〔作家〕 裴世眞、趙光勳、李琬姫、河明求、裴相順(絵画)



■作品点数 約130点

■会 期 9月17日(土)～12月18日(日) 80日間

[休館日] 毎週月曜日 ※9月19日/10月10日(祝) は開館し翌日振替休館


■主 催 滋賀県立陶芸の森、京都新聞

■監 修 東京藝術大学美術学部 教授 片山まび氏

■後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市、NHK 大津放送局、駐日韓国大使館 韓国文化院

■協 力 甲賀市国際交流協会、在日本大韓民国婦人会滋賀県地方本部、京セラ株式会社

■協 賛 山田牧場

■助 成 AFF ARTS for the future! 、ノエビアグリーン財団

■観 覧 料 一般750円(600円) / 高大生 560円(450円) / 中学生以下無料

* () 内は20人以上の団体料金

■入場者数 7,159 (一日平均90人)

(内訳) 一般 1,229人、一般ネット 1,504人、一般団体 841人、

高大生 50人、高大生ネット 36人、高大生団体 63人、

その他(クーポン・中学生以下・招待・減免) 2,258人

■展覧会図録 『静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート』

[サイズ/販売価格] A4版(横開き) 130頁/2,200円

[内容] ごあいさつ/目次/文章：「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶の
アート」(裴洙淨) / 韓国古陶磁に見る「静中動」(片山まび) / カラー図版と作品
解説/韓国現代陶芸の推移と様相(禹寛壕) / デザインについて/出品目録/現代
作家の略歴/陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス滞在制作韓国人作家リス

[販売実績] 10月14日(金)～12月18日(日) 57日間・88冊販売・193,600円

■関連企画・連携事業

(1) 本展監修者の片山まび氏のスペシャル・トーク + アーティスト・トーク

「韓国アートの伝統と現代に迫る！」をテーマとして、まず本展の出品作を中心に韓国古陶磁の魅力について片山氏にご講演いただき、続いて日本と韓国で活躍している5人の出品アーティストより、本展出品作および普段の制作活動についてそれぞれ発表いただいた。当日の様子は京都新聞で翌日掲載された。

[講師] 片山まび氏(東京藝術大学教授 本展監修者)

アーティスト5人：尹豪浚(通訳入り)、李承熙(通訳入り)、玄尚哲、河明求、裴相順

[日時] 令和4年11月6日(日) 13:30～16:00

[場所] 陶芸の森 信楽産業展示館 ホール / [参加費] 無料 / [参加者数] 40人

[日時] 3月19日(日)、4月23日(日)、5月21日(日) 13:30～14:30

[場所] 陶芸の森 陶芸館展示室

[参加者] 80人 内訳 = 3/20 20人、4/24 10人、5/22 50人

(2) 親子向けのやきものワークショップ 本展出品作家・河明求氏の野焼きイベント

「未来へのおくりもの…はにわメッセンジャー」

子どもたちが過去・現在・未来について、より楽しく考えられるように提案するプロジェクト。また、参加者の完成作の一部は、作家の作品と併せて展示した。

※報告動画を展示室で紹介(QRコード読み込む形式)

〔講師〕 河明求 (ハ・ミョング)

〔日時〕 ①制作：8月6日(土)

10:00~11:30/13:00~14:30/15:00~16:30(入れ替え制)

②焼成(野焼き)：令和4年8月21日(日)

9:00~15:00(自由参加・見学)

〔場所〕 ①陶芸の森 信楽産業展示館 創作室、②陶芸の森 窯の広場

〔参加費〕 2,000円 / 参加人数：制作30人

〔協力〕 世界にひとつの宝物づくり実行委員会

(3) 韓国の食と器：キムチとオンギ

うつわから食文化の魅力を伝えることを目的に、韓国を代表する保存容器「キムチ壺：オンギ(甕器)」の制作を行い、その後、完成したオンギに自身で漬けた「キムチ」を入れて持ち帰る体験講座を実施した。なお、キムチ漬け講座では、地元・信楽産の野菜を使い、また講座の合間には信楽と甲賀市の交流事業映像を紹介することで、日韓交流とともに地域産業の振興も図った。当日の様子は民団新聞(12月7日)に掲載された。

※報告動画はYoutubeで配信

① オリジナルのキムチ壺づくり

〔日程と場所〕 10月9日(日)

〔講師〕 玄尚哲(本展・出品作家で、信楽在住の韓国人陶芸家)

〔場所〕 陶芸の森 信楽産業展示館 創作室

〔参加費〕 5,000円 / 参加人数：16人

② キムチを漬けてみよう!

〔日時〕 11月26日(土)

〔講師〕 李美姫(在日本大韓民国婦人会 滋賀県地方本部の会長)

〔場所〕 一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ

〔協力〕 しがらきマルシェ、在日本大韓民国婦人会

〔参加費〕 3,500円 / 参加人数：29人

(4) ギャラリートーク 担当学芸員による展示解説

〔日時〕 9月25日(日)10人 / 10月23日(日)6人 / 11月20日10人

※各日とも13:30~

(5) 同時期「朝鮮の工芸」をテーマにした3館で連携広報

本展に協力・後援いただいた東京の日本民藝館・駐日韓国文化院で、同時期に「朝鮮の工芸」をテーマにした展覧会を開催することで、各館のチラシに他2館の展示情報も一緒に掲載、それぞれのSNSに展示内容を共有、民藝館と当館ではチケット相互割引などを実施するなど連携広報を行い、同じターゲット層に向けて有効に広報することができた。

※SNSで連携館を訪問した記事もあり。

(6) 京セラの高演色LED照明「CERAPHIC(セラフィック)」展示で活用

「作品本来の色を届ける光」とされている京セラの「CERAPHIC」LED照明を、協力を得て導入した。この照明は、展示ケース内で作品によって色と照明をタブレットで調整可能であり、作品

本来の色を際立たせることができた。また、試験段階のスポット LED 照明も提供いただいたことで、照度に敏感な版画作品の画面全体の照度を一定に保ち、より高度な作品保全を行うことができた。

(7) その他

- ・ 展覧会内覧会：9月16日(金)40人出席(韓国からの出品作家3人・広報関係2人)
- ・ 知事及び評議委員訪問：10月7日(金)／副知事訪問：10月27日(木)
- ・ 甲賀市国際交流フェスタで、陶芸の森ブースを設置・展示広報：10月2日(日)
- ・ 展覧会団体説明：10月20日(木) 信楽窯業技術試験場 研修生 8人
10月28日(金) 瀬戸市新世紀工芸館 研修生・レンジデンスアーティスト 8人
11月24日(木) 石川県立九谷焼技術研修所 13名
12月8日(水) 信楽陶器工業協同組合 青年部 15人
- ・ 展示終了前に、展示空間と出品作品4点を3Dスキャナーで撮影。そのVR映像撮影を「陶芸館3Dデジタルアーカイブ」サイトに3月に更新。
※技術協力：滋賀県工業技術センター信楽窯業技術試験場

■団体案内

- 4月4日(火) 信楽窯業技術試験場コトづくりセミナー(レクチャー&鑑賞会)35人
- 5月21日(金) 京都芸術大学通信教育部収穫祭40人
- 6月7日(水) 信楽窯業技術試験場研修生(レクチャー&鑑賞会)8人

■掲載記事・紹介番組等

(1) テレビ

- 9月23日(金)18:00～9月26日(月)16:00 あいコムこうか こうか!かわら版「韓国のスピリットをたどる展示」

(2) 新聞関係

- 5月13日(金) 民団新聞「キムチ壺を作って漬けてみよう」
- 9月5日(月) 京都新聞 朝刊 ミュージウムガイド
- 9月14日(水) 京都新聞 朝刊 特集「独創的な世界観ひもとく」
- 9月18日(日) 京都新聞 朝刊 記事「独創的世界観 韓国アート」
- 10月1日(土) 陶業時報 美の探訪「韓国のスピリット「静中動」」
- 11月7日(月) 京都新聞 朝刊「韓国アート 魅力訴える—陶芸の森でトークイベント」
- 11月11日(金) 読売新聞 朝刊 地域/ギャラリー
- 11月13日(日) 読売新聞 朝刊 滋賀総合「韓国の焼き物文化魅力伝える特別展」
- 11月18日(金) 東洋経済日報 文化欄「韓国アートの精神性とは」
- 12月7日(水) 民団新聞「韓国友好キムジャン」

(3) 専門誌・雑誌など

- ・ 『炎芸術』151号 展覧会スポットライト「裏洗濯「静中動：韓国のスピリットをたどる」4ページ(阿部出版社/8月1日発行)
- ・ 『Leaf』10・11月号
- ・ 情報誌『甲賀フリモ』10月号 EVENT NEWS(中広/9月26日発行)

- ・『월간도예 (月刊陶芸)』 2022年 12月号 해외 WORLD
「裴洙淨 「드러나는 한국미의 정신 정중동」 (「現れる韓国美の精神 静中動」)
(2022/12月1日発行)
- ・JR西日本観光ガイド 月刊情報誌「電車&ウォーク」12月号

(4) インターネット抜粋

Internet Museum、個展ナビ、Art Show. JP、JDN、チラシミュージアム (e+)、Dokka
お出かけ探検隊、関西文化. com、びわ湖ビジターズビューロー、日本美術倶楽部、
EventBank、美術手帖、MusCa、おでかけ moa、信楽町観光協会、今見られる全国おすすめ
展覧会 100、信楽陶燿会 HP、ぶらっと信楽 web、彩里陶材、陶芸 ZANMAI、CAFE Voyage、
Street Art Navi、artscape、LIMIA、Tokyo Art Beat、livedoor、@nifty ニュース、
Dtmes、ビズハック!、@Press LINE ニュース、NEWSCAST、ニコニコニュース、モ
ノバズ、@nifty ビジネス、Barclay Global BIZ
BIGLOBE ニュース、bizocean、excite. ニュース、Infoseek ニュース、Mapion ニュー、
NEWS Collect、NewsPicks、Newsweek、RBBTODAY、rentaloffice.bz、StartHome、
woman.excite、zakzak、えんうち、とれまがニュース、クイックオーダー、徳島新聞、財
経新聞、ノアドット、朝日新聞デジタルマガジン&、M KYOTO、陶芸ネット、京都新聞 web

(5) ミュージアムショップ

出品作家の作品や作品集及び韓国にまつわる食・美・言語の書籍を販売。なかでも、本
展のために写真家・藤本巧氏の限定写真集を制作したが、この写真集は反響が大きく売り
切れとなった。また、ポジャギをはじめ、刺繍やヌビの伝統工芸品の雑貨、真鍮のカトラ
リーなど韓国産の工芸品を販売したが、ある来館者は、電話で追加注文することもあつ
た。その他、日本民藝館との連携広報の一環で、雑誌『民藝』の中で韓国工芸に関する特
集号も委託販売するなど特別展に合わせた雰囲気作りもおこなった。

■作品リスト (別紙)

■アンケート集計結果 (別紙)

出品作品リスト

会期：2022年9月17日～12月18日

滋賀県立陶芸の森陶芸館

No.	作者名または器物名	기물명/작가명	Artist or Object name	作品名	작품명	Title	制作年/ 제작년도	Production year	사이즈 size (cm) 高さ(H)×口径(MD)×幅(W)×最大径・奥行(D)×底径(BD)	所蔵先/소장처
序章 「精神性の根源」-時を越えて見出されるもの/ '서장' 정신성의 근원-시대를 넘어서 발견되는										
1	青磁	청자	Celadon	青磁半陽刻牡丹唐草文 甌形水注・承盤	청자 반양각 모란당초문 표주박 모양 주자·승반	Gourd-shaped Ewer and Saucer, Celadon with Carved and Incised Peony Scroll Design	高麗時代 12世紀-13世紀前半	Goryeo dynasty, the 12th-first half of the 13th century	H24.0×D38.8×BD8.5	出光美術館
2	青磁	청자	Celadon	青磁半陽刻蓮花文長頸瓶	청자 반양각 연화문 장경병	Long-necked Vase, Celadon with Carved and Incised Lotus Design	高麗時代 12世紀後半-13世紀前半	Goryeo dynasty, second half of the 12th-first half of the 13th century	H34.4×D17.6	愛知県陶磁美術館(国立研究開発法人産業技術総合研究所蔵)
3	青磁	청자	Celadon	青磁象嵌蓮花文甌形水注・承盤	청자 상감 연화문 표주박 모양 주자·승반	Gourd-shaped Ewer and Saucer, Celadon with Inlaid Lotus Design	高麗時代 12世紀後半-13世紀前半	Goryeo dynasty, second half of the 12th-first half of the 13th century	水注 Ewer: H32.0×D16.8×BD8.9 承盤 Saucer: H6.8×MD17.0×18.0×BD10.2	同上
4	青磁	청자	Celadon	青磁象嵌雲鶴文鉢	청자 상감 운학문 대접	Bowl, Celadon with Inlaid Clouds and Cranes Design	高麗時代 12世紀後半-13世紀前半	Goryeo dynasty, second half of the 12th-the first half of the 13th century	H9.9×MD19.2×BD7.0	同上
5	青磁	청자	Celadon	青磁象嵌雲鶴文梅瓶	청자 상감 운학문 매병	Meiping Vase, Celadon with Inlaid Clouds and Cranes Design	高麗時代 14世紀後半	Goryeo dynasty, second half of the 14th century	H30.8×MD5.2×D18.5×BD9~9.8	同上
6	青磁	청자	Celadon	青磁象嵌蒲柳水禽文鉢 (「庚午」銘)	청자 상감 포류수금문 대접 (「경오」명)	Bowl, Celadon with Inlaid Willow, Reed and Waterfowl Design	高麗時代 1330年	Goryeo dynasty, 1330	H6.3×MD18.9	同上
7	青磁	청자	Celadon	硬質陶器瓜形梅瓶	경질도기 참외모양 매병	Meiping Vase, Stoneware	高麗時代 13世紀	Goryeo dynasty, the 13th century	H24.0×MD6.3×D17.5×BD14.0	愛知県陶磁美術館(加藤舜陶コレクション)
8	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青印花皿	분청사기 인화문 접시	Dish, Buncheong ware with Stamped Design	朝鮮時代 15世紀	Joseon dynasty, the 15th century	H5.7×MD19.8×BD6.0	愛知県美術館(木村定三コレクション)
9	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青印花皿(「金海長興庫」銘)	분청사기 인화문 접시(「김해 장흥고」명)	Dish, Buncheong ware with Stamped Design and Inscription of "Gimhae Jangheunggo (金海長興庫)"	朝鮮時代 15世紀	Joseon dynasty, the 15th century	H4.4×MD11.8×BD4.8	愛知県美術館(木村定三コレクション)
10	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青印花繩簾文瓶 銘「会釈」	분청사기 인화 승림문 병 명「애사쿠」	Bottle, Buncheong ware with Stamped and Inlaid Rope-curtain Design	朝鮮時代 15世紀	Joseon dynasty, the 15th century	H18.0×MD11.0×BD5.0	愛知県陶磁美術館(辻清明コレクション)
11	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青象嵌牡丹文共蓋四耳壺	분청사기 상감 모란문 뚜껑달린 사이호	Jar with Four Handles, Buncheong ware with Inlaid Peony Design.	朝鮮時代 15世紀	Joseon dynasty, The 15th century	H32.7×MD11.5×D27.8×BD10~10.8	出光美術館
12	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青搖盞鉄彩牡丹文扁壺	분청사기 박지 철화 모란문 편병	Flask, Buncheong ware with Underglaze Iron-brown Painted and Sgraffito Peony Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H23.1×MD5.5	日本民藝館
13	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青線刻双鱼文扁壺	분청사기 선각 쌍어문 편병	Flask, Buncheong ware with Incised Fish and Peony Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H20.7×W20.1×D13.2×BD9×8.2	出光美術館
14	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青鉄絵柳鳥文瓶	분청사기 철화 버드나무와 새 무늬 병	Bottle, Buncheong ware with Iron Painted Birds and Willow Trees Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H29.8×D17.8	大和文華館
15	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青刷毛目鉄絵草花文依壺	분청사기 철화 삼엽문 장군	Rice-bale-shaped Bottle, Buncheong ware with Brushed and Iron Painted Floral Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H20.9×W29.9×D16.2	日本民藝館
16	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青刷毛目双耳壺	분청사기 귀얄 사이호	Jar with Two Handles, Buncheong ware with Brushed Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H16.7×MD11.9×D19.7×BD10.5	愛知県美術館(木村定三コレクション)
17	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青刷毛目碗	분청사기 귀얄문 대접	Bowl, Buncheong ware with Brushed White Slip Design	朝鮮時代 15世紀後半-16世紀前半	Joseon dynasty, second half of the 15th-first half of the 16th century	H7.6×MD18.6×BD5.9	愛知県陶磁美術館(李吉秀コレクション)
18	粉青沙器	분청사기	Buncheong	粉青粉引草花文依壺	분청사기 담병 꽃무늬 장군	Rice-bale-shaped Bottle, Buncheong ware with Over Slip and Inlaid Floral Plants Design	朝鮮時代 16世紀	Joseon dynasty, the 16th century	H18.5×MD4.9×BD5.3	愛知県美術館(木村定三コレクション)

No.	作者名または器物名	기름명/작가명	Artist or Object name	作品名	작품명	Title	制作年 / 제작년도	Production year	사이즈 size (cm) 高さ(H)×口徑(MD)×幅(W)×最大徑・奥行(D)×底徑(BD)	所蔵先/소장처
19	粉靑沙器	분청사기	Buncheong	粉靑粉引碗	분청사기 텀병 완	Bowl, Buncheong ware with Over Slipped Design	朝鮮時代 16世紀	Joseon dynasty, the 16th century	H6.8×MD13.8×BD5.7	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
20	粉靑沙器	분청사기	Buncheong	粉靑粉引盃	분청사기 텀병 잔	Cup, Buncheong ware with Over Slipped Design	朝鮮時代 16世紀	Joseon dynasty, the 16th century	H5.5×MD9.7	愛知県陶磁美術館 (辻清明コレクション)
21	白磁	백자	White porcelain	白磁瓶	백자 병	Bottle, White Porcelain.	朝鮮時代 16世紀前半	Joseon dynasty, first half of the 16th century	H27.6×MD7.4×D16.5×BD11.0	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
22	白磁	백자	White porcelain	白磁盃	백자 잔	Cup, White Porcelain.	朝鮮時代 16世紀	Joseon dynasty, the 16th century	H5.8×MD9.0	愛知県陶磁美術館 (辻清明コレクション)
23	白磁	백자	White porcelain	白磁合子	백자 합	Covered Box, White Porcelain	朝鮮時代 16世紀前半	Joseon dynasty, first half of the 16th century	H13.0×D15.9×BD7.7	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
24	白磁	백자	White porcelain	白磁祭器	백자 제기	Ritual Vessel, White Porcelain	朝鮮時代 16世紀	Joseon dynasty, the 16th century	MD22.3×20.2×BD7.5×7.5	出光美術館
25	白磁	백자	White porcelain	白磁祭器	백자 제기	Ritual Vessel, White Porcelain	朝鮮時代 17世紀	Joseon dynasty, the 17th century	H13.6×MD19.3×BD10.9	愛知県美術館 (木村定三コレクション)
26	白磁	백자	White porcelain	青花祭器	백자 청화 제기	Ritual Vessel, White Porcelain Underglaze Cobalt-blue	朝鮮時代 18世紀前半	Joseon dynasty, first half of the 18th century	H18.8×MD24.6×BD10.4-10.0	鄭 玲媛
27	白磁	백자	White porcelain	白磁祭器	백자 제기	Ritual Vessel, White Porcelain	朝鮮時代 18世紀-19世紀	Joseon dynasty, the 18th-19th century	H12.9×MD32.8×BD18.6	愛知県美術館 (木村定三コレクション)
28	白磁	백자	White porcelain	鉄砂竹文壺	백자 철화 죽문 호	Jar, White Porcelain Underglaze Iron-painted Bamboo Design	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H31.1×MD16.2×D35.3×BD13.2	早稲田大学會津八一記念博物館 富岡重憲コレクション
29	白磁	백자	White porcelain	鉄砂俑 一對	백자 철화 명기	Figures of Humans, White Porcelain Underglaze Iron-painted Design	朝鮮時代 17世紀	Joseon dynasty, the 17th century	男 man: H 6.4×W2.3×D2.2 女 woman: H 5.8×W3.0×D2.5	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
30	白磁	백자	White porcelain	白磁俑	백자 명기	Figure of Lady, White Porcelain	朝鮮時代 18世紀-19世紀	Joseon dynasty, the 18th-19th century	H7.3×W4.0×D2.5	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
31	白磁	백자	White porcelain	鉄砂龍文壺	백자 철화 용문 호	Jar, White Porcelain Underglaze Iron-painted Dragon Design	朝鮮時代 17世紀後半	Joseon dynasty, second half of the 17th century	H31.9×MD19.2×D37.7×BD14.1	愛知県陶磁美術館 (李吉秀コレクション)
32	白磁	백자	White porcelain	白磁壺	백자 호	Jar, White Porcelain	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H36.6~40.0×MD14.2×D30.6×BD15.7	日本民藝館
33	白磁	백자	White porcelain	白磁壺	백자 호	Jar, White Porcelain	朝鮮時代 17世紀末-18世紀前半	Joseon dynasty, late of the 17th-first half of the 18th century	H36.9×MD14.4×D30.0×BD13.7	日本民藝館
34	白磁	백자	White porcelain	白磁壺 (「외밭소 (外燒廚房)」銘)	백자 호 (달항아리, 「외밭소」명)	Jar, White Porcelain (Moon Jar) Inscription of "Eusbas-syo"	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H31.0×MD14.7×D32.4×BD11.4	早稲田大学會津八一記念博物館 富岡重憲コレクション
35	白磁	백자	White porcelain	白磁壺	백자 호 (달항아리)	Jar, White Porcelain (Moon Jar)	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H49.7×MD20.7×D48.7×BD18.7	同上
36	白磁	백자	White porcelain	白磁壺	백자 호 (달항아리)	Jar, White Porcelain (Moon Jar)	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H32.7×MD12.5×D31.8×BD12.3	日本民藝館
37	白磁	백자	White porcelain	青花秋草文壺	백자 청화 추초문 호	Large Jar, White Porcelain Underglaze Cobalt-blue Painted Autumn Flower Design	朝鮮時代 18世紀前半	Joseon dynasty, first half of the 18th century	H26.8×MD14.9×D32.5×BD13.8	日本民藝館
38	白磁	백자	White porcelain	青花虎鶴文壺	백자 청화 호작문 호	Jar, White Porcelain Underglaze Cobalt-blue Painted with Tiger and Magpies Design	朝鮮時代 18世紀後半	Joseon dynasty, first half of the 18th century	H42.5×MD15.5×D34.5×BD16.0	早稲田大学會津八一記念博物館 富岡重憲コレクション
39	白磁	백자	White porcelain	青花鯉山水文壺	백자 청화 잉어 산수문 호	Jar, White Porcelain Underglaze Cobalt-blue Painted Carp and Landscape Design	朝鮮時代 19世紀	Joseon dynasty, the 19th century	H39.2×MD12.6×D26.8×BD13.0	日本民藝館

No.	作者名または器物名	기물명/작가명	Artist or Object name	작품명	작품명	Title	制作年 / 제작년도	Production year	사이즈 size (cm) 高さ(H)×口径(MD)×幅(W)×最大径・奥行(D)×底径(BD)	所蔵先/소장처
40	白磁	백자	White porcelain	青花太極文面取瓶	백자 청화 태극문 팔각병	Octagonal Bottle, White Porcelain Underglaze Cobalt-blue Painted Taegeuk Design	朝鮮時代 19世紀	Joseon dynasty, the 19th century	H30.2×MD4.5×BD9.7-10.2	日本民藝館
41	白磁	백자	White porcelain	辰砂蓮花文八角瓶	백자 동화 연화문 팔각병	Bottle, White Porcelain with Copper Red Painted Lotus Design	朝鮮時代 18世紀	Joseon dynasty, the 18th century	H36.0×MD6.3×D22.2×BD10.5	大和文華館
42	白磁	백자	White porcelain	瑠璃釉透彫蕉葉文筆筒	백자 청화채 투각 초엽문 필통	Brush Stand, White Porcelain with Cobalt Blue Painted and Openworked Banana Leaves Design	朝鮮時代 19世紀	Joseon dynasty, the 19th century	H11.3×D13.8	大和文華館
43	白磁	백자	White porcelain	白磁瓜形硯	백자 참외모양 벼루	Ink Slab, White Porcelain	朝鮮時代 19世紀	Joseon, the 19th century	H13.2 W20.1×BD15.0	愛知県美術館 (木村定三コレクション)
44	白磁	백자	White porcelain	辰砂彩青花鵝刻雲鶴文角水滴	백자 진사 청화 양각 운학문 각연적	Square Water Dropper, White Porcelain with Underglaze Copper Red, Cobalt Blue Painted and Engraved Cranes and Clouds Design	朝鮮時代 19世紀	Joseon dynasty, the 19th century	H5.8×W7.2×D7.2	大和文華館
45	白磁	백자	White porcelain	白磁膝形水滴	백자 무릎모양 연적	Water Dropper (Knee-shaped), White Porcelain	朝鮮時代 19世紀後半	Joseon dynasty, second half of the 19th century	H8.9×W8.6×D8.5	日本民藝館
46	白磁	백자	White porcelain	青花海輪形水滴	백자 청화 해태모양 연적	Haetae-shaped Water Dropper, White Porcelain with Underglaze Cobalt-blue	朝鮮時代 19世紀後半	Joseon dynasty, second half of the 19th century	H8.8×W9.2×D7.3	日本民藝館
47	甕器	옹기	Onggi	甕器	옹기	Onggi Jar	朝鮮時代 20世紀	Joseon dynasty, the 20th century	H86.0×MD57.5×D95.0	同上
48	藤本 巧	후지모토 타쿠미	Fujimoto, Takumi	高靈의 登り窯 (海印寺から南原)	고령의 등요 _ 해인사에서 남원	Climbing kiln in Goryeong (from Haeinsa Temple to Namwon)	1970.09.01		H103.0×W145.6	藤本 巧
49	甕器	옹기	Onggi	甕器成形道具	옹기 성형도구	Onggi Tools	1971		①H28.5×W10.0×D7.0 ②H27.5×W10.5×D7.0 ③H27.5×W9.0×D6.5	個人蔵
50	藤本 巧	후지모토 타쿠미	Fujimoto, Takumi	通度寺(廣南道 梁山 市)	통도사(경상남도 양산시)	Tongdosa (Yangsan-si Gyeongsangsam-do)	1973		H145.6×W103.0	藤本 巧
51	藤本 巧	후지모토 타쿠미	Fujimoto, Takumi	登り窯(高靈)	고령의 등요(타림질)	Climbing kiln (Goryeong)	1970.09.01		H59.0×W74.0	同上

第1章 「静」-静に潜められた動のエネルギー- / 제1장 '靜' - 고요함 가운데 움직이는 에너지

52	具 本昌 (구본창)	구본창	KOO, Bohn chang	Moon Rising II			2005-2006		写真 photo: 各 H100×W80	個人蔵
52-1				NM 01 BW			2006			国立中央博物館、ソウル
52-2				MG 08 BW			2005			ギメ博物館、パリ
52-3				OSK 02 BW			2005			大阪市立東洋陶磁美術館、大阪
52-4				HA 07 BW			2005			サムスン美術館リウム、ソウル
52-5				JM 04 BW			2006			日本民藝館、東京
52-6				JM 05 BW			2006			日本民藝館、東京
53	具 本昌 (구본창)	구본창	KOO, Bohn chang	RH 01 BW			2014		Photo : H55.5×W69.5 Paper : H84×W59	鄭 玲姫
54	申 相浩 (신·상호)	신상호	SHIN, Sang ho	Dream 0092 (大)		Dream 0092 (large)	1992		H58.0×W42.0	岐阜県現代陶芸美術館
55	申 相浩 (신·상호)	신상호	SHIN, Sang ho	Dream 0092 (小)		Dream 0092 (small)	1992		H52.0×D60.0	岐阜県現代陶芸美術館

No.	作者名または器物名	기름명/작가명	Artist or Object name	작품명	작품명	Title	制作年 / 제작년도	Production year	사이즈 size (cm) 高さ(H)×口径(MD)×幅(W)×最大径・奥行(D)×底径(BD)	所蔵先/소장처
56	申 相浩 (シン・サンホ)	신상호	SHIN, Sang ho	Dream Series			1994		H10.2×D53.0	岐阜県現代陶芸美術館
57	申 相浩 (シン・サンホ)	신상호	SHIN, Sang ho	Head Series (大)		Head Series (large)	1995		H71.2×W52.2×D66.1	同上
58	申 相浩 (シン・サンホ)	신상호	SHIN, Sang ho	Head Series (小)		Head Series (small)	1994/ ③のみ1998		①H32×W22×D24 ②H30×W24×D27 ③H32×W21×D24 ④H30×W23×D30 ⑤H32×W22×D26	同上
59	李 康孝 (이·간·효)	이강효	LEE, Kang hyo	空	하늘	The Sky	2018		H28.7×W50.5×D46.2	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
60	李 康孝 (이·간·효)	이강효	LEE, Kang hyo	粉引き壺	분청항아리	Buncheon Jar	2018		H18.2×D27.6	同上
61	李 康孝 (이·간·효)	이강효	LEE, Kang hyo	粉青満月壺	분청달항아리	Buncheon Moon Jar	2020		H102×D102	個人蔵
62	李 康孝 (이·간·효)	이강효	LEE, Kang hyo	粉青山水	분청산수	Buncheon Landscape	2014		各 H125.0×W32.0×D4.0	個人蔵
63	李 康孝 (이·간·효)	이강효	LEE, Kang hyo	The Sky			2014		H95×W65	個人蔵
64	李 秀鐘 (이·스·조·종)	이수중	REE, Soo jong	Moon Jar (陰刻:「信楽」)			2018		H37.4×MD17.2×D35.0× BD18.2	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
65	李 秀鐘 (이·스·조·종)	이수중	REE, Soo jong	Moon Jar (陰刻:「信楽大雨」)			2018		H40.0×MD20.0×D37.0× BD18.8	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
66	李 秀鐘 (이·스·조·종)	이수중	REE, Soo jong	Moon Jar (陰刻:「信楽清明」)			2018		H41.5×MD19.1×D35.3× BD17.1	杉山道夫
67	金 愛榮 (김·애·영·юн)	김애영	KIM, Ae young	Pivot Series 瀬戸際 の風景2	Pivot series_위태로운 풍경 2	Pivot series, Landscape on the brink 2	2022		各 H32.5×W9.5×D9.5 (4 pieces)	個人蔵
68	金 愛榮 (김·애·영·юн)	김애영	KIM, Ae young	Pivot Series 瀬戸際 の風景3	Pivot series_위태로운 풍경 3	Pivot series, Landscape on the brink 3	2022		各 H28.0×W10.0×D10.0 (3 pieces)	個人蔵
69	尹 豪凌 (윤·호·준·юн)	윤호준	YOON, Ho jun	'Ah' in the World			2017-2018		'Ah' size : 6×5×9 (cm)	個人蔵
70	尹 豪凌 (윤·호·준·юн)	윤호준	YOON, Ho jun	青磁象嵌牡丹菊花文瓜 形瓶と'我'	청자상감모란국화문참외모 양병과 '아'	Ah' with asian Melon Shaped Celadon Flower Vase with Inlaid Peony and Chrysanthemum Design	2019		H24.5×MD14.5×D19	個人蔵
71	尹 豪凌 (윤·호·준·юн)	윤호준	YOON, Ho jun	白磁膝形硯滴と'我'	무릎연적과 '아'	Ah' with Knee-shaped Water Dropper	2022		H16.5×W11×D11	個人蔵
72	裴 泳和 (배·영·화·파)	배영화	BAE, Young hwa	甕器	옹기	Onggi Jar	1998		H62×MD38×D60×BD34	公益財団法人滋賀県陶芸の森
73	裴 泳和 (배·영·화·파)	배영화	BAE, Young hwa	甕器	옹기	Onggi Jar	1998		H39×MD32×D38.4×BD9	同上
74	劉 炳豪 (유·병·호·юн)	유병호	YOO, Byung ho	粉青象嵌印文立壺	분청상감인문입호	Jar, Buncheon ware with Stamped and Inlaid Design	2001		H77.5×MD32.0×D50.0	岐阜県現代陶芸美術館
75	劉 炳豪 (유·병·호·юн)	유병호	YOO, Byung ho	粉青象嵌印花文花瓶大鉢	분청상감인화문꽃모양대접	Large Bowl, Buncheon ware with Stamped and Inlaid Design	2001		H8.2×D58.5	同上
76	尹 柱哲 (윤·주·철·юн)	윤주철	YUN, Ju cheol	花器	화병	Vase	2005		各H25×D25×W25	同上
77	李 寶那 (이·보·나·나)	이보나	LEE, Bo na	盤	반	Tray	2021		H13.0×D48.5×BD30.3	個人蔵
78	李 寶那 (이·보·나·나)	이보나	LEE, Bo na	合子(白)	합자(白)	Covered Box (White)	2015		H6.5×D20.5 H6.0×D18.5 H6.4×D16.2	個人蔵
79	李 寶那 (이·보·나·나)	이보나	LEE, Bo na	合子(黒)	합자(黒)	Covered Box (Black)	2015		H7.5×D15.5 H5.5×D13.8 H6.2×D13.0 H4.5×D8.0	個人蔵

No.	作者名または器物名	기물명/작가명	Artist or Object name	作品名	작품명	Title	制作年 / 제작년도	Production year	サイズ size (cm) 高さ(H)×口径(MD)×幅(W)×最大径・奥行(D)×底径(BD)	所蔵先/소장처
-----	-----------	---------	-----------------------	-----	-----	-------	------------	-----------------	---	---------

第2章 「中」：關係性-物と空間、絵画と立体、韓国と他国 / '中 : 관계성'—물건과 공간, 평면과 입체, 한국과 타국

80	李 禹煥 (イ・ウファン)	이우환	LEE, U fan	黙 1	묵1	Silently 1	2006		リトグラフ H91.0×W110.0	滋賀県立美術館
81	李 禹煥 (イ・ウファン)	이우환	LEE, U fan	黙 2	묵2	Silently 2	2006		リトグラフ H92.0×W110.0	同上
82	李 禹煥 (イ・ウファン)	이우환	LEE, U fan	黙 3	묵3	Silently 3	2006		リトグラフ H92.0×W110.0	同上
83	李 禹煥 (イ・ウファン)	이우환	LEE, U fan	黙 4	묵4	Silently 4	2006		リトグラフ H118.0×W100.0×D5.0	同上
84	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(13)			2018		H65.5×W57.5	個人蔵
85	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(14)			2018		H70×W57	MUSEUM 李朝
86	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(15)			2018		H98.5×W84	同上
87	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(16) (11月6日まで展示)			2018		H84×W69	個人蔵
88	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(17) (11月6日まで展示)			2018		H57×W113.5	個人蔵
89	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_Kyoto(18)			2018		H84×W79	個人蔵
90	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_092502 (11月8日より展示)			2022		H60.0×W56.0	個人蔵
91	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_100601 (11月8日より展示)			2022		H61.0×W56.2	個人蔵
92	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_100502 (11月8日より展示)			2022		H61.0×W57.0	個人蔵
93	李 承熙 (イ・スンヒ)	이승희	LEE, Seung hee	Tao_093001 (11月8日より展示)			2022		H56.0×W47.0	個人蔵

第3章 「動」-動きの中で浮かび上がるアイデンティティ/'動'- 움직임 속에서 떠오르는 정체성

95	元 慶煥 (ウォン・ギョングァ)	원경환	WON, Kyung hwan	Untitled 93-21	무제 93-21		1993		H26.0×W49.0×D11.0	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
96	元 慶煥 (ウォン・ギョングァ)	원경환	WON, Kyung hwan	Untitled 93-22	무제 93-22		1993		H23.0×W47.0×D6.0	同上
97	元 慶煥 (ウォン・ギョングァ)	원경환	WON, Kyung hwan	無題	무제	Untitled	2003		H28.3×MD37.5×BD12.3	愛知県陶磁美術館
98	元 慶煥 (ウォン・ギョングァ)	원경환	WON, Kyung hwan	地表から	지표에서부터	From the Earth Surface	1991		H1.3×W1100.0×W290.0 インスタレーション Installation	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
99	禹 寬塚 (ウ・グァンホ)	우관호	WOO, Kwang ho	一万個のプレゼント	일만개의 선물	Ten-thousand Pieces of Gift	2014		H59.0×W59.0×D5.0 (アクリルケースのサイズ)	同上
100	禹 寬塚 (ウ・グァンホ)	우관호	WOO, Kwang ho	欲望	욕망	Desire	2004		H40×W18.4	愛知県陶磁美術館
101	禹 寬塚 (ウ・グァンホ)	우관호	WOO, Kwang ho	myth-remember			2016		H30.0×W70.0 (額入り)H40.0×W80.0	杉山道夫
102	林 美岡 (イム・ミカン)	임미강	LIM, Mi kang	平日の散歩	평일의 산책	Going out on a weekday	1993		H54.0×W41.0×D15.0	公益財団法人滋賀県陶芸の森
103	林 美岡 (イム・ミカン)	임미강	LIM, Mi kang	邂逅	해후	Reunion	2015		左 L: H86.0×W45.7×D14.3 中央 M: H93.0×W37.8×D18.0 右 R: H69.0×W37.5×D14.5	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
104	林 美岡 (イム・ミカン)	임미강	LIM, Mi kang	Contemplation			2006		painting: H130×W85×D2.5 sculpture: H120×W45×D20	個人蔵
105	金 鉉淑 (キム・ヒョンスク)	김현숙	KIM, Hyun suk	Code 4509003220901			2022		H5.0×W150.0×D90.0	個人蔵


No.	作者名または器物名	기물명/작가명	Artist or Object name	作品名	작품명	Title	制作年/ 제작년도	Production year	サイズ size (cm) 高さ(H)×口径(MD)×幅(W)×最大径・奥行(D)×底径(BD)	所蔵先/소장처
106	金 鉉淑 (김·히요 nung)	김현숙	KIM, Hyun suk	Code 4509003220902			2022		H5.0×W150.0×D90.0	個人蔵
107	金 鉉淑 (김·히요 nung)	김현숙	KIM, Hyun suk	Local Food (Ceramic) Koayu_4909003220901			2022		H5.0×W50.0×D40.0	個人蔵
108	金 鉉淑 (김·히요 nung)	김현숙	KIM, Hyun suk	Local Food (Ceramic) Corn_4909003220902			2022		H5.0×W50.0×D40.0	個人蔵
109	金 鉉淑 (김·히요 nung)	김현숙	KIM, Hyun suk	Local Food (Ceramic) Anchovy_4909003220903			2022		H5.0×W50.0×D40.0	個人蔵
110	呂 宣九 (요·순구 g)	여선구	YUH, Sun koo	瞳の世界	눈들의 세계	World of Eyes	2018		H172.0×W65.0×D60.0	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
111	玄 尚哲 (히요·산 철)	현상철	HYUN, Sang chul	Soliloquy-獨白(粒子と波動の二重性)	Soliloquy-獨백(입자와 파동의 이중성)	Soliloquy-by oneself (wave - particle duality)	2020		W100×D100×H120	個人蔵

第4章 「静中動をこえて: いま、ここ」 - 同時代の動きの中で/ 제4장 '靜中動을 넘어: 지금 여기' - 동시대의 움직임 속에서

112	趙 光勳 (초우·광훈)	조광훈	CHO, Kwang hun	冥想家	명상가	Meditateor	2018		H95.0×W65.5×D60.0	滋賀県立陶芸の森 陶芸館
113	河 明求 (하·미요 ng)	하명구	HA, Myoung goo	幸せな虎さん	행복한 호랑이	Happy Tiger	2021		H21.0×W25.0×D17.0	個人蔵
114	河 明求 (하·미요 ng)	하명구	HA, Myoung goo	Magic Tanuki			2022		H60.0×W36.0×D36.0	個人蔵
115	河 明求 (하·미요 ng)	하명구	HA, Myoung goo	Haechi			2022		左 L: H25.0×W38.4×D25.0 右 R: H24.0×W42.6×D29.0	個人蔵
116	河 明求 (하·미요 ng)	하명구	HA, Myoung goo	明器 2022			2022		man: H35.0×W20.0×D17.0 woman: H33.0×W16.6×D12.6	個人蔵
117	河 明求 (하·미요 ng)	하명구	HA, Myoung goo	Haechi_White			2022		S: H21.8×W12.8×D10.6 L: H22.6×W13.0×D11.2	個人蔵
118	李 琬姫 (이·운 희)	이윤희	LEE, Yun hee	La divina commedia			2022		各 H15.0×W29.0×D33.0 (7 pieces) 인스태레이션 Installation	個人蔵
119	李 琬姫 (이·운 희)	이윤희	LEE, Yun hee	La divina commedia			2022		H75×W33×D33	個人蔵
120	裴 世眞 (배·세 진)	배세진	BAE, Se jin	Waiting for Godot 324426-325556			2022		W23×D23×H18	個人蔵
121	裴 世眞 (배·세 진)	배세진	BAE, Se jin	Waiting for Godot 332385-333295			2022		W19×D19×H22	個人蔵
122	裴 世眞 (배·세 진)	배세진	BAE, Se jin	Waiting for Godot 330443-330975			2022		W8.5×D8.5×H25	個人蔵
123	裴 世眞 (배·세 진)	배세진	BAE, Se jin	Waiting for Godot 338443-338490			2022		W73.0×D5.0×H93.0	個人蔵
124	裴 相順 (배·상 순)	배상순	BAE, Sang sun	Five senses			2022		Jesso on velvet W220×H92cm	個人蔵
125	裴 相順 (배·상 순)	배상순	BAE, Sang sun	Monkey's first _5			2008		Charcoal and ink on canvas W148×H170.3	個人蔵
126	裴 相順 (배·상 순)	배상순	BAE, Sang sun	The Chandelier 5			2018		写真 (Archval pigment print) W130.0×H160.0	個人蔵
127-1	松井 利夫 (마츠이 토시오)	마츠이 토시오	Matsui, Toshio	タコツボ漁キット			2010		H27.0×MD14.0×D17.0× BD11.0	個人蔵
127-2	裴 泳和 (배·영 화)	배영화	BAE, Young hwa	タコツボ			2010		H20.2×MD13.0×D16.0× BD13.3	個人蔵

陶芸館ギャラリーで特別上映

Special screening edited video

No.	Artist	Film Title	フィルム名	Contents	内容	Image Cut 作品画像	Screening 上映予定
1	Marty Gross (マーティ・グロス)	THE WORKING PROCESSES OF THE KOREAN FOLK POTTER	韓国の陶工作業工程	Edited from film footage by Professor Ron Dubois 60 minutes, narration by potter Bae Yeonshik, Korean with English and Japanese subtitles Shows the stages of making Onggi storage jars in Seoul and in two small villages.	上映時間：60分 解説：ベヨンシク日本語字幕付き ソウルと地方でのオンギづくりを紹介		11月11日から陶芸館ギャラリーで上映 Screening Schedule : 11 November- 18 December, 2022

『「静中勳:韓国のスピリットをたどる-開かれた陶のアーサー」展』
2022年9月17日(土)~12月18日(日)

■【アンケート集計結果】

入館者数	7,159人		
回答者数	124人		
回答率	1.7%		
住 所	北海道・東北	1人	1%
	関東・甲信越	0人	0%
	首都圏	3人	2%
	北陸	0人	0%
	東海	8人	7%
	滋賀県	68人	56%
	京阪神	34人	28%
	奈良・和歌山	4人	3%
	中国	0人	0%
	四国	0人	0%
	九州・沖縄	0人	0%
	無回答	4人	3%
	展覧会評価	大変満足	56人
満足		46人	37%
普通		14人	11%
やや不満		3人	2%
不満		1人	1%
無回答		4人	3%
再来館したいと 思いますか	思う	113人	91%
	思わない	4人	3%
	無回答	7人	6%
信楽に来た目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	69人	52%
	陶芸の森のイベント	9人	7%
	町内のイベント	0人	0%
	陶器の購入	4人	3%
	旅行社ツアー	0人	0%
	MIHO MUSEUM	6人	5%
	学校行事	17人	13%
	その他	22人	17%
	無回答	6人	5%

ちよつと昔の日本を旅しよう！
特別企画展 湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの

■趣 旨

お茶でほっと一息つきたいそんな時に手にする「湯呑茶碗」は、私たち日本人に最も親しみのある〈やきもの〉のひとつです。とくに個人用として楽しまれてきた「湯呑茶碗」や「夫婦茶碗」の存在は、日本人独特の生活文化を象徴するモノといえるでしょう。

「湯呑茶碗」のはじまりは江戸時代後期、文化年間（1804-1818）末頃と考えられています。当時の風俗を記した『守貞謾稿』によれば、飯茶碗などほかの茶碗と区別するため、お茶を飲むやや小振りで縦長の個人専用の茶碗を、「湯飲（ゆのみ）」と呼び分けたようです。その後、昭和時代前期にかけて飲茶や行楽の大衆化とともに定着してゆきました。

なかでも日本各地の名勝や旧蹟を意匠にした、地域性豊かな「湯呑茶碗」は土産物として好評を博したようです。本展では明治時代末から昭和時代前期に蒐集された〈坂口恭逸湯呑コレクション〉から、旅の思い出として愛用されてきた「湯呑茶碗」を各地の銘菓や近江特産のお茶とともに紹介、ちよつと昔の旅気分をお楽しみ戴きました。

■内 容 明治時代末期から昭和時代前期の湯呑茶碗、265 件を展示

■会 期 令和5年（2023年）3月11日（土）～3月31日（金）18日間（令和5年度に継続）

*休館日 毎週月曜日

■主 催 滋賀県立陶芸の森

■後 援 滋賀県教育委員会、甲賀市、NHK 大津放送局、京都新聞

■協 力 一般社団法人滋賀県茶業会議所 信楽 窯元散策路 Wa 京セラ株式会社

■観 覧 料 一 般 550 円（440 円）、高大生 410 円（330 円）、中学生以下無料

*（ ）内は 20 人以上の団体料金

■入場者数 1,024 人（1 日平均 57 人） *全会期 5,981 人（1 日平均 65 人）

■展覧会図録 『THE YUNOMI 湯呑茶碗—ちよつと昔の、日本縦断旅』

〔サイズ〕 縦 20×横 22（cm） 252 項

〔内 容〕 坂口湯呑茶碗コレクションについて／目次／ごあいさつ／

湯呑茶碗で日本縦断旅—大正・昭和の湯呑から見えること

（大槻倫子）／図版・解説／作品リスト／参考文献／索引

■関連企画・連携事業

(1) ギャラリートーク—学芸員による展示解説

〔日 時〕 3月19日（日） 13:30～14:30 〔参加者〕 20人

(2) 親子向け特別講座 旅の思い出を込めた湯呑茶碗づくり

〔日 時〕 3月18日（土） 10:00～15:00 午前と午後の2部制 〔参加者〕 32人

〔場所〕 陶芸の森 信楽産業展示館 創作室

(3) 近江の銘茶を楽しむ（滋賀県茶業会議所との連携）

① 特別展示 近江茶の歴史・種類・産地・製法・美味しい淹れ方を紹介。

② 賞味会 滋賀県茶業会議所主催で「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」の賞味会を開催。

〔日 時〕 3月25日（土）、26日（日） 10:00～15:00

(4) 訪ねてみよう！信楽の窯元―第16回ぶらり窯元めぐり（信楽窯元散策路との連携）

会期中、窯元散策路の見所をビデオやパネル、また湯呑茶碗（協賛出品）で紹介。

(5) ショップ企画販売

会期中、近江の名茶「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」、県産丹波黒豆使用菓子の販売。

■掲載記事・紹介番組等

(1) テレビ・ラジオ

3月15日（水） あいコムこうか「まちかどKOKA」-3月17日（金）まで随時

*取材対応

(2) 新聞関係

3月14日（火） 「朝日新聞夕刊 美術館・博物館」朝日新聞メディアプロダクション

(3) 専門誌・雑誌など

2月25日（土） 観光ガイド「電車&ウォーク3月号」JR西日本（陸風社）

3月1日（水） 「おうみの風62号」全国滋賀県人会連合会

3月25日（火） 「甲賀フリモ3月号 EVENT NEWS」株式会社中広

(4) インターネット抜粋

陶芸館展覧会（陶芸の森）／陶芸の森ツイッター／陶芸の森フェイスブック／JR西日本お
でかけガイド／株式会社リクルートじゃらんnet／Leaf最新号WEBマガジンMKYOTO（リー
フ・パブリケーションズ）／食のうつわジャーナル（あまから手帖 watobi）／ Tokyo Art
Beat（株式会社アートビート）／zakzak（産経デジタル）／ウォーカープラス（KADOKAWA）／
CERAPHIC（京セラ株式会社）／アイエム（株式会社丹青社）／ 京都発大龍堂通信（大龍
堂書店）／全国のおすすめ展覧会100（ケイティコム）／ ニコニコニュース（ダウンゴ）
／骨董品・古美術ネット（骨董品・古美術ネット）／ MusCa（株式会社B#）／エンカレッ
ジ・クラブ（個人ブログ）／個展なび（株式会社 個展なび）／ライブドアニュース（株
式会社ライブドア）

(5) その他

3月11日（火）報道機関向け事前説明会 13:30~15:00

参加報道機関 1社2人（あいコムこうか）

■アンケート集計結果（別紙）

■作品リスト 「湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの」

<Section 1> 北海道

No.	産地・窯号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
1	石狩焼 石狩陶園 (石狩窯園)	鉄絵鉄絵松葉文共蓋湯呑茶碗	昭和前期制作	総高9.3×口径6.8×底径3.9×最大径7.4		1	鉄絵銘「石狩古代」	北海道江別市
2	石狩焼 石狩陶園 (石狩窯園)	白泥鉄絵山水文共蓋湯呑茶碗	昭和前期制作	総高9.0×口径6.8×底径3.6×最大径7.2		1	鉄絵銘「石狩古代」	同上
3	石狩焼 石狩陶園 (石狩窯園)	染付鉄絵文共蓋湯呑茶碗	昭和前期制作	総高10.8×口径7.1×底径4.6×最大径7.7		1	染付銘「石狩」、共箱	同上
4	石狩焼 石狩陶園 (石狩窯園)	染付鉄絵文共蓋湯呑茶碗	昭和前期制作	総高9.6×口径7.0×底径4.7×最大径7.2		1	印刻銘「石狩」	同上
5	余別焼 余別窯	鉄絵匂入り湯呑茶碗	1925-1926/ 大正14-昭和元	総高5.7×口径6.0×底径3.4		1	染付銘「余別とぞやき」	北海道釧路市釧路町

<Section 2> 東北地方

No.	産地・窯号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
6	岩手焼 岩手焼合資会社	朱泥色絵岩手山園湯呑茶碗	c.1929/昭和4年頃	総高6.7×口径6.4×底径4.4		1	印刻銘「岩手焼」	岩手県盛岡市
7	岩手焼 岩手焼合資会社	朱泥陸奥山水園共蓋湯呑茶碗	c.1929/昭和4年頃	総高7.6×口径7.2×底径4.8		1	印刻銘「岩手焼」	同上
8	台焼 杉村貞介	染付風雲園共蓋湯呑茶碗	1937-1945/ 昭和12-昭和20	総高8.2×口径6.5×底径3.5×最大径6.7		1	染付銘「雲」	岩手県花巻市
9	大正切込焼 製作者不明	染付胡蝶草文字入り湯呑茶碗	1920-1922/ 大正9-大正11	総高7.7×口径6.8×底径4.7		1	染付銘「切込」	宮城県加美郡加美町
10	秋田焼 初代または二代 奥田道遊	白泥彫刻茶園文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高6.8×口径7.0×底径4.0		1	印刻銘「秋田焼」「道遊」	秋田県秋田市
11	平清水焼 (千段焼) 清龍堂・丹羽健之介	鉄絵湯呑茶碗	大正-昭和初期	総高6.9×口径7.9×底径4.8		1	印刻銘「龍」	山形県山形市
12	平清水焼 (千段焼) 清龍堂・丹羽健之介	揉雲湯呑茶碗	大正-昭和初期	総高6.8×口径7.1×底径4.0		1	印刻銘「龍」	山形県山形市
13	相馬駒焼 十三代 田代清右衛門	鉄絵駒園湯呑茶碗	昭和前期	総高6.7×口径7.1×底径4.8		1	印刻銘「田代」「法橋」、共箱、ラベル「相馬駒焼」	福島県相馬市
14	相馬駒焼 十三代 田代清右衛門	鉄絵駒園湯呑茶碗	昭和前期	総高7.3×口径7.4×底径4.8		1	印刻銘「田代」「法橋」	福島県相馬市
15	会津本野焼 耕山窯・田畑耕一	染付唐文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高6.5×口径6.9×底径4.0		1	染付銘「耕山」	福島県大沼郡会津美里町



















<Section 3> 関東地方

No.	産地・窯号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
16	盐子焼	鉄絵綾文湯呑茶碗	1947-1954/ 昭和22-昭和39	総高8.7×口径7.9×底径4.7		1	無銘、ラベル	栃木県芳賀郡盐子町
17	盐子焼 濱田庄司	塩粒陸奥山園湯呑茶碗	昭和前期	総高8.8×口径8.0×底径5.0		1	無銘	同上
18	盐子焼 (まやど焼) 見目貞彦・見目喜一郎	鉄絵白波掛付湯呑茶碗	昭和前期	総高7.5×口径7.7×底径4.7		1	無銘、器面にさやど焼シール	同上
19	浦花焼 狸庵東洲	白泥焼名山文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高5.4×口径5.8×底径3.3		1	金彩銘「いかほ」	群馬県渋川市
20	水戸信楽園焼	精刻梅寒牡丹文匂入り湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高7.2×口径6.5×底径5.0		1	印刻銘「信楽」、色絵銘「信楽園」	茨城県水戸市
21	水戸信楽園焼	倉岩匂入り湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高6.5×口径6.1×5.7×底径3.3		1	印刻銘「信楽」、色絵銘「信楽」	同上
22	大野 鋭阿	信楽写刺高台湯呑茶碗	1917-1934/ 大正6-昭和9	総高8.1×口径7.9×7.1×底径5.6		1	印刻銘「鋭」、共箱	東京都目黒区
23	黒田川焼 (百花園焼)	草花文茶碗湯呑茶碗	1912-1938/ 大正元-昭和13	総高7.1×口径6.9×底径4.4		1	印刻銘「百花園」	東京都墨田区
24	墨田窯 三代 井上良斎	倉岩仁清釉湯呑茶碗	大正3-昭和前期	総高8.0×口径8.1×底径5.3		1	印刻銘「良斎」	神奈川県横浜市南区
25	眞葛焼 眞葛窯・二代または三代 宮川香山	青草山水園共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	大-総高8.2×口径7.5×底径4.5 小-総高7.3×口径6.9×底径4.2		2	染付銘「眞葛香山作」	同上
26	眞葛焼 眞葛窯・二代または三代 宮川香山	釉下彩三福人園湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 8.0×口径 7.7×底径 4.5		1	染付銘「眞葛」、共箱	同上
27	花月園焼 制作者不明	松絵茶碗湯呑茶碗	1914-1946/ 大正3-昭和21	総高5.9×口径6.8×底径4.2		1	上絵銘「泰平楽」「つるみ花月園」	神奈川県横浜市鶴見区
28	めいさよう堂 古仙	染付独座大雄峰文字湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 7.3×口径 7.9×底径 3.8		1	印刻銘「古仙」	神奈川県南足柄市

<Section 4> 信越地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (特・付属資料ほか)	所在地
29	無名真流 常山窯・三代 三浦常山	朱泥陰刻山水園湯香茶碗	1912-1929/ 大正元 - 昭和4	総高6.6×口径6.5×底径4.6		1	刻銘「翠雨軒常山」	新潟県佐渡市
30	無名真流 常山窯・三代 三浦常山	朱泥陰刻梅花園湯香茶碗	1912-1929/ 大正元 - 昭和4	総高6.7×口径6.3×底径4.4		1	印刻銘「三世常山」、共箱	同上
31	無名真流 赤水窯・三代 伊藤赤水	朱泥陰刻梅花園湯香茶碗	c.1931/昭和6年頃	総高6.5×口径6.5×底径4.9		1	印刻銘 佐渡金銀山無名真作「赤水」	「以」 同上
32	大宝焼 坂本次郎松	染付老松文湯香茶碗	1913 - 1925/ 大正2 - 大正14	総高6.2×口径6.5×底径3.4		1	印刻銘「大宝」	新潟県新潟市
33	太兵衛	染付舟字文湯香茶碗	1870 - 1892/ 明治3 - 明治25	総高6.7×口径7.6×底径4.8		1	印刻銘「太兵衛」	新潟市北区
34	尾林焼 清水信堂	篆刻文字入共蓋湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 8.6×口径 6.8×底径 3.4×最大径 7.0		1	篆刻銘「信堂？」	長野県坂田町
35	天竜焼 木下卓斎	銀象嵌文字入共蓋湯香茶碗	1929/昭和4	総高 8.4×口径 6.5×底径 3.5×最大径 6.7		1	銀象嵌銘「己巳晩秋天龍映谷卓斎銀欠刀」、印刻銘「呂水？」	長野県坂田町
36	天竜焼 中村昇堂	篆刻天龍映谷文字入共蓋湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 9.0×口径 6.5×底径 3.7×最大径 7.0		1	篆刻銘あり (判読不能)	同上
37	白泥焼 白泥焼窯元	白泥篆刻文字入り湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 6.7×口径 6.8×底径 3.5		1	刻銘あり	長野県長野市
38	女鳥羽焼 旗田鉄石	陰刻金泥常念岳文湯香茶碗	昭和前期	総高 6.3×口径 5.9×底径 3.4		1	印刻銘「鉄石」	長野県松本市
39	應永	精刻遼陽園湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高7.2×口径7.1×底径3.4		1	刻銘「應永作之」、ラベル	長野県伊那市
40	上高地焼	上高地風景茶湯香茶碗	昭和前期	総高 6.6×口径 6.5×底径 4.2		1	印刻銘「上高地」	長野県松本市

<Section 5> 北陸地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (特・付属資料ほか)	所在地
41	大越焼 九代 大越長左衛門	黄梨湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 7.2×口径 9.9×底径 4.6		1	印刻銘「大越」、共箱	石川県金沢市
42	大越焼 勘喜・二代 加藤長寿	赤梨湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 6.6×口径 6.1×底径 4.0		1	印刻銘「長寿」、共箱	同上
43	大越焼 勘喜・松村翠山	精刻山水園湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高6.8×口径6.3×底径3.8		1	印刻銘「大越」	同上
44	初代陽文七	幽焼湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高9.1×口径7.9×底径4.9		1	印刻銘「春日山」	同上
45	九谷焼 法島窯・二代 和澤合山	染付祥瑞写山水文共蓋湯香茶碗	1919 - 1925/ 大正8 - 大正14	総高 10.3×口径 6.3×底径 3.5×最大径 6.8		1	染付銘「九谷 合山道」	同上
46	九谷焼 初代 石野龜山	夏絵染付山水園共蓋湯香茶碗	1912 - 1936/ 大正元 - 昭和11	総高 8.9×口径 6.9×底径 3.5×最大径 7.1		1	絵下彩銘「龜山」	同上
47	九谷焼 初代 石野龜山	夏絵染付山水園共蓋夫婦湯香茶碗	1912 - 1936/ 大正元 - 昭和11	大 : 総高 9.5×口径 6.7×底径 3.2×最大径 7.0 小 : 総高 8.8×口径 6.1×底径 3.1×最大径 6.6		2	絵下彩銘「龜山」	同上
48	九谷焼 登谷窯・富田忠水	赤絵秋草文白形湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 7.4×口径 6.5×底径 4.0		1	上絵銘「意匠登録第六八六八三」、共箱	同上
49	九谷焼 寺前商店・島谷清二	赤絵錦雞文湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 7.2×口径 6.8×底径 4.3		1	上絵銘「九谷」	石川県加賀市
50	九谷焼 光仙窯・利岡光仙	引毛目波にネズミ無高台湯香茶碗	c.1936/昭和11年頃	総高 7.8×口径 5.9×底径 4.4		1	印刻銘「光仙」	石川県金沢市
51	九谷焼 梶谷竹橋	赤絵金彩描着玉取獅子文共蓋湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 9.3×口径 6.1×底径 3.2×最大径 6.8		1	上絵銘「九谷竹橋」	石川県加賀市
52	九谷焼 永寿窯・矢口永壽	染付祥瑞写山水文湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 8.8×口径 7.5×底径 5.3		1	染付銘「九谷永壽」	同上
53	九谷焼 徳田八十吉・初代 徳田八十吉	青手九谷山水園共蓋湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 10.4×口径 6.4×底径 4.1×最大径 7.3		1	上絵銘「九谷八十吉」	石川県小松市
54	九谷焼	色絵人物文湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高8.7×口径7.0×底径3.8		1	色絵銘「九谷」	
55	永平寺焼 制作者不明	陰刻松文湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 6.0×口径 6.7×底径 3.4		1	無銘	福井県若狭郡永平寺町?
56	稲田焼 鈴木彦右衛門	色絵遼陽大師園湯香茶碗	1912 - 1933/ 大正元 - 昭和8	総高 8.0×口径 6.5×底径 3.8		1	上絵銘「稲田 五成山人」	福井県丹生郡越前町
57	戸原焼 初代久世天聲	色絵草花文湯香茶碗	大正3 - 昭和前期	総高 7.8×口径 6.8×底径 4.4		1	印刻銘「戸原」	福井県あわら市
58	宇奈月焼 藤田松山	陰絵湯香茶碗	大正 - 昭和前期	総高 7.0×口径 6.6×底径 6.0		1	印刻銘「松山」	富山県黒部市

<Section 6> 東海地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
59	浪草焼 芳園會・松山吉一	染付梅蘭山水文共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 8.0×口径 6.2×底径 3.8×最大径 7.2		1	染付銘「志布岬 芳園會」	岐阜県高山市
60	美濃焼 圓山窯・加藤圓山	染付梅花流水文共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.0×口径 6.5×底径 3.6×最大径 7.0		1	印刻銘「圓山」	岐阜県多治見市
61	岐阜県陶磁資料館 (現岐阜県セラミクス研究所)	緑文湯呑茶碗	1935-1940/ 昭和10-昭和15	総高8.0×口径6.5×底径4.6		1	高台ラベル 「枝TAJIMI・GIFUKEN NIPPON」	同上
62	美濃焼 東佐右衛門	染付メートル法便覧湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 6.5×口径 6.6×底径 4.6		1	無銘	同上
63	磁器焼 石橋窯・森本積七	色繪草花文湯呑茶碗	1945-1955/ 昭和20-昭和30	総高7.2×口径6.8×底径4.3		2	印刻銘「積七」、共箱	岐阜県中津川市
64	金草山焼 福田旭水	辰砂粒鬼貼付文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 6.9×口径 7.3×底径 4.7		1	印刻銘「金草山」	岐阜県岐阜市
65	千波焼 千波窯・林見三	鉄粉面取共蓋湯呑茶碗	1915-1940/ 大正4-昭和15	総高 7.8×口径 5.6×底径 3.8×最大径 6.1		1	印刻銘「千波」	岐阜県岐阜市
66	温故焼 四代 清水温故	朱泥千字文共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 9.0×口径 7.1×底径 4.4×最大径 7.7		2	印刻銘 双線に「温故」	岐阜県大垣市
67	温故焼 清水石峯	色繪金彩山水文共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高8.3×口径5.8×底径3.5×最大径5.1		1	印刻銘「石峯」、共箱	岐阜県
68	養老焼 小野新吉	手捻り湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 6.4×口径 5.6×底径 3.3		1	印刻銘「養老」	岐阜県養老郡養老町
69	轉香焼 関枯土工塲所	白濁絵湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高7.7×口径7.7×8.5×底径4.3		1	印刻銘「あきくら」	岐阜県関市
70	鉄磁焼 (復原品) 初代 青島焦山または二代 青島秀山	白釉龍目湯呑茶碗	明治末期-昭和前期	総高6.8×口径8.7×底径5.5		1	印刻銘あり (割捨不能)	静岡県静岡市葵区
71	鉄磁焼 (復原品) 初代 青島焦山または二代 青島秀山	鉄繪波文湯呑茶碗	明治末期-昭和前期	総高6.2×口径6.7×底径3.7		2	印刻銘「鉄磁?」	同上
72	志戸呂焼 鈴木幸吉	灰絵へこみ湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高7.4×口径8.0×底径5.2		1	印刻銘「志戸呂」	静岡県島田市
73	森山焼 中村秀吉	灰絵湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高7.0×口径7.5×底径4.5		1	印刻銘「森山」	静岡県岡部郡森町
74	伊東楽焼 三津前常景	黒刺富士山文楽湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 6.9×口径 6.7×底径 4.2		1	刻銘「米山作」	静岡県伊東市
75	瀬戸焼 古瀬戸窯・三代 加藤作助	磁器写共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高9.4×口径7.6×底径4.6×最大径7.8		1	印刻銘「作介」	愛知県瀬戸市
76	瀬戸焼 加藤楽焼	古瀬戸粉湯呑茶碗	明治末期-昭和前期	総高7.9×口径6.6×底径4.4		1	印刻銘「美鏡」	同上
77	瀬戸焼 陶丘堂 有戸窯・二代 加藤文助	黄瀬戸菊文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 7.2×口径 6.5×底径 4.3		1	印刻銘「文助造」、共箱、共布	同上
78	瀬戸焼 加藤青山	緑志野八重文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高9.1×口径8.4×底径5.4		1	印刻銘「青山」	同上
79	瀬戸焼 深川園・加藤辰造	志野薄文共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高10.6×口径8.6×底径4.5×最大径8.9		1	鉄絵銘「辰造」	同上
80	瀬戸焼 葵窯・ 加藤春二 (十三世 竹黒庵)	別鳴目共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 11.2×口径 8.6×底径 6.0×最大径 9.4		1	無銘、共箱	同上
81	瀬戸焼 九秋園・初代 矢野陶々	青絵松竹梅文湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.3×口径 6.7×底径 4.3		1	印刻銘「陶々」	同上
82	瀬戸焼 丹馬窯・河本暖亭	染付佳器文字入り湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 6.9×口径 6.7×底径 4.2		1	染付銘「暖亭」、共箱	同上
83	犬山焼	染付龍目文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 7.8×口径 7.3 ×底径 4.6		1	印刻銘「犬山」	愛知県小牧市
84	犬山焼 三代 尾関作十郎	赤絵花鳥文共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 10.0×口径 7.6×底径 4.6×最大径 8.3		1	無銘	愛知県犬山市
85	犬山焼 制作者不明	色繪石上好祭文湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 7.9×口径 7.6×底径 4.1		1	印刻銘「犬山」	同上
86	不二見焼 三世 不二山人	夢文字入り白釉湯呑茶碗	昭和前期	総高6.5×口径7.7×底径3.7		1	刻銘「不二」	愛知県名古屋市中区
87	葵焼 竹本作二郎	鉄絵湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 7.0×口径 6.4×底径 3.5		1	印刻銘「葵」	愛知県岡崎市
88	染付焼 三浦月庵	色繪地獄絵園共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高10.0×口径8.0×底径5.0×最大径9.0		1	色繪銘「月庵筆」	同上
89	常滑焼 山七窯・渡辺七左衛門	藤樹共蓋湯呑茶碗	大正-昭和前期	総高 8.3×口径 7.1×底径 4.0×最大径 7.7		1	印刻銘「七左」	愛知県常滑市
90	常滑焼 山田常山・二代 山田常山	朱泥精刻松文共蓋湯呑茶碗	1912-1942/ 大正元-昭和17	総高 7.5×口径 6.6×底径 4.2×最大径 6.9		1	印刻銘「小常山」	同上
91	阿波焼 福森門二	色繪海老図共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.5×口径 5.1×底径 3.8×最大径 6.6		1	印刻銘「阿波」	三重県津市

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (注・付属資料ほか)	所在地
92	阿瀬焼 播磨門二	鉄絵波千鳥文湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.4 × 口径 5.9 × 底径 5.1		1	印刻銘「阿瀬」	三重県津市
93	萬古焼阿瀬焼 制作者不明	色絵鳥山水文湯呑茶碗	大正 - 昭和前期	総高 10.4 × 口径 10.0 × 底径 5.7		1	印刻銘「萬古」	三重県四日市市
94	萬古焼 制作者不明	共泥共蓋湯呑茶碗	大正 - 昭和前期	総高 8.1 × 口径 6.7 × 底径 4.0 × 最大径 7.6		1	無銘	同上
95	萬古焼 陶好園・出岡白山	共泥千字刺文共蓋湯呑茶碗	大正 - 昭和前期	総高 9.0 × 口径 7.2 × 底径 4.9 × 最大径 7.7		1	印刻銘「白山製」	同上
96	萬古焼 眞生製陶所	鉄絵白磁草文共蓋湯呑茶碗	大正 - 昭和前期	総高 9.9 × 口径 6.9 × 底径 3.7 × 最大径 7.1		1	印刻銘「眞生」	同上
97	松阪萬古 松古窯・三代 佐久間芳興	色絵本居長文共蓋湯呑茶碗	大正 3 - 昭和前期	総高 9.4 × 口径 6.5 × 底径 4.4 × 最大径 7.2		1	印刻銘「松阪萬古」	三重県松阪市
98	松阪萬古 松古窯・三代 佐久間芳興	色絵古錦文共蓋湯呑茶碗	大正 3 - 昭和前期	総高 13.8 × 口径 8.5 × 底径 5.7 × 最大径 9.2		1	印刻銘「松阪萬古」	同上
99	美鈴焼 中西真七	色絵風俗図共蓋湯呑茶碗	大正 - 昭和前期	総高 9.2 × 口径 6.2 × 底径 4.3 × 最大径 6.6		1	印刻銘「美鈴焼」、共箱	同上
100	神路山焼 持山宇之坊	色絵伊勢音頭図湯呑茶碗	明治末期 - 昭和前期	総高 8.3 × 口径 6.9 × 底径 4.7		1	印刻銘「神路山」	三重県伊勢市
101	二見焼 (石山焼) 二代 清水石仙	朱泥陰刺道扇図共蓋湯呑茶碗	明治末期 - 昭和 2	総高 9.2 × 口径 6.8 × 底径 4.3 × 最大径 6.9		1	印刻銘「石山」	同上
102	眞山焼 酒月庵・初代 宮田貞翁	別毛目共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.9 × 口径 6.5 × 底径 4.0 × 最大径 7.5		1	印刻銘「眞山」	三重県三重郡菟野町
103	伊賀焼 土表窯・五代 福森土表	焼締共蓋湯呑茶碗	明治末期 - 大正期	総高 11.4 × 口径 8.0 × 底径 5.4 × 最大径 8.5		1	印刻銘「いが土表」	三重県伊賀市
104	伊賀焼 名張窯・奥村真仙	焼締湯呑茶碗	1930 - 1941 / 昭和 5 - 昭和 16	総高 7.6 × 口径 6.8 × 底径 4.6		1	印刻銘「いが名張窯」	同上

<Section 7> 近畿地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (注・付属資料ほか)	所在地
105	播磨焼 古茶窯經子園・二代 上田直方	焼締匂入り共蓋湯呑茶碗	1912 - 1926 / 大正期	総高 8.9 × 口径 7.6 × 底径 4.3 × 最大径 7.6		1	刻銘「古茶窯 經子園」「直方」、共布	滋賀県甲賀市
106	播磨焼 淺野本茶	焼締共蓋湯呑茶碗	明治末期 - 昭和 12	総高 8.0 × 口径 7.0 × 底径 5.1 × 最大径 7.9		2	印刻銘「本来」	同上
107	滋賀県農業試験場 (現滋賀県工機技術総合センター-信楽窯業技術試験場)	染付草花文湯呑茶碗	1929 - 1944 / 昭和 4 昭和 19	総高 7.6 × 口径 6.7 × 底径 4.2		1	無銘	同上
108	山本陶満堂 山本陶湖	上絵大津絵文共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.0 × 口径 7.3 × 底径 4.2 × 最大径 7.7		1	赤絵印銘「陶湖」	滋賀県大津市
109	膳所焼 精楽園 岩崎健三	鉄絵湯呑茶碗	昭和前期	総高 6.9 × 口径 6.7 × 底径 3.8		1	印刻銘「せ」と、共箱	同上
110	膳所焼 精楽園 岩崎健三	色絵光琳菊文夫婦湯呑茶碗	昭和前期	大: 総高 7.1 × 口径 7.4 × 底径 4.0 小: 総高 5.8 × 口径 6.4 × 底径 3.7		2	印刻銘「せ」と、共箱	同上
111	膳所焼 精楽園 岩崎健三	色絵其文夫婦湯呑茶碗	昭和前期	大: 総高 6.9 × 口径 7.2 × 底径 3.8 小: 総高 5.7 × 口径 6.7 × 底径 3.3		2	印刻銘「せ」と	同上
112	まからずや湖東焼 菱松製陶所・三代 奥村松平	鉄絵赤絵金彩柏葉文共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 11.7 × 口径 8.6 × 底径 5.3 × 最大径 8.7		1	印刻銘「湖東」	滋賀県彦根市
113	清水焼 六代高橋道八	染付山水図共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.5 × 口径 6.5 × 底径 4.1 × 最大径 7.0		1	染付銘「善中亭道八製」	京都市東山区
114	清水焼 六兵衛窯・五代 清水六兵衛	染付梅花絵湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.7 × 口径 7.4 × 底径 5.0		1	染付銘「六兵衛」	同上
115	清水焼 六兵衛窯・五代 清水六兵衛	赤絵萬輪湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.6 × 口径 6.9 × 底径 4.3		1	染付銘「六兵衛」	同上
116	清水焼 三浦竹泉・三代 三浦竹泉	祥瑞意鶴馬九紋湯呑茶碗	1920 - 1933 / 大正 9 - 昭和 8	総高 7.5 × 口径 7.6 × 底径 4.9		1	染付銘「物異祥瑞 平安竹泉」	同上
117	清水焼 初代 海老名弥平次	染付山水文湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.5 × 口径 7.7 × 底径 4.0		1	印刻銘「弥平次」「ひねり」	同上
118	清水焼 高橋清山	色絵紅梅図共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.4 × 口径 8.5 × 底径 4.6		1	染付銘「平安 清山造」、共箱	同上
119	河合 卯之坊	弁の裏湯呑茶碗	1933 - 1966 / 昭和 8 昭和 30	総高 9.5 × 口径 6.1 × 底径 4.5		1	印刻銘「卯」、共箱	京都府向日市
120	清水焼 鐘漢窯・河井寛次郎	探妙藍絵花鳥文湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.3 × 口径 6.7 × 底径 4.7		1	無銘、共箱	京都市東山区
121	構図 弥次	染付草花文湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.8 × 口径 7.2 × 底径 3.5		1	印刻銘「彌」	同上
122	清水焼 祥瑞窯淺見五郎坊・四代 淺見五郎坊	青筋湯呑茶碗	大正 5 - 昭和前期	総高 8.6 × 口径 7.0 × 底径 4.7		1	印刻銘「五郎介」、共箱	同上
123	清水焼 永楽堂五郎・十五代 永楽堂五郎	古赤地湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.4 × 口径 6.9 × 底径 4.3 × 最大径 7.6		1	印刻銘「永楽」、共箱	同上

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (特・付属資料ほか)	所在地
124	清水焼 清風与平・四代清風与平	白磁菊垣松湯香茶碗	大正3 - 昭和前期	総高 5.7 × 口径 6.8 × 底径 3.9		1	印刻銘「清風」、共箱	同上
125	清水焼 木村二瓶子 (七代木村清山)	鉄絵イッテン文字湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 10.0 × 口径 8.5 × 底径 4.0		1	印刻銘「二瓶子」	京都市東山区
126	清水焼 木村二瓶子 (七代木村清山)	灰釉刺花草花文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 10.0 × 口径 7.7 × 底径 5.5		1	無銘	同上
127	清水焼 三西丹祐	青華意四君子文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.7 × 口径 7.7 × 底径 5.4		1	印刻銘「丹祐」、捺付銘「角仁福」、共箱	同上
128	清水焼 制作者不明	仁清写色絵銀彩梅花文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.3 × 口径 7.3 × 底径 4.4		1	印刻銘「仁清」	同上
129	商工省陶磁試験所 (現国立研究法人産業技術総合研究所)	捺付草花文湯香茶碗	1930s	総高 7.7 × 口径 7.2 × 底径 4.2		1	印刻銘「梅」	京都市伏見区
130	京都市工業研究所窯業部 (現地方独立行政法人京都市産業技術研究所)	絵下彩草花文共蓋湯香茶碗	1926 - 1936 / 大正15 - 昭和11	総高 9.1 × 口径 6.7 × 底径 2.9 × 最大径 7.2		1	印刻銘「京都市旧市章マーク」	京都市東山区
131	清水焼 雲林院寶山・十八代 雲林院寶山	捺付菱わら湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.3 × 口径 7.1 × 底径 4.5		1	印刻銘「寶山」、共箱	同上
132	栗田口焼 錦光山・ 七代または八代 錦光山宗兵衛	色絵若松絵共蓋湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.0 × 口径 6.7 × 底径 3.8 × 最大径 7.6		1	上絵銘「錦光山道」	同上
133	栗田口焼 伊東陶山・ 初代または二代 伊東陶山	花菱湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.3 × 口径 6.9 × 底径 3.9		1	印刻銘「陶山」、共箱	同上
134	宮永東山・初代 宮永東山	色絵風巖図湯香茶碗	明治末期 - 大正期	総高 6.7 × 口径 7.3 × 底径 4.4		1	印刻銘「東山」	京都市伏見区
135	朝日焼 松林光斎	白磁絵具文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.2 × 口径 7.7 × 底径 3.0		1	印刻銘「朝日」	京都府宇治市
136	朝日焼 松林光斎	刻文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.0 × 口径 7.5 × 底径 4.0		1	印刻銘「朝日」	京都府宇治市
137	笠置焼 笠松宗良三郎	色絵川下り風景文湯香茶碗	昭和前期	総高 6.0 × 口径 5.5 × 底径 3.7		1	印刻銘「笠置」	京都府相楽郡笠置町
138	笠置焼 笠松宗良三郎	色絵鳥文湯香茶碗	昭和前期	総高 6.8 × 口径 6.0 × 底径 4.3		1	印刻銘「笠置」	同上
139	不二焼 (神音焼) 後富正夫	色絵富士図湯香茶碗	1931 - 1937 / 昭和6 - 昭和12	総高 7.9 × 口径 7.4 × 底径 4.7		1	印刻銘「不二初窯」、共箱	京都府南丹市
140	花明山窯	染焼湯香茶碗	1951 - 1955 / 昭和26 - 昭和30	総高 8.4 × 口径 7.6 × 底径 4.6		1	印刻銘「大本」	京都府亀岡市
141	富田焼 天坊亭彦	鉄絵梅鉢文湯香茶碗	大正14 - 昭和前期	総高 7.1 × 口径 7.2 × 底径 4.3		1	印刻銘「富田」	大阪府高槻市
142	箕面焼 松声堂・初代 松田箕山	染焼湯香茶碗	1937 - 1955 / 昭和12 - 昭和30	総高 8.1 × 口径 6.9 × 底径 4.5		1	印刻銘「箕面焼」	大阪府箕面市
143	箕面焼 松声堂・初代 松田箕山	捺付匂入り松林文湯香茶碗	1937 - 1955 / 昭和12 - 昭和30	総高 7.9 × 口径 6.8 × 底径 4.4		1	印刻銘「箕面」	大阪府箕面市
144	吉向焼 吉向松月堂・ 制作=六世吉向松月/匂・面=永井勘斎	舟下図匂入り染焼湯香茶碗	1912 - 1945 / 大正元 - 昭和20	総高 10.5 × 口径 7.2 × 底径 4.5		1	印刻銘「吉向」	大阪府枚方市
145	吉向焼 吉向松月堂・六世 吉向松月	半徳文染焼湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.9 × 口径 6.2 × 底径 4.4		1	印刻銘「吉向」	同上
146	吉向焼 吉向十三軒堂・ 五代または六代 吉向十三軒 (浩一郎)	金指式文字染焼湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.7 × 口径 7.7 × 底径 4.2		1	印刻銘「吉向」	大阪府天王寺区
147	吉向焼 吉向十三軒堂・ 五代または六代 吉向十三軒 (浩一郎)	捺付鉄絵松文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 5.3 × 口径 5.6 × 底径 3.1		1	印刻銘「吉向」	同上
148	天間 露香女	約人絵匂入り染焼湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.0 × 口径 7.4 × 底径 4.4		1	無銘	同上
149	深井焼	イッテン清水焼文字湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 5.6 × 口径 5.0 × 底径 4.5		1	無銘	大阪府堺市中区
150	伊丹焼 (半七焼) 八代 白井半七	鉄絵千鳥文湯香茶碗	1923 - 1939 / 大正12 - 昭和14	総高 8.6 × 口径 6.9 × 底径 4.2		1	印刻銘「半七」、共箱	兵庫県伊丹市
151	立杭焼 大島真栄 上中屋仙	鉄絵夫婦湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	大: 総高 6.7 × 口径 7.4 × 底径 5.0 小: 総高 5.6 × 口径 6.5 × 底径 4.6		2	刻銘「立真栄」	兵庫県真山市
152	旗山焼 初代今村静斎 二代今村静斎	象嵌鶴文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.1 × 口径 6.0 × 底径 4.0		1	印刻銘「さゝ山」	同上
153	宝塚焼 草加孝瑞	鉄絵湯香茶碗	昭和前期	総高 5.7 × 口径 7.2 × 底径 3.7		1	印刻銘「慈仁堂」	兵庫県宝塚市
154	三田焼 芝虎山	青磁湯香茶碗	1912 - 1931 / 大正元 - 昭和6	総高 6.3 × 口径 6.5 × 底径 3.8		1	無銘	兵庫県三田市
155	琴浦焼 初代和田朝山	捺付松文共蓋湯香茶碗	大正12 - 昭和前期	総高 10.0 × 口径 7.0 × 底径 5.0 × 最大径 7.6		1	印刻銘「朝山」	兵庫県尼崎市
156	出石焼 豊進舎	絵下彩真文共蓋夫婦湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	大: 総高 8.7 × 口径 6.8 × 底径 3.2 × 最大径 7.3 小: 総高 7.5 × 口径 6.1 × 底径 2.9 × 最大径 6.2		2	捺付銘「出石永山」	兵庫県泉南市

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (移・付属資料ほか)	所在地
157	出石焼 盛運會	白磁陰刻菊文共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.5 × 口径 6.4 × 底径 3.4 × 最大径 7.5		1	印刻銘「出石盛運會」	兵庫県豊岡市
158	出石焼 制作者不明	白磁陰刻菊文共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.3 × 口径 6.1 × 底径 6.6 × 最大径 3.9		1	無銘	同上
159	打出焼 初代 飯口砂山 二代 飯口砂山	上繪波に燕居共蓋湯呑茶碗	1912 - 1937 / 大正元 - 昭和12	総高 7.2 × 口径 6.1 × 底径 4.2 × 最大径 6.1		1	無銘	兵庫県芦屋市
160	打出焼 初代 飯口砂山 二代 飯口砂山	松篋文赤染湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.9 × 口径 7.7 × 底径 5.0		1	印刻銘「うちで」	兵庫県芦屋市
161	岡本焼 力山居	赤染梅花図湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.6 × 口径 7.9 × 底径 4.4		1	印刻銘「をか木」	兵庫県神戸市東灘区
162	舞子焼 高田真砂	灰粘匂入り湯呑茶碗	1912 - 1926 / 大正期	総高 7.6 × 口径 8.3 × 底径 5.0		1	印刻銘「まひこ」「和風軒?」	兵庫県神戸市垂水区
163	明石焼 小倉千尋	染付帆かけ舟図共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 14.0 × 口径 7.0 × 底径 3.4 × 最大径 12.8		1	印刻銘「ちひろ」	兵庫県明石市
164	明石焼 小倉千尋	赤染明石松原図湯呑茶碗	昭和前期	総高 6.3 × 口径 7.4 × 底径 3.3		1	印刻銘「千尋」	兵庫県明石市
165	明石焼 (萩原焼) 泉製陶所・白水孝次	鉄絵和歌入り共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 11.5 × 口径 7.7 × 底径 5.2 × 最大径 8.5		1	印刻銘「明石錦泉」	兵庫県明石市
166	赤穂染焼 中尾徹意 (号・赤夢)	菊花図赤染湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.5 × 口径 7.5 × 底径 4.1		1	印刻銘「あかほ」	兵庫県赤穂市
167	淡路焼 (環平焼) 阿万環平 妻木 淡陶社	色繪波に千鳥図共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.4 × 口径 6.9 × 底径 4.0 × 最大径 7.1		1	染付銘「環平焼」	兵庫県南あわじ市
168	熊野焼 初代 中川鶴脚	黒刺蟹文赤染湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.7 × 口径 7.5 × 底径 3.9		1	印刻銘「鶴脚」	兵庫県熊野市
169	赤膚焼	鉄絵灰粒春日山に鳥図湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.5 × 口径 6.5 × 底径 4.1		1	印刻銘「赤ハタ」	奈良県奈良市
170	赤膚焼 赤膚山元宮・六代 古瀬亮三	白釉縁込湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.1 × 口径 7.1 × 底径 4.9		1	印刻銘「赤ハタ」	同上
171	赤膚焼 赤膚山元宮・六代 古瀬亮三	縁込湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.0 × 口径 7.6 × 底径 4.8		1	印刻銘「赤ハタ」「亮三」	同上
172	萩原焼 鼓火荘・黒田理平 黒田章中	夏文赤染湯呑茶碗	c.1931 / 昭和6年頃	総高 9.3 × 口径 7.6 × 底径 5.7		1	無銘	奈良県橿原市
173	高野山焼 初代 源川橋良	白釉湯呑茶碗	昭和前期	総高 6.7 × 口径 6.2 × 底径 3.9		1	印刻銘「高野山焼」	和歌山県伊都郡高野町
174	熊野焼 一風軒・藤本研山	鉄絵白粒流し共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.4 × 口径 9.1 × 底径 5.3 × 最大径 9.1		1	印刻銘「熊野」	和歌山県田辺市
175	熊野焼 一風軒・藤本研山	焼締染織つまみ共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.4 × 口径 6.9 × 底径 3.4 × 最大径 7.7		1	印刻銘「くまの」	同上
176	熊野焼 一風軒・藤本研山	鉄絵斑文湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.4 × 口径 6.9 × 底径 4.2		1	印刻銘「くまの」	同上
177	窯不明 (備前陶焼か?) 制作者不明	文絵写二彩舟字文筒形湯呑茶碗	明治前期 - 昭和前期か?	総高 8.4 × 口径 7.3 × 底径 5.2		1	染付銘「備前陶製」	和歌山県和歌山市


<Section 8> 山陰地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (移・付属資料ほか)	所在地
178	因久山焼 八代 戸澤保規	刷毛目湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.8 × 口径 6.4 × 底径 3.4		1	印刻銘「因久山」	鳥取県八頭郡八頭町
179	米城焼 城内常市	白磁掛分共蓋湯呑茶碗	1929 - 1947 / 昭和4 - 昭和22	総高 10.0 × 口径 6.5 × 底径 3.8 × 最大径 7.3		1	無銘	鳥取県米子市
180	三朝焼 伯州萬壽齋・森田利基	鉄絵匂入り湯呑茶碗	昭和前期	総高 5.7 × 口径 6.1 × 底径 3.8		1	無銘	鳥取県東伯郡三朝町
181	三朝焼 谷口陶庵・谷口喜代春	染繪陰刻文字共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.8 × 口径 7.0 × 底径 3.9 × 最大径 7.8		1	印刻銘「三朝」「陶庵」	同上
182	玉伯焼 大橋正次	赤繪雲文湯呑茶碗	1925 - 1928 / 大正15 - 昭和3	総高 7.4 × 口径 7.0 × 底径 4.2		1	印刻銘「玉伯」	鳥取県倉吉市
183	牛ノ戸焼 小林秀清	鉄絵湯呑茶碗	昭和前期	総高 6.8 × 口径 7.7 × 底径 4.5		1	印刻銘「牛戸焼」	鳥取県鳥取市
184	法勝寺焼 松花萬・三代 安藤良男	鉄絵白粒掛分湯呑茶碗	1951 - 1959 / 昭和26 - 昭和34	総高 7.2 × 口径 7.6 × 底径 4.6		1	印刻銘あり (判読不能)	鳥取県西伯郡南郷町
185	抽師焼 抽師齋・二代 尾野岩次郎	刷毛目灰粘湯呑茶碗	大正 - 昭和初期	総高 6.8 × 口径 6.8 × 底径 4.2		1	印刻銘「まつ江」	鳥取県松江市
186	布志名焼 松木宗・松木淡太郎 (雲平)	黄緑色染草木文共蓋湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.7 × 口径 6.1 × 底径 3.8 × 最大径 7.9		1	無銘	鳥取県松江市玉湯町布志名
187	赤山焼 五代 長岡佐右衛門 (空楼)	刷毛目鉄印湯呑茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.2 × 口径 7.6 × 底径 4.1		1	印刻銘角形「赤山」、 扇形「空」、丸形「空楼」	鳥取県松江市
188	錦山焼 中島秀市	三鳥手湯呑茶碗	明治末期 - 昭和前期	総高 9.4 × 口径 7.5 × 底径 4.7		1	印刻銘「錦山」	鳥取県安来市

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
189	錦山焼 中島秀市	仏付草花文共蓋湯呑茶碗	明治末期-昭和前期	総高8.4×口径8.5×底径4.0×最大径8.5		1	印刻銘「錦山」	同上
190	温泉焼 金清山長寿堂・澤根一郎	鉄絵精昌湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高6.7×口径6.6×底径4.1		1	印刻銘「石見温泉焼」「金清山」	島根県大田市
191	白盛山焼 日野勤三郎	色絵唐比寿大異文共蓋湯呑茶碗	1912-1943/ 大正元-昭和18	総高10.0×口径6.5×底径4.6×最大径7.1		1	印刻銘「白盛山」	島根県出雲市
192	白盛山焼 日野勤三郎	印文割高台炭焼湯呑茶碗	1912-1943/ 大正元-昭和18	総高10.0×口径7.7×底径4.9		1	印刻銘「白盛山」「出雲」	島根県出雲市
193	尾上焼 蝶山廣次郎 高下茂次	白磁掛分拵付草文湯呑茶碗	昭和前期	総高7.1×口径7.5×底径4.2		1	印刻銘「尾上」	島根県浜田市














<Section B> 中国・四国地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
194	羽島焼 小河原虎吉	斑文湯呑茶碗	昭和前期	総高7.9×口径8.0×底径4.4		1	印刻銘「羽」	岡山県倉敷市
195	沼津焼 三代 岡本真二	線刻柳文湯呑茶碗	c.1932/昭和7年頃	総高7.0×口径7.4×底径4.0		1	印刻銘「沼津」	同上
196	沼津焼 三代 岡本真二	鉄絵鶴文湯呑茶碗	c.1932/昭和7年頃	総高6.8×口径7.2×底径4.6		1	印刻銘「沼津」	同上
197	備前焼 森製陶所	紅藍文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高9.3×口径6.3×底径4.2×最大径6.8		1	印刻銘「備前 森製陶所」	岡山県備前市
198	備前焼 久本幸山 (花山)	朱泥共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高9.0×口径6.5×底径4.4×最大径7.1		1	印刻銘「備前」「華山」	同上
199	南山焼 寛元神農製陶部・ 四代 寿亭 小池寅治郎	灰緑共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高9.8×口径6.8×底径4.4×最大径7.0		1	印刻銘「南山焼」	岡山県津山市
200	宮島焼 (宮島御砂焼) 巖堂堂・ 川原富次郎 上野他人吉	黒絵御砂入り巖島神社文湯呑茶碗	大正3-昭和前期	総高6.8×口径8.2×底径4.1		1	無銘	広島県廿日市市
201	一角焼 越智角一	博刻巖島神社文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.6×口径6.5×底径3.5×最大径6.8		1	印刻銘「壹7-2」	同上
202	制作者不明	博刻宮島風景文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高6.7×口径6.7×底径3.6		1	無銘	広島県
203	萩焼 (深川焼) 田原真・ 十代 田原高経陶兵衛	萩絵湯呑茶碗	c.1930/昭和5年頃	総高6.1×口径7.8×6.5×底径3.8		1	印刻銘「陶兵衛」	山口県長門市
204	萩焼 (深川焼) 田原真・ 十代 田原高経陶兵衛	彩三鳥共蓋湯呑茶碗	c.1930/昭和5年頃	総高9.0×口径7.2×底径4.3×最大径7.5		1	無銘、共箱	山口県長門市
205	萩焼 泉流山窯・吉賀大雅堂	萩絵湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高6.9×口径7.2×底径4.5		1	印刻銘「萩焼」、共箱	山口県萩市
206	萩焼 (深川焼) 十二代 坂倉新兵衛	萩絵湯呑茶碗	昭和20年代制作	総高7.1×口径7.1×底径3.9		1	印刻銘「新兵衛」	山口県長門市
207	玉祖焼 大井留三	白粒深掛共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高9.1×口径6.3×底径4.5×最大径6.5		1	無銘	山口県防府市
208	風摩焼 藤本直吉より入手	線刻鶴文入り炭焼湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高7.4×口径6.9×底径4.2		1	印刻銘「小豆島」「風摩焼」「祖舜」	香川県小豆郡小豆島町
209	風摩焼 藤本直吉より入手	赤福字文炭焼湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高7.7×口径6.4×底径3.5		1	印刻銘「小豆島」「風摩焼」	同上
210	風摩焼 藤本直吉より入手	青楓文炭焼湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.5×口径6.3×底径4.4		1	印刻銘「小豆島」「風摩」	同上
211	屋島焼 四代または五代 三谷林泉	文絵精刻平家蟹文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.8×口径6.6×底径3.9		1	印刻銘「屋島」	香川県高松市
212	理兵衛焼 (理平焼) 十一代 紀太理平	色絵老松文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高6.8×口径6.9×底径3.6		1	印刻銘「理平」	同上
213	理兵衛焼 (理平焼) 十一代 紀太理平	色絵精刻平家蟹文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.4×口径6.0×底径3.4×最大径6.4		1	印刻銘「理平」	同上
214	有明焼 念佛蓮	色絵七宝文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高5.4×口径4.7×底径3.8		2	印刻銘あり	
215	二六焼 松柏庵・二代 佐々木二六	彫刻山水文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高7.1×口径7.1×7.5×底径4.1		1	印刻銘「二六」	愛媛県四国中央市
216	江山焼 横江山	色絵神社風景文湯呑茶碗	1912-1935/ 大正元-昭和10	総高6.8×口径6.7×底径3.9		1	印刻銘「江山」	愛媛県伊予市
217	水月焼 好川龜	色絵博刻蟹文湯呑茶碗	大正10-昭和前期	総高7.5×口径6.9×底径4.5		1	印刻銘「水月」	愛媛県松山市
218	砥部焼 工藤堂・工藤市太郎	白磁共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.5×口径6.3×底径4.1×最大径7.3		1	無銘	愛媛県伊予郡砥部町
219	砥部焼 高田寿水	色絵蟹拵付文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高7.4×口径7.1×底径4.5		1	印刻銘「トベ寿水」	同上
220	砥部焼 制作者不明	白磁編巻共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高8.7×口径6.4×底径3.3×最大径6.8		1	無銘	同上

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
221	尾戸焼 中西福太郎	色絵若松文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 6.8×口径 7.4×底径 3.7		1	印刷銘「尾戸」	高知県高知市

<Section 9> 九州・沖縄地方

No.	産地・番号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
222	東洋陶器株式会社 (現TOTO株式会社)	色絵手絵文共蓋湯呑茶碗	大正9-昭和前期	総高 8.7×口径 6.8×底径 3.7×最大径 7.2		1	色絵転写銘「東陶製」	福岡県北九州市小倉北区
223	高取焼 高取善五郎・榊島喜三郎	伊賀保輪湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 7.8×口径 9.0×底径 4.5		1	印刷銘「高」	福岡県福岡市早良区
224	上野焼 上野焼宗家藤谷本家・十四代 藤谷龍雄	緑青釉湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 7.9×口径 6.7×底径 4.6		1	無銘、共箱	福岡県田川郡指智町
225	有田焼 柿右衛門窯・十二代 沼井田柿右衛門	色絵染付牡丹絵共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 9.5×口径 7.6×底径 5.3×最大径 7.6		1	染付銘「柿右衛門作」	佐賀県西松浦郡有田町
226	有田焼 柿右衛門窯・十二代 沼井田柿右衛門	赤絵染付牡丹絵共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.2×口径 6.2×底径 3.7×最大径 6.7		1	染付銘「柿右衛門作」、共箱	同上
227	有田焼 香菱合名会社	染付色絵菊花文共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.3×口径 6.3×底径 3.5×最大径 6.5		1	染付銘「蘭マーク」	同上
228	有田焼 深川製磁合資会社 (現株式会社深川製磁)	染付丸絵共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 10.6×口径 8.7×底径 5.6×最大径 8.9		1	染付銘「富士山に流水マーク」	同上
229	有田焼 佐賀県窯業試験場 (現佐賀県窯業技術センター)	染付色絵梅花文共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 9.2×口径 6.6×底径 4.3×最大径 6.8		1	無銘	同上
230	有田焼 制作者不明	色絵押人担屋共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 8.7×口径 6.5×底径 3.9×最大径 7.0		1	無銘	
231	鍋島御用焼 市川光内	染付桜楓文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 9.3×口径 7.3×底径 4.3×最大径 7.4		1	染付銘「杏葉の紋」、共箱	佐賀県伊万里市
232	鍋島焼 鍋島青磁窯 三陽庵・山本雄平	七宝青磁湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.5×口径 7.1×底径 4.3		1	染付銘「鍋島七宝青瓷 三陽庵」	同上
233	鍋島焼 鍋島青磁窯 三陽庵・山本雄平	青磁共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 9.5×口径 6.7×底径 4.4×最大径 7.2		1	染付銘「鍋島青瓷 三陽庵」、共箱	同上
234	漆六焼 三代 富永源平	染絵手塚花文共蓋夫婦湯呑茶碗	昭和前期	大: 総高 9.1×口径 7.3×底径 4.0×最大径 7.4 小: 総高 7.7×口径 6.3×底径 3.7×最大径 6.6		2	染付銘「ト3マーク(トミマーク)」	佐賀県藤野市
235	黒牟田焼 丸田寅馬	黒釉柳目湯呑茶碗	昭和前期	総高 7.8×口径 6.8×底径 4.6		1	無銘	佐賀県武雄市
236	白石焼か? 岡弥六	柿込湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 6.0×口径 5.5×底径 3.6		1	無銘	佐賀県三豊郡みやき町
237	唐津焼 制作者不明	鉄絵湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 7.3×口径 7.8×底径 4.7		1	無銘	佐賀県
238	唐津焼 中野寛・二代 中野寛林	鉄絵松浦河図共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 8.3×口径 6.6×底径 4.6×最大径 6.6		1	無銘、共箱	佐賀県唐津市
239	唐津焼 中野寛・二代 中野寛林	辰砂掛分共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 8.4×口径 6.6×底径 4.4×最大径 7.0		1	無銘、共箱	同上
240	唐津焼 中野寛・二代 中野寛林	三島手共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 8.0×口径 7.2×底径 4.6×最大径 7.8		1	無銘	同上
241	唐津焼 中野寛・二代 中野寛林	蛇鱗共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 9.2×口径 7.0×底径 5.2		1	無銘	同上
242	三川内焼 喜持黒・二代 口石貞一	染付唐子絵共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 10.9×口径 7.8×底径 4.7×最大径 8.2		1	染付銘「三川内 喜持」	長崎県佐世保市
243	波佐良焼 幸山陶苑・福重武次郎	染付イチチン双鶴文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 10.0×口径 6.9×底径 4.0×最大径 7.6		1	染付銘「幸山」	長崎県東彼杵郡波佐良町
244	長崎焼 (波岩焼) 中原仁市	鉄絵湯呑茶碗	昭和前期	総高 6.7×口径 7.6×底径 4.6		1	刻銘「仁」	長崎県長崎市
245	長崎焼 (波岩焼) 中原仁市	色絵精刻和蘭陀船組鶴文共蓋湯呑茶碗	昭和前期	総高 9.2×口径 6.5×底径 4.4×最大径 7.4		1	印刷銘「仁左衛門」	同上
246	山皇焼 (観石焼) 黒瀬観石	焼刺山水図染焼湯呑茶碗	1912-1935/ 大正元-昭和10	総高 8.0×口径 8.0×底径 5.0		1	刻銘「観石」	同上
247	雲仙焼 石川錦峯	染付竹園湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 8.7×口径 6.8×底径 3.6		1	印刷銘「雲仙」	長崎県雲仙市
248	水の平焼 五代 岡部源四郎	赤海鼠絵共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 9.0×口径 6.5×底径 3.9×最大径 7.0		1	印刷銘「水平」	熊本県天草市
249	高田焼 九代 上野勝三	象嵌桜花文共蓋湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 9.4×口径 7.3×底径 5.3×最大径 7.5		1	印刷銘「高田」	熊本県八代市
250	高田焼 九代 上野勝三	象嵌桜花文湯呑茶碗	大正期-昭和前期	総高 6.9×口径 6.5×底径 4.7		1	印刷銘「高田」	同上
251	小代焼 近藤治太郎	白濁し湯呑茶碗	c.1941/昭和16年 頃	総高 6.6×口径 6.9×底径 4.7		1	印刷銘「小代」	熊本県熊本市
252	鶴城焼 鶴城陶園・神尾碧堂	灰釉夫婦湯呑茶碗	大正期-昭和前期	大: 総高 6.8×口径 6.6×底径 4.0 小: 総高 5.8×口径 6.5×底径 3.5		2	印刷銘「碧堂」	熊本県宇土市

No.	産地・異号等	作品名	制作年代	寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所在地
253	又六焼 今井通	白釉染焼湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 5.4 × 口径 5.8 × 底径 3.9		1	無銘	大分県別府市
254	耶馬深焼 吉村松月園・初代吉村左楽 二代吉村青山	灰釉耶馬深風薫付文湯香茶碗	1918 - 1937 / 大正7 - 昭和12	総高 6.7 × 口径 6.7 × 底径 3.7 × 3.7		1	印刻銘「耶馬」	大分県中津市
255	耶馬深焼 吉村松月園・初代吉村左楽 二代吉村青山	銅緑釉指形耶馬深百年記念湯香茶碗	1918 - 1937 / 大正7 - 昭和12	総高 7.1 × 口径 6.2 × 底径 4.0		1	印刻銘「耶馬」	同上
256	小巖田焼 制作者不明	飛鶴湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.1 × 口径 8.4 × 底径 4.7		1	無銘	大分県日田市
257	小巖田焼 制作者不明	瑠璃釉飛鶴湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.1 × 口径 7.5 × 底径 4.3		1	無銘	同上
258	小巖田焼 黒木清吉	黒釉湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 7.8 × 口径 7.1 × 底径 4.4		1	無銘	同上
259	鏡門司焼 川原次郎太	黒釉湯香茶碗	1912 - 1945 / 大正元 - 昭和20	総高 6.7 × 口径 6.5 × 底径 3.9		1	無銘	鹿児島県姶良市
260	長太郎焼 有山長太郎	鉄絵共蓋湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 9.6 × 口径 6.5 × 底径 3.6 × 最大径 7.2		1	印刻銘「長太郎」	鹿児島県鹿児島市
261	長太郎焼 有山長太郎	鉄絵共蓋湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.7 × 口径 8.2 × 底径 3.4 × 最大径 8.6		1	印刻銘「長太郎」	同上
262	壁野焼 鹿田製陶所・鹿田彦輔	色絵金彩秋草文共蓋湯香茶碗	昭和前期	総高 9.0 × 口径 7.5 × 底径 4.2 × 最大径 7.5		1	色絵銘「鶴野 鹿田 (花弁)」	同上
263	壁野焼 市来陶器製造所・市来英吉	色絵金彩秋草文共蓋湯香茶碗	1927 - 1943 / 昭和2 - 昭和18	総高 9.3 × 口径 6.4 × 底径 4.0 × 最大径 7.1		1	無銘	同上
264	壹屋焼 制作者不明	染付鉄絵落書き湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 6.6 × 口径 6.4 × 底径 3.8		1	無銘	沖縄県那覇市
265	琉球焼 (おそらく壹屋焼) 制作者不明	染付鉄絵獅子文湯香茶碗	大正期 - 昭和前期	総高 8.1 × 口径 7.4 × 底径 4.1		1	無銘、ラベル「琉球焼」	沖縄県

<その他資料>

No.	作者	資料名	制作年代	内容・寸法 (cm)	画像	数量	備考 (銘・付属資料ほか)	所蔵者
資料 1		名物票	昭和前期	縦21.0 × 横17.0		8	田園荘 / 山階道徳 / 京都府 / 摂津市 / 森貝・杉山・三豆 / 東海道 / 北信越及其他 / 樺太・朝鮮・琉球・九州・関東方面	株式会社 山皇屋
資料 2		菓子商標標	昭和前期	縦31.0 × 横23.0		1		同上
資料 3	大野秀次郎 (編)	名物行脚	1931 / 昭和6	縦28.5 × 横21.0		3	第一 (96項) 東海・近畿・山陽・九州 第二 (94項) 北陸・中央・中四國等 その他 (126枚)	同上
資料 4		名物菓子・菓子商標貼込板	昭和前期	縦31.0 × 横23.0		1		同上
資料 5	一般社団法人 近江茶業会 近江茶業会事務所	近江茶解説パネル		B1 (72.8 × 103.0)		7	近江茶の美味しい淹れ方・お茶が出来るまで・近江のお茶の歴史・お茶の種類・数字で見る近江茶業の茶・近江茶の主なお茶の産地	一般社団法人 近江茶業会事務所
資料 6	一般社団法人 近江茶業会 近江茶業会事務所	近江茶解説動画映像		5分41秒		1		一般社団法人 近江茶業会事務所
資料 7	信楽 窯元 松本 隆。 (志六郎・小川 頼三 陶房・登久 陶房・みはる 窯・ますみ 窯・松庄・なか工房・谷真真・茨山 窯)	自然釉染焼湯香・信楽茶器湯香茶碗・紺色花輪湯香・信楽湯香・緑彩湯香・切立湯香・金輪四方湯香・ゆのみ・方門湯香茶碗 (鉄 枝朝)		信託出品		9		志六郎・小川 頼三 陶房・登久 陶房・みはる 窯・ますみ 窯・松庄・なか工房・谷真真・茨山 窯
資料 8	信楽 窯元 松本 隆。	窯元 松本 隆 紹介動画映像		6分38秒		1		

■アンケート集計結果 「特別企画展『湯呑茶碗－日本人がこよなく愛したやきもの』」

入館者数	5, 981人 (1日平均65人)		
会期	2023(令和5)年3月11日(土)－6月25日(日) 92日間		
回答者数	148人		
回答率	2%		
年代	10歳未満	17人	11.5%
	10代・20代	39人	26.3%
	30代・40代	22人	14.9%
	50代・60代	49人	33.1%
	70代以上	21人	14.2%
	未回答	0人	0%
住所	滋賀	67人	46%
	京阪神	37人	25%
	奈良・和歌山	7人	5%
	東海	22人	15%
	北陸	2人	2%
	首都圏	2人	2%
	関東・甲信越	2人	2%
	中国・四国	1人	0.5%
	九州・沖縄	1人	0.5%
	海外	2人	2%
展覧会評価	大変満足	60人	41.1%
	満足	63人	43.2%
	普通	21人	14.4%
	やや不満	0人	0%
	不満	1人	0.7%
	無回答	1人	0.7%
再来館	思う	126人	86.3%
	思わない	11人	7.5%
	無回答	9人	6.2%
目的 (複数回答あり)	陶芸の森の展覧会	69人	41.6%
	イベント	10人	6.0%
	作陶体験	6人	3.6%
	陶器の購入	11人	6.6%
	小旅行(ドライブ)	37人	22.3%
	MIHO MUSEUM	1人	0.6%
	学校行事	4人	2.4%
	その他	24人	14.5%
無回答	4人	2.4%	

陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館・新収蔵の逸品展 — JAPAN STYLE 〈戦前編〉

■趣 旨

滋賀県立陶芸の森陶芸館は、やきもの文化の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた国際性と現代性を兼ね備えた美術館を目指しています。信楽窯業技術試験場の移転にともない、試験場が長年収集してきた作品が当館に移管されることになり、昨年は日本の近代窯業に大きな業績を遺したゴッドフリード・ワグネルの旭焼装飾タイルなど46件を収蔵しました。

本展では信楽窯業技術試験場からの移管作品から、明治時代から第二次世界大戦までの信楽における陶磁デザインのあゆみを紹介します。信楽焼の近代化は信楽陶器模範工場とその後身の滋賀県立窯業試験場を中心に進展しました。模範工場時代には絵付け技術の向上、化学工業用耐酸陶器の開発や石膏型成形の導入を試みています。また事業を継承した滋賀県立窯業試験場では建築タイルや輸出用洋食器類、代用陶器の研究が進められました。

当時、欧米で流行していたアール・デコを意識した試作品、また嘱託として試験場で輸出用陶器や火鉢の研究開発を指導した河井寛次郎や濱田庄司の作品や試作品など。開催中のジャパン・スタイル展の〈戦前編〉として、欧米の美術様式に日本的な感性や美意識を融和させながら、独特の意匠表現を追求した戦前の試験場の取り組みを紹介しました。

- 会 期 4月9日（土）－4月24日（日）（14日間） ※ 休館日 月曜日
- 主 催 滋賀県立陶芸の森
- 出品点数 作品12点・参考資料7点 *別添リストに記載
- 観 覧 料 無料
- 入場者数 3,327人（237.6人／日） [参考] 入場者645人（46.0人／日）
- 掲載記事 4月16日（土） 「陶磁のあゆみ一端を披露 戦前までの14点」京都新聞（地域）



アーティスト・イン・レジデンス展
「湊茉莉 ながれーあほうみの つちときおく」

■趣 旨

リサーチと観察を基に絵画作品を展開する湊はある時からやきものに興味を抱き始めました。文明や歴史の一端を作品として表現する湊にとって、その大部分において人々の生活の近くにあったやきものへ辿り着いたことは必然とも言えるでしょう。これまで絵画の中のテーマの一要素としてのみ、やきものを扱ってきた湊が実際にやきものを素材として制作しました。本展ではその成果となる作品を紹介します。

■会 期 令和4年4月29日（金）～6月9日（木） 42日間

アーティスト・トーク 令和4年4月30日（土）14:00～

※ 休館日 月曜日

■出品作家 湊茉莉（令和3年度ゲスト・アーティスト）

■作品点数 2点

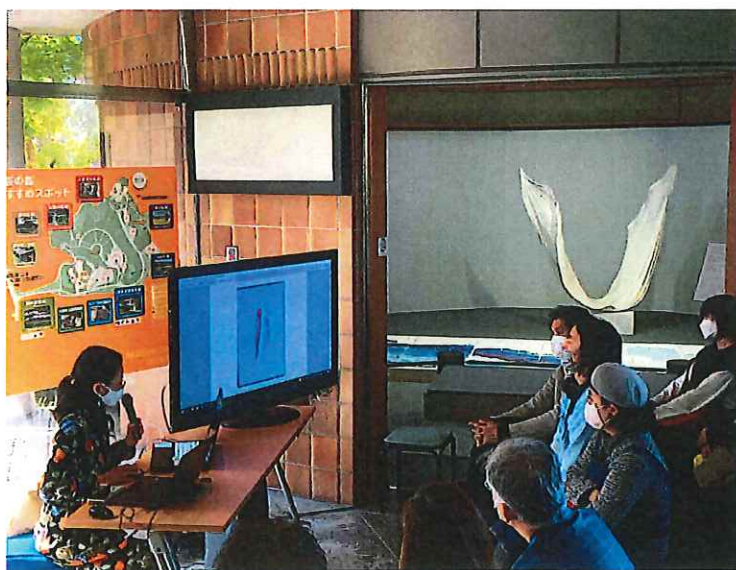
■観 覧 料 無料

■入場者数 8,727人（一日平均 207人）、アーティスト・トーク 24名

■助成 公益財団法人小笠原敏晶記念財団、野村財団

■掲載 5/3 読売新聞

5/6 中日新聞



信楽窯業技術試験場移転記念企画展

アニマルトイ誕生！ - 現代陶芸の巨匠たちがデザインした干支シリーズ

■趣 旨

滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場（以下試験場）は、今年10月7日に陶芸の森の隣地に移転、新たな歴史の一步を踏み出してゆく。1927（昭和2）年の創設から95年。戦前の世界恐慌と第二次世界大戦から、戦後の復興・高度経済成長期、平成のバブル経済の崩壊など、試験場は凡そ百年に亘り産地とともに困難を乗り越えてきました。

世界的なコロナ禍を転機に近年、生活意識が変化しつつあります。手仕事の魅力を活かしたクラフトや〈昭和レトロ〉への関心の高まりはそうした傾向の表れといえるでしょう。いま試験場では、産地の財産としてアーカイブ化された過去の試作品から、デザイン性に優れたものを取り上げ、最新技術を活用したリデザイン事業に取り組みはじめています。

年の瀬の風物詩としてお馴染みの干支の置物。信楽では、試験場が試作を手掛けた1957（昭和32）年頃から、本格的に製作がはじめられました。本展ではそのルーツとされる陶彫の第一人者・船津英治、現代陶芸のパイオニア・八木一夫と熊倉順吉が試験場で手掛けた干支、またそれを現代にリデザインしたアニマルトイや関係資料を紹介しました。

■会 期 9月17日（土）-11月6日（日）（43日間）

■主 催 滋賀県立陶芸の森

■作品点数 作品24点・原型10点・石膏型6点・参考資料5点 *別添リストに記載

■観 覧 料 無料

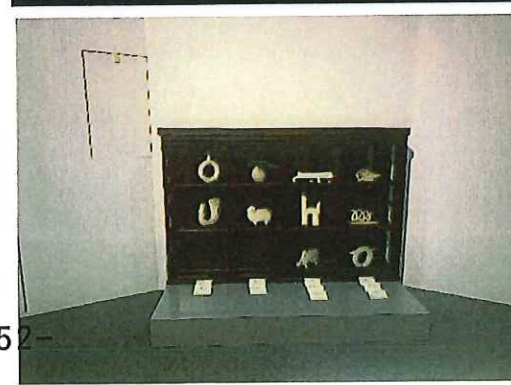
■入場者数 9,656人（224.5/日） [参考] 入場者3,786人（88.0人/日）

■掲載記事 9月22日（木）「陶芸の巨匠らのデザインー干支の置物現代風に」京都新聞（滋賀）

10月28日（金）「信楽焼の干支「アニマルトイ」に」中日新聞（滋賀）

10月5日（水）「現代にリデザインされた干支置物」滋賀ガイド

10月28日（金）「アニマルトイ誕生」あいコムこうか「こうか！かわら版」



陶芸館ギャラリー企画展 特別映像放映
「Marty Gross 編集 韓国の陶工 作業工程 1974」

■趣 旨

本展「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート」に併せて、陶芸館ギャラリーでは1974年にソウルで撮影された特別映像を放映した。この映像は韓国のソウルにあった2ヶ所の大規模なオンギ工房が舞台となっており、土の水簾から登り窯での焼成に至るまでの作業工程を、当時を知る陶芸家のコメントも加えて、マーティ・グロスが編集した今は見ることのできない貴重な映像を紹介しました。

古くから韓国を代表する保存容器・甕（オンギ）は、日本では民藝との関わりでよく知られています。本展でその視線で近代に収集されたオンギをはじめ、当時を記録した藤本巧の写真や、現代作家のものおよび交流ワークショップまで紹介する一方、本ギャラリーの空間で近代のオンギ制作工程の特別映像を放映することで、オンギを取り巻く窯業文化について理解を一層深める同時にその魅力に迫りました。

■内 容

1974年にオクラホマ州立大学のロン・デュ・ボア教授が撮影したこのフィルムは、1970年代から80年代にかけて、陶芸の授業で広く上映された教育用の短いバージョン。

マーティは韓国の食文化に欠かせないキムチなどの漬物を保存する甕（オンギ）の製作過程を、新たに完全な形で映像化することを考え、ロン・デュボア氏にフィルムと未使用のオリジナル映像の修復許可を依頼しました。民藝フィルムアーカイブ・プロジェクトでは、16mmフィルムのオリジナル映像をすべて所蔵するスミソニアン博物館民俗生活文化遺産センターの協力を得て、1974年のオリジナル映像すべてを新たに2Kデジタル変換で制作した。そして、90分以上の映像を編集し、ソウル周辺のいくつかの窯で行われるオンギの全工程を収めたのが「The Working Processes of the Korean Folk Potter, 1974」です。

■会 期 11月11日(金)～12月18日(日)

■主 催 滋賀県立陶芸の森

■出品映像 韓国陶工 作業工程 1974
The Working Processes of the Korean Folk Potter, 1974

■映像編集 映像作家・マーティ・グロス (Marty Gross)

■映像情報 撮影：ロン・デュボア 1974年

リマスター及び再編集：マーティ・グロス フィルム プロダクション

民藝フィルムアーカイブ提供 / mingeifilms.martygrossfilms.com ©2019, Marty Gross
Film Productions, Inc.

■関連資料 制作道具

■観 覧 料 無料

■入場者数 5,659人 (一日平均 171人)

■映像のタイムスケジュール

韓国の陶工 作業工程 The Working Processes of the Korean Folk Potter

한국 민속 옹기 도공들의 제작과정

Timeline

①「ソウル特別市東大門区新内洞」にある甕器工場

Sinnaedong Dongdaemun, Seoul 서울특별시 동대문구 신내동 **00:36**

ここは
紐づくり

粘土の水籤と加工過程 Cleaning and preparing the clay 점토 수비 / 가공과정 00:38

甕器の造形過程 Making Onggi Pots 옹기 성형 과정 09:11

甕器の乾燥過程 Drying the pots 옹기 건조 과정 24:26

釉薬の加工過程 Preparing glaze materials 유약 가공 과정 25:37

施釉 Glazing 시유 27:26

窯入れの過程 Loading the kiln 가마재임 과정 29:51

窯出しの過程 Unloading the kiln 꺼내기 과정 40:54

② 酸梨里での甕作りの過程 Pottery making in Saniri Villiage **41:50**

산이리 옹기 제작과정

ここは
板づくり

③ Making film Segment (Marty Gross + Bae YeonShik + Kim Sungja) **51:52**

メイキング・フィルム・カット (マーティ・グロス+ベ・ヨンシク+キム・ソンジャ) 메이킹필름(마티그로스+배연식+김성자)

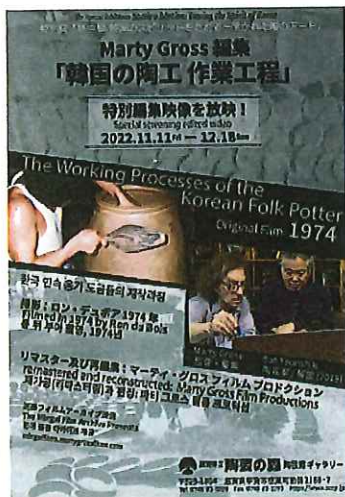
■ マーティ・グロス (Marty Gross)

カナダ人のマーティ・グロスは、トロントと東京を拠点に活動する映画製作者、教育者です。

主な作品に「Potters at Work」、「The Lovers' Exile」などがあります。

現在のプロジェクト「民藝フィルムアーカイブ」では、日韓の陶工および民藝作家たちの世界的の影響力に重点を置きながら、20世紀の陶芸に関するフィルムを復元し、充実させることに取り組んでいます。現在、民藝フィルム・アーカイブには、1925年から1976までの日本語・英語・韓国語の50本近くのフィルムで構成されています。

Canadian Marty Gross is a film maker and educator based in Toronto and Tokyo. His films include Potters at Work and The Lovers' Exile. In his current project, the Mingei Film Archive, he is restoring and enhancing films on pottery practices in the 20th century with an emphasis on the folk potters of Japan and Korea and their worldwide influence. The Mingei Film Archive currently consists of almost 50 films in Japanese, English and Korean covering the period 1925–1976.



陶芸の森「陶芸館 3D デジタルアーカイブ」

■趣 旨

県立陶芸の森陶芸館では、令和2年度から所蔵品と展覧会のおすすめ作品を紹介するデジタルコンテンツの制作に取り込み、昨年度の令和3年度に「陶芸館 3D デジタルアーカイブ」専用サイトを開設しました。

本年度は、10月に滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場が陶芸の森の隣地に移転したことを機に、連携強化の事業として所蔵品のVR映像の撮影に加えて、展示空間もVR映像でツアーできるように、県立信楽窯業技術試験場の協力を得て360°カメラによる撮影を行いました。

とりわけ、秋の特別展「静中動：韓国のスピリットをたどる一開かれた陶のアート」と、陶芸館ギャラリーで同時開催した「アニマルトイ誕生！ー現代陶芸の巨匠たちがデザインした干支シリーズ」展の展示空間のVR映像を、陶芸館3Dデジタルアーカイブに新たに「パノラマVRツアー」ページを追加し、2023年3月31日より公開しました。

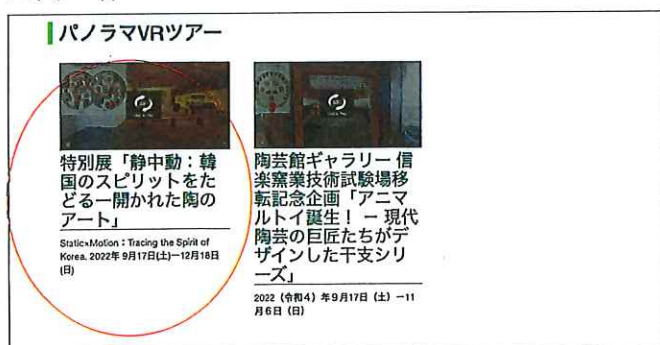
展示を見逃した方や再度ご覧になりたい方は、VRで展示空間をツアーすることができ、まるで実際に展示室に訪れているかのような体験ができます。

また、展示パネルや出品作品をクリックすると、出品作品の情報や展示内容も確認できます。加えて、3Dスキャナーであわせて撮影した出品作品2点（館蔵品）の3D映像もサイトに更新しました。作品は360°自由自在に動かし、展示室では見られない作品の裏面や底まで確認することができます。

今後も県立信楽窯業技術試験場の協力のもと、館蔵品の3D映像および毎年1回代表展示をVRツアーで紹介し、当館の館蔵品の活用と魅力発信の強化を図る予定です。

※本事業は、県立信楽窯業技術試験場と陶芸の森が取り込んだ連携事業の一つです。

■内 容



特別展「静中動：韓国のスピリットをたどる一開かれた陶のアート」パノラマツアーの画面

1. 展覧会の「パノラマ VR ツアー」ページを追

加開設（360°パノラマ画像）

2. 展覧会のおすすめ作品を紹介（3D映像）

■会 期 令和4年3月31日(金)より公開

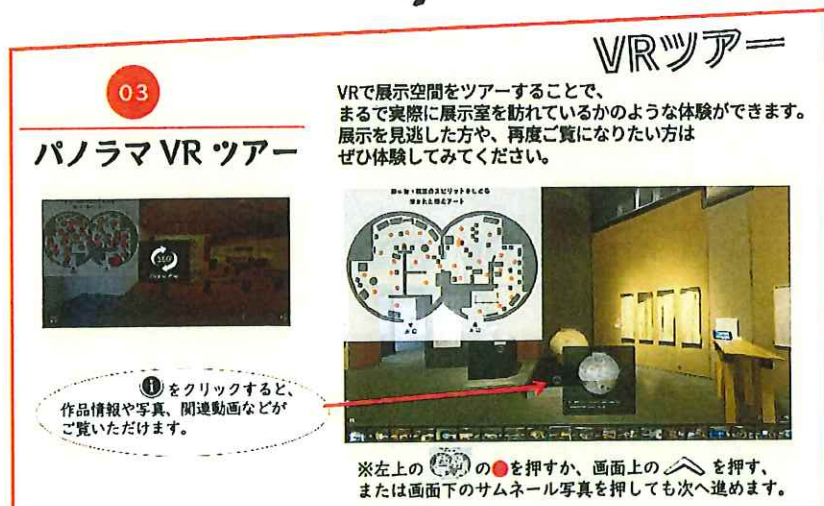
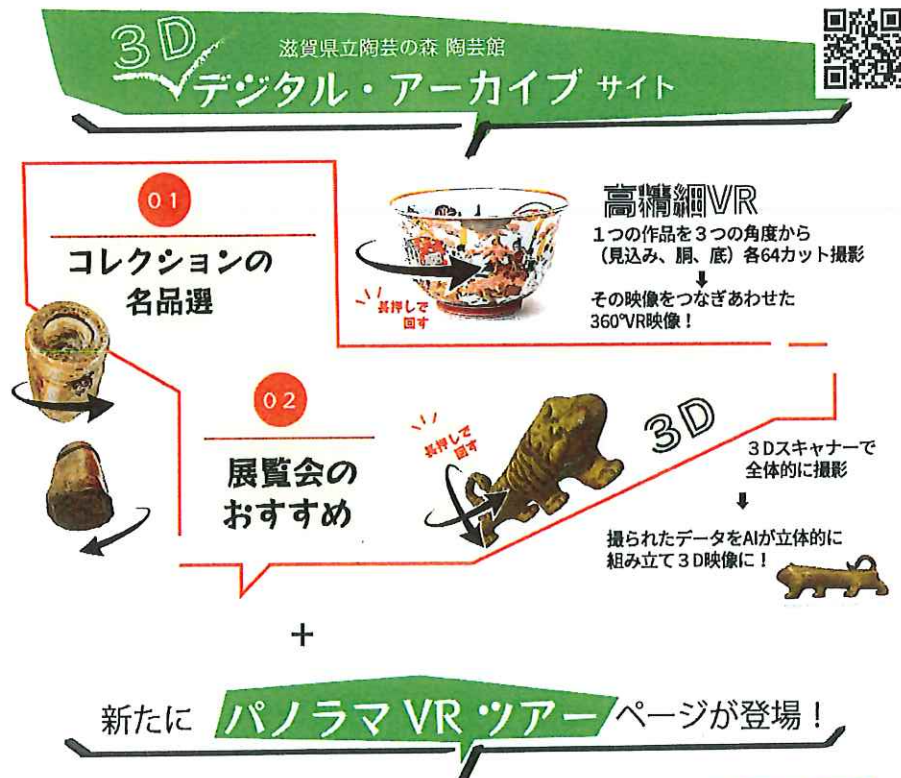
■公開場所 陶芸館 3D デジタルアーカイブ

<https://digital-museum.sccp.jp>

■撮影・技術協力 滋賀県立信楽窯業技術試験場

■VR体験コーナー 陶芸館展示室入口前で、VR体験コーナー設置

■関連資料(広報用資料)



博物館実習

陶芸館では、博物館学芸員資格取得のための実習生の受け入れを、平成7年度より行っています。

令和4年度は、関西の大学より2人を受け入れました。当館での博物館実習では、各施設や特別展の見学を行い、展覧会企画と教育普及事業についての講義を行いました。また、実習では、やきもの作品の梱包方法や作品の取り扱い方を学び、調査台帳作成の仕方を実習や当館 Facebook を利用した SNS 広報実習を行いました。そして、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う意臨時休館を機に、新たに導入した陶芸の森のデジタルコンテンツ事業について紹介、また普及啓発事業として展覧会の関連企画「対話の森」の実行準備を実際に体験しました。

■内 容

8月23日(火)

オリエンテーション／陶芸の森施設見学／特別企画展の鑑賞 講義1. 教育普及事業について／実習1. 教育普及企画書作成

8月24日(水)

講義2. 展覧会事業について／実習2. 作品の取り扱いおよび梱包、調書作成

8月25日(木)

講義3. デジタルコンテンツの活用について／実習3-1. 当館 SNS で広報（園内の野外作品調査）／実習3-2. 野外展示作品の SNS で広報素材作成

8月26日(金)

実習4. 普及啓発事業 対話の森イベント開催準備(信楽産業展示館)／総括

■期 間 令和4年8月23日(火)～26日(金)、4日間

■会 場 滋賀県立陶芸の森内 視聴覚室および陶芸館

■受入大学 佛教大学 1名
京都外国語大学 1名

陶磁ネットワーク会議の開催

〈陶磁ネットワーク会議〉は、陶芸若しくは陶磁を専門とする、県立の博物館と美術館8館で組織された。陶芸文化の発展と館活動の活性化、また加盟館相互の交流や情報交換を進めることや、また、共同企画展の開催をはじめ共同の研究や広報、そして各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的に、平成20年に設立されました。令和4年度は佐賀県立九州陶磁文化館が幹事館として、「第14回陶磁ネットワーク会議」を開催されました。

- 日 程 令和4年10月26日(水)～10月27日(木)
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
- 参加館 愛知県陶磁美術館(瀬戸)、茨城県陶芸美術館(笠間)、岐阜県現代陶芸美術館(美濃)、佐賀県立九州陶磁文化館(有田)、滋賀県立陶芸の森(信楽)、兵庫陶芸美術館(丹波)、福井県陶芸館(越前)、山口県立萩美術館・浦上記念館(萩)
- 出席者 8館 20人
- 議 題
 1. 「ソーシャルメディアを活用した広報」について
 2. その他意見交換 自由討議
- 見 学
 1. 展示見学(有田焼の歴史展(リニューアルオープンした常設コーナー、特別企画展「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ」)
 2. 波佐見町歴史文化交流館
 3. 志田焼の里博物館
 4. 中尾上登窯跡

調査研究活動

三浦 弘子

1. 出向・委嘱等

- (委嘱) 兵庫陶芸美術館 収蔵作品価格評価委員
 - (委嘱) 滋賀次世代文化芸術センター役員
 - (委嘱) 甲賀市指定無形文化財信楽焼保持者認定検討委員会委員
 - (委嘱) 信楽伝統産業会館運営委員会特別企画委員会委員
 - (委嘱) 世界にひとつの宝物づくり実行委員会
 - (出講) 滋賀県立膳所高等学校1年生「美と食の巨匠 北大路魯山人」
- 令和4年5月26日(木)、5月27日(金)

鉤 真一

1. 企画協力

- ・開所記念展 信楽窯業技術試験場のあゆみ [1901-2022] 信楽窯業技術試験場
- 令和4年10月7日(金) -

2. 発表講義

- (1) 「陽炎園・復興膳所焼とその時代」 大津市歴史博物館〈れきはく講座〉
令和4年4月14日(木) 14:30-16:00
- (2) 「近江やきものがたり—街道に花開いた陶窯」 守山市立図書館〈文学・歴史講座〉
令和4年12月11日(木) 14:00-15:30

3. 著作執筆

- (1) 「陶産地・信楽の近代化 — 信楽窯業技術試験場の取り組みを中心に」
『JAPPI NEWS LETTER (No.279)』 令和4年8月 日本陶磁器産業振興会

(2)「収蔵品紹介―門燈 滋賀県立窯業試験場 1929 (昭和4)」『陶 (No.37)』

令和5年3月 滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場

妻 洙淨 (ベ スジョン)

1. 出講・委嘱等

京都造形芸術大学 2023年度学位予備審査員

令和4年8月29日(火) 10:00~12:00

2. 発表・講義

「日本の近代陶芸家の作品にみられる朝鮮陶磁の影響」2022年国際工芸学術シンポジウム・(一般社団法人)韓国美術史学会×ソウル工芸博物館、令和4年10月14日、ソウル工芸博物館教育堂 講堂(日本からズームで発表)

3. 著作・文章執筆等

(1)「静中動：韓国のスピリットをたどる」『炎芸術』151号 展覧会スポットライト、阿部出版社、令和4年8月

(2)「静中動：韓国のスピリットをたどる―開かれた陶のアート」『静中動：韓国のスピリットをたどる―開かれた陶のアート』図録、令和4年10月

(3)「배수정 「드러나는 한국미의 정신 정중동」

「現れる韓国美の精神 静中動」『월간도예 (月刊陶芸)』

令和4年12月号 해외 WORLD、令和4年12月。

創作事業

アーティスト・イン・レジデンス事業

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めています。本年度は秋ごろから海外アーティストの受入れを再開し、新型コロナウイルス感染症後、再スタートの年となりました。

■スタジオ・アーティストの受け入れ

アーティスト・イン・レジデンス事業の中核である「スタジオ・アーティストの受け入れ」では11カ国、延べ50人を受け入れました。

受入実績 総数 50人 (11カ国)

国内 17人 (延べ32人)

うち滋賀県：1人

海外 18人

(内訳) イギリス－3人、オーストリア－1人、タイ－1人、チリ－1人、ドイツ－2人、フィンランド－1人、フランス－3人、台湾－1人、韓国－3人、中国－2人、(うち海外出身日本在住－3人、日本出身海外在住－6人)

受入名簿

氏名 広瀬 菜々 HIROSE, Nana (ドイツ)

<滞在期間>令和5年2月24日～3月31日 (36日間)

氏名 永谷 一馬 NAGATANI, Kazuma (ドイツ)

<滞在期間>令和5年2月24日～3月31日 (36日間)

氏名 松永 直 MATSUNAGA, Nao (イギリス)

<滞在期間>令和4年4月1日～5月26日 (56日間)

氏名 青野 千穂 AONO, Chiho (オーストリア)

<滞在期間>令和4年4月4日～7月4日 (92日間)

氏名 王海倫 WANG, Hailun (中国)

<滞在期間>令和4年4月1日～5月31日 (61日間)

氏 名 孫 千昂 SUN, Qianang (中国)

<滞在期間>令和4年4月5日～6月19日 (76日間)

氏 名 ロビン・フォン・アインジューデル Robin von Einsiedel (イギリス)

<滞在期間>令和4年5月10日～7月29日 (81日間)

氏 名 石橋 征子 ISHIBASHI, Motoko (イギリス)

<滞在期間>令和4年5月10日～7月29日 (81日間)

氏 名 宮下 サトシ MIYASHITA, Satoshi (日本)

<滞在期間>令和4年4月28日～8月31日 (126日間)

氏 名 石井 佐枝 ISHII, Sae (日本)

<滞在期間>令和4年4月5日～7月15日 (102日間)

令和4年12月3日～令和5年3月31日 (119日間)

氏 名 林 大作 HAYASHI, Daisaku (日本)

<滞在期間>令和4年5月16日～10月10日 (148日間)

令和5年1月9日～令和5年1月27日 (19日間)

氏 名 小出 ナオキ KOIDE, Naoki (日本)

<滞在期間>令和4年6月7日～11月30日 (177日間)

氏 名 坂本 紬野子 SAKAMOTO, Chinoko (日本)

<滞在期間>令和4年7月1日～9月30日 (92日間)

令和4年11月10日～12月25日 (46日間)

氏 名 西條 茜 SAIJO, Akane (日本)

<滞在期間>令和4年6月7日～11月18日 (165日間)

氏 名 李 寶那 Bona Lee (日本)

<滞在期間>令和4年6月5日～6月28日 (24日間)

令和5年1月15日～令和5年2月14日 (31日間)

氏 名 加藤 ゆか KATO, Yuka (チリ)

<滞在期間>令和4年6月12日～8月7日 (57日間)

氏 名 ancco ancco (日本)
＜滞在期間＞令和4年7月7日～10月28日 (114日間)

氏 名 土屋 麗 TSUCHIYA, Urara (日本)
＜滞在期間＞令和4年7月1日～令和5年1月31日 (215日間)

氏 名 たなか あきこ TANAKA, Akiko (日本)
＜滞在期間＞令和4年7月6日～8月31日 (57日間)

氏 名 尾形 アツシ OGATA, Atsushi (日本)
＜滞在期間＞令和4年7月4日～8月23日 (51日間)

氏 名 緒方 幸之郎 OGATA, Koshiro (日本)
＜滞在期間＞令和4年8月7日～9月30日 (55日間)

氏 名 平田 万葉 HIRATA, Maha (日本)
＜滞在期間＞令和4年8月2日～8月31日 (30日間)
令和4年10月12日～10月27日 (16日間)

氏 名 中井 波花 NAKAI, Namika (日本)
＜滞在期間＞令和4年8月19日～令和5年3月31日 (225日間)

氏 名 徳丸 鏡子 TOKUMARU, Kyoko (日本)
＜滞在期間＞令和4年9月6日～令和5年2月10日 (158日間)
令和5年2月26日～令和5年3月11日 (14日間)

氏 名 エミール・リュティッカ Emil Lyytikä (フィンランド)
＜滞在期間＞令和4年10月16日～令和4年11月30日 (46日間)

氏 名 土井 洋佑 DOI, Yosuke (日本)
＜滞在期間＞令和4年10月13日～令和4年12月25日 (74日間)

氏 名 工藤 玲那 KUDO, Rena (日本)
＜滞在期間＞令和4年9月11日～令和4年12月23日 (104日間)

氏 名 しんや まさこ SHINYA, Masako (日本)
＜滞在期間＞令和4年10月5日～令和4年11月5日 (32日間)

氏 名 シルヴィー・オーヴレイ Sylvie Auvray (フランス)
＜滞在期間＞令和4年9月19日～令和4年11月28日 (71日間)

氏 名 ショロトル・サラザール Xolotl Salazar (フランス)
＜滞在期間＞令和4年9月19日～令和4年11月28日 (71日間)

氏 名 檜木野 淑子 NARAGINO, Yoshiko (日本)
＜滞在期間＞令和4年9月16日～令和5年3月31日 (197日間)

氏 名 森田 春菜 (日本) MORITA, Haruna (日本)
＜滞在期間＞令和4年12月13日～令和5年3月2日 (80日間)

氏 名 李 承熙 LEE, Seung hee (大韓民国)
＜滞在期間＞令和4年11月2日～令和5年1月31日 (91日間)

氏 名 高 辰翔 KAO, Chen Hsiang (台湾)
＜滞在期間＞令和4年11月12日～令和5年3月3日 (112日間)

氏 名 金 鉉淑 KIM, Hyun suk (大韓民国)
＜滞在期間＞令和5年1月6日～令和5年3月8日 (62日間)

氏 名 奈良 美智 NARA, Yoshitomo (日本)
＜滞在期間＞令和5年1月17日～令和5年1月23日 (7日間)

氏 名 西澤 伊智朗 NISHIZAWA, Ichiro (日本)
＜滞在期間＞令和5年1月17日～令和5年3月31日 (74日間)

氏 名 金 宣 KIM, Sun (大韓民国)
＜滞在期間＞令和5年1月27日～令和5年3月7日 (40日間)

氏 名 アー・ソティップラーパ Aor Sutthiprapha (タイ)
＜滞在期間＞令和5年1月29日～令和5年3月29日 (60日間)

氏 名 川尻 潤 KAWAJIRI, Jun (日本)
＜滞在期間＞令和5年2月5日～令和5年3月26日 (50日間)

氏 名 矢部 俊一 YABE, Syunichi (日本)
<滞在期間>令和5年2月15日～令和5年3月31日 (45日間)

氏 名 浅田 泰子 ASADA, Yasuko (日本)
<滞在期間>令和5年2月21日～令和5年3月28日 (36日間)

氏 名 日野田 崇 HINODA, Takashi (日本)
<滞在期間>令和4年4月1日～令和4年9月30日 (183日間)

氏 名 マチュー・マンシュ Matthieu Manche (フランス)
<滞在期間>令和4年4月1日～令和4年7月7日 (98日間)

■ゲスト・アーティストの招へい

受入実績 10人、(国内3人)

受入名簿

氏名 日野田 崇 (京都府)

<滞在期間>令和2年7月5日～令和4年9月30日

(令和4年度滞在日数 183日間)

<活動概略>人体をモチーフにした大型作品の成形をおこなった。



氏名 湊 茉莉 (日本/フランス在住)

<滞在期間>令和4年2月23日～5月19日

(令和4年度滞在日数 49日間)

<活動概略>自身の絵画作品を立体として表現することに取り組んだ。また、たたら板に顔料を混ぜた泥漿を流して絵画作品の制作に挑戦した。



氏名 竹内 紘三 (兵庫県)

<滞在期間>令和4年2月13日～5月1日

(令和4年度滞在日数 31日間) <<令和5年度に継続>>

<活動概略>角パイプ状のパーツを磁器土の鋳込み成型で複数制作し、組み立てて作品とした。



氏名 青野 千穂 (日本/オーストリア在住)

<滞在期間>令和4年4月4日～7月4日 (92日間)

<<令和5年度に継続>>

<活動概略>電気窯の部品であるヒーター線を骨格に粘土を巻き付け、構造的な作品を制作した。



氏名 広瀬 奈々、永谷 一馬 (日本/ドイツ在住)

<滞在期間>令和5年2月24日～令和5年3月31日 (36日間)

<<令和5年度に継続>>

<活動概略>身近にある食料品、果物、日用品など身近で見慣れたものを石膏で型取りし、磁器土の鋳込みで成形した。ドイツで使用している原料の再現を試みた。



氏名 檜木野 淑子 (大阪府)

〈滞在期間〉令和4年9月16日～3月31日 (197日間)

《令和5年度に継続》

〈活動概略〉「華やかさや豊かさ生命力が溢れ出る歓び」をテーマに、大きいもので1m角の立方体の作品を複数制作した。



氏名 李 承熙 (イ スンヒ) (韓国)

〈滞在期間〉令和4年11月2日～令和5年1月31日

(91日間)

〈活動概略〉釉薬の流れを魅せる四角い作品と板状の側面を魅せる作品、顔の形をした作品の3シリーズを制作した。



氏名 金 鉉淑 (キムヒョンスク) (韓国)

〈滞在期間〉令和5年1月6日～3月8日 (62日間)

《令和5年度に継続》

〈活動概略〉町内の飲食店への聞き込みや書物から、コンセプトである食品・食文化のリサーチを行い、主に石膏版や型を用いて大皿などの器を成形し、試験場で作った転写シートを施し、染付の技法を使い作品に絵付けをした。



氏名 Aor Sutthiprapha (タイ)

〈滞在期間〉令和5年1月29日～3月29日 (60日間)

〈活動概略〉制作が感染症流行によって大きく乱されたことから、それを扱った作品に加え、本当の自分を理解するための仏教と結びついた彫刻シリーズも制作した。



■アーティスト・トーク、陶芸館ギャラリー展覧会の開催

■アーティスト・トーク

開催日：令和5年3月18日（土）14：00～16：00

会 場：視聴覚室、創作研修館スタジオ

講 師：檜木野淑子（大阪府/R4 ゲスト・アーティスト）

中井波花（石川県/R4 文化庁補助事業交換プログラム受け入れアーティスト）

内 容：

檜木野：華やかさや豊かさ、生命力が溢れ出る歓びを表現する」をテーマに制作しています。生き物、事象、文様等を引用して、各地に散らばる様々な精神性を反映し、空想のようでありながらどこかで見た景色やストーリーを作品中に表現しています。

中井：陶芸をはじめた頃、窯から出てきた作品が熱で歪み、変化しているのを見て、美しいと思った。それを生かすため、土×釉薬へのアプローチを制作と課題発見を繰り返し、「陶芸素材を再解釈する」という試みが、私の作品の前提にある。

開催日：令和5年2月28日（火） 14：00～

会 場：視聴覚室、創作研修館スタジオ

講 師：金 鉉淑 KIM, Hyun suk（韓国/R4 ゲスト・アーティスト）

高 辰翔 KAO, Chen hsiang（台湾/R4 文化庁補助事業交換プログラム受け入れアーティスト）

金 宣 KIM, Sun（韓国/R4 文化庁補助事業交換プログラム受け入れアーティスト）

内 容：

金：我々はなぜウィルスから耐えなく攻撃を受けてるのか？グローバル社会において健康、環境、食糧は大事なテーマである。私たちの食卓には、利便性・減塩食品などを追及したGMO(遺伝子組み換え)食品がいつの間にか台頭してきた。資本化された食材は人間の健康問題、そして絶えない利己的な欲望は食卓上の食べ物を脅威に変化させている。

高：粘土を扱うことによる身体意識の覚醒、またその相互作用における偶発性を知覚することで、素材ベースの操作から脱却した表現方法の可能性を模索している。

金 宣：穴をあけた陶磁器に糸を幾重にも縫い込んでいく。繰り返し行われるその行為は幼いころに祖母と一緒に縫物をしていたころの記憶を呼び覚ましていく。

■アーティスト・イン・レジデンス展

「湊茉莉 ながれーあはうみの つちときおく」

【内 容】

リサーチと観察を基に絵画作品を展開する湊は、ある時からやきものに興味を抱き始めました。文明や歴史の一端を作品として表現する湊にとって、その大部分において人々の生活の近くにあったやきものへ辿り着いたことは必然とも言えるでしょう。これまで絵画の中のテーマの一要素としてのみ、やきものを扱ってきた湊が実際にやきものを素材として制作しました。本展ではその成果となる作品を紹介します。



【会 期】令和4年4月29日（金）～6月9日（木）（42日間）

【会 場】滋賀県立陶芸の森 陶芸館ギャラリー

【助 成】小笠原敏晶記念財団、野村財団

【出品作家】 湊茉莉（令和3年度ゲスト・アーティスト）

■国内外のレジデンス機関との連携

海外の機関との連携 文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業 2022」海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムによる、陶芸家の受入および派遣を2機関とおこないました。

I. 国外機関との連携

交換プログラム

- ・台南芸術大学

受入者：高辰翔（カオチェンシャン）

期 間：令和4年11月12日～令和5年3月3日

- ・韓国陶磁財団

受入者：金 宣（キム サン）

期 間：令和5年1月27日～令和5年3月7日

国外機関からの作家の受入れ

- ・フィンランドセンター

受入者：Emil Lyytikka

期 間：令和4年10月16日～11月30日

II. 国内の機関との連携

- ・文化庁補助事業としてアーティスト・イン・レジデンス研究会を開催。

開催日：令和5年2月24日、25日

会場：滋賀県立陶芸の森 管理棟 視聴覚室

参加者：4機関、延べ34人

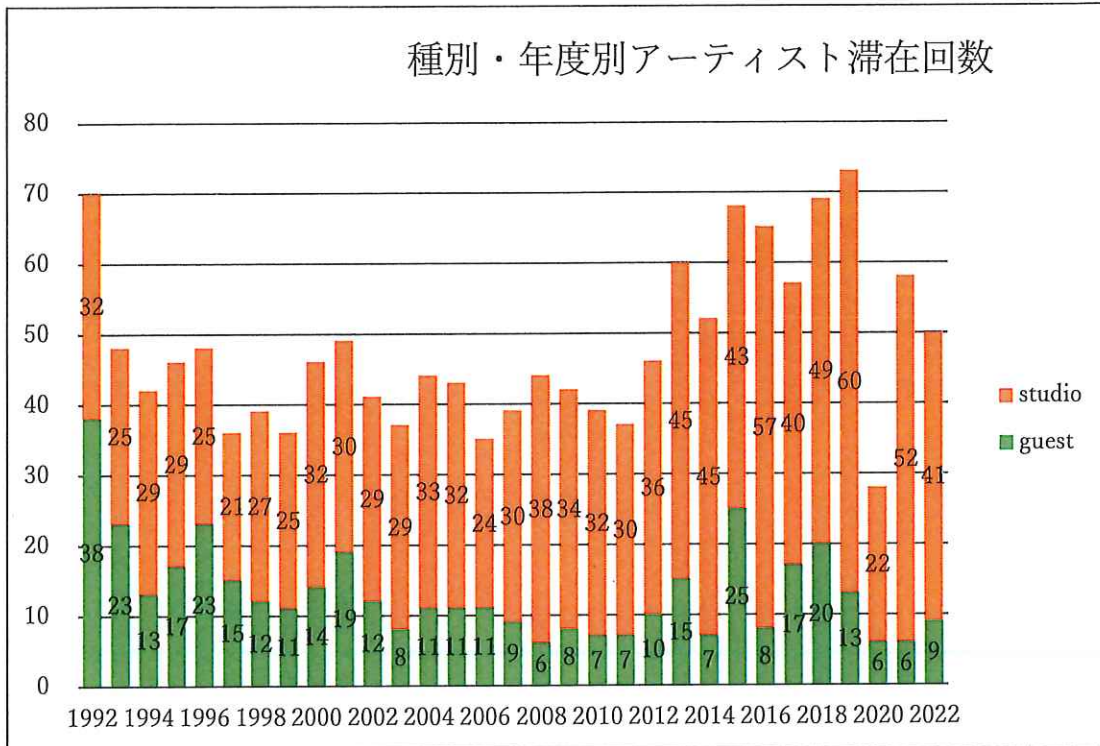
- ・多治見市陶磁器意匠研究所から交流の拡大を目的とした職員研修の受入
人財育成グループ職員、土井洋佑氏を受入れ、陶芸の森レジデンス事業の運営・手法の
研修を行い、同事業のモニターとして両施設へフィードバックを依頼した。

研修期間：令和4年度10月13日～12月25日

Ⅲ. 国別・年度別アーティスト滞在回数

滞在回数	年																																	
国名(日本語)	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	計		
アイスランド											1	1	1	1								1									5			
アイルランド												1								1											2			
アメリカ合衆国	8	11	7	7	6	1	5	4	2	6	2	7	1	7	4	2	1	3	6	4	5	4	4	4	6	4	11		1		129			
アルゼンチン	1					2																		1	1	2	1				8			
イギリス	1	1	1	2	1	1		2	4	2			3	1		2		1				2	4	3	1		5	2		3	42			
イスラエル						1																									1			
イタリア	2			2	1	1								1	1							1	1	1		1	1				13			
イラク												1																	1		2			
インド																1					1	1									3			
インドネシア																	1	1			1										3			
ウクライナ																													1		1			
エストニア																				1	1										2			
オーストラリア	1				1	1		1			2			1	1	1	2		1	1		1	1		1	2	2		2	1		21		
オーストリア																															1	1		
オランダ	1			1	1					1			2	1		1	1	1				1		1		2	2	1	2		20			
ガーナ											1																				1			
カザフスタン									1																						1			
カナダ				1					1		3								2		1			4	4	1	3	2	2		24			
カンボジア																		1													1			
ギリシャ																												1			1			
グアテマラ																												1			1			
コロンビア																													1		1			
ジャマイカ																													1		1			
シンガポール												1					1										1	2		1		6		
スイス	1				1		1			2	1	2	4	1											1		1				15			
スウェーデン					1			1			1	1	1	1										1	1	1	4				12			
スペイン					1			1	1	2	2	2																			9			
セルビア				1																											1			
タイ									1											1								1	1		5			
チェコ				1			1												1						2	2					7			
チリ																														1	1			
デンマーク			1		2	1		2			2	1	1	1	1	1				2	1			1	3						19			
ドイツ								3	3	1	3	2	1										1	1	2	1				2	20			
ニュージーランド						1																			1				1		4			
ノルウェー				1		1											4								1	1					8			
パキスタン												1																			1			
ハンガリー					1	1	1									1															6			
バングラデシュ	1																														1			
フィリピン																												1			1			
フィンランド			1	1			1	2	1			3	2	1	1	1	1						1				1	1	1		20			
ブラジル																									1						1			
フランス					1					2	3	1	2	5	5	1	4	3	3	4	5	7	3	3	6	1	4	3		66				
ベルー							1																	1							2			
ベルギー										1		1	1	2	2		1							1	1		1				11			
ポーランド					1																										1			
ボリビア									1					1	1																3			
ポルトガル		1	1										1																		3			
メキシコ					1																				1						2			
ヨルダン												1																			1			
ラオス																	2														2			
ルーマニア									1		1																				2			
ロシア連邦																															1			
香港																	3	2	7	2					2	1	2	1	5	4		30		
台湾	1				1	3	1			1	2	3							2	1	1	4	4	3	6	2	2	2	3	4	2	3	52	
大韓民国	3	2	1	2	2	3	3	3	1	2	4	1					2	1	3	1	1			2	6	1		4	5		3	56		
中国			1		1																								2	5	1	3	2	25
日本	50	32	31	28	32	18	22	21	27	32	21	17	20	15	19	20	17	17	22	21	24	40	17	27	36	26	30	24	24	47	32	809		
総計	70	48	42	46	48	36	39	36	46	49	41	37	44	43	35	39	44	42	39	37	46	60	52	68	65	57	69	73	28	58	50	1,487		

IV. 種別・年度別アーティスト滞在回数



滞回数 種別				滞回数 種別			
年度	guest	studio	総計	年度	guest	studio	総計
1992	38	32	70	2008	6	38	44
1993	23	25	48	2009	8	34	42
1994	13	29	42	2010	7	32	39
1995	17	29	46	2011	7	30	37
1996	23	25	48	2012	10	36	46
1997	15	21	36	2013	15	45	60
1998	12	27	39	2014	7	45	52
1999	11	25	36	2015	25	43	68
2000	14	32	46	2016	8	57	65
2001	19	30	49	2017	17	40	57
2002	12	29	41	2018	20	49	69
2003	8	29	37	2019	13	60	73
2004	11	33	44	2020	6	22	28
2005	11	32	43	2021	6	52	58
2006	11	24	35	2022	9	41	50
2007	9	30	39	総計	411	1,076	1,487

つつっこプログラムー子どもやきもの交流事業ー

「つつっこプログラム」は、「子どもやきもの交流事業」と陶芸の森内で活動を行う「世界にひとつの宝物づくり事業」からなる体験事業で、本年度20周年を迎えました。地域の陶芸家やボランティア、学校などと協働して、古琵琶湖層からの贈り物である信楽の「土」を用いて、子どもたちにもものをつくることの喜びや感動、本物の芸術が体感できる教育プログラムを提供することで、子どもたちの豊かな心を育むとともに、滋賀ならではの本物体験・感動体験を通して次代を担う人材育成に努めています。第三期滋賀県教育振興基本計画においても「滋賀ならではの学習の推進」の中で「陶芸文化を通じた次世代の心豊かな人材育成」として位置づけられています。

20周年という節目に陶芸館で、「土に託されたきらめきー子どもたち×アーティスト セラミックス最先端展」が開催されました。これまでの活動の足跡を振り返り、子どもたちの感性溢れる作品や、このプロジェクトに関わった陶芸家作品を県内でセラミックスを扱う企業の製品とともに展示しました。

つつっこプログラムは昨年度とほぼ変わりなく、12,000人を超える児童・生徒の方々にご参加いただいています。

本物と出会うー総合学習プログラム 陶芸の森来園プログラムと出張事業（連携事業）

小・中・高等学校を対象に陶芸の素晴らしさや陶芸の森を広めるために、学校へのお出張授業や来園プログラムを進めています。学校・美術館・文化ボランティア・陶芸家の四者連携プログラムです。

特徴的な取組として、地元企業のご協力のもと、甲賀市立雲井小学校6年生の子どもたちの社会科文時代の学習の一環として出張授業と来園制作を組み合わせたプログラムを実践しました。

事前学習では、当実行委員会の陶芸家による縄文土器の話の後、地元企業大塚オーミ陶業株式会社が高精細複製「国宝火焰型土器」を子どもたちに触れてもらう授業を行いました。

翌日の来園制作では「世界にひとつの令和土器をつくろう！」というテーマで縄文から想像力を働かせて、現代の土器づくりに挑戦しました。

企業、学校との連携による初めてのプログラムの実施となり、陶芸館で開催された「土に託されたきらめきー子どもたち×アーティスト セラミックス最先端展」で縄文土器の複製とともに展示しました。

【令和4年度 子どもやきもの交流事業 実績】

番号	講座形態	実施件数	参加者数	備考
1	出張授業	118件	6,380人	※すべて 県内小中高等学校 (内 美ココロ 4件 52人 特別支援学級 8件 160人)
2	ねんどと遊ぶ	4件	168人	一般の親子
3	研修会	2件	147人	連携授業関係者夏季美術館研修会 56人 滋賀県中学校長会全員研修会 91人
合 計		124件	6,695人	幼児～高校生 5,326人 大人 160人 (ねんどと遊ぶと研修会) 講座平均人数 53.9人



世界にひとつの宝物づくり

[滋賀県負担金、参加者負担金、その他の収入より運営]

「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」が行っているこの事業は、「つちっこプログラム」の中でも、より「滋賀ならではの」体験ができるプログラムです。

ここ陶芸の森で、地元陶芸作家や地域ボランティアの協力により、地元の「土」という素材を用いて、陶芸家の技に触れ、ものをつくることの喜びや感動が体感できます。

特別支援学校生を含む幼児から大学生などの団体を随時受付し、鑑賞、見学、創作体験を組み合わせた活動を行いました。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症により学校からの日程変更やキャンセルが一部ありましたが、県負担金、企業協賛金、助成金の増加に伴い、学校の規模に関わらず受け入れを行うことができました。

昨年度爆発的に受け入れが増加した来園見学ですが、今年度は元々の見学先が受け入れを再開されたこともあり、春の来園見学は減少傾向になりました。しかし、コロナ感染者数の動向もあり、秋は10月11月を中心に多くの学校に見学に来園いただきました。

窯の広場の見学だけでなく、陶芸館での鑑賞も積極的に提案しました。初めて美術館に足を運んでくれる児童・生徒も多く、「見どころポイント」や「美術館でのマナー」を入館前に解説することで、限られた時間の中、お気に入りを見つけてスケッチをしたり、学芸員に質問するなど、思い思いの鑑賞方法で過ごす子どもたちの姿が印象的でした。

【令和4年度 世界にひとつの宝物づくり事業 実績報告】

番号	講座形態	実施件数	参加者数	備考
1	来園制作 (学校)	50 件	2,209 人	内訳) 県内学校 40 件 2,045 人 県外学校 5 件 128 人 県内特別支援学校 4 件 29 人 県外特別支援学校 1 件 7 人
	(団体)	5 件	82 人	内訳) 県内団体(放課後等デイ) 3 件 63 人 県内団体(学童) 2 件 19 人
2	来園見学	28 件	2,129 人	内訳) 県内学校 21 件 1,388 人 県内団体 2 件 36 人 県外学校 5 件 705 人
3	出張授業	8 件	280 人	内訳) 雲井小 6 年生事前授業 1 件 15 人 ルシオール 1 件 151 人 守山市教育委員会(市民講座) 5 件 77 人 国際交流フェスタ 2022 1 件 37 人
4	特別講座	4 件	112 人	一般の親子
5	研修会、研究会など	8 件	179 人	研修会内訳) レイカディア大学 1 件 26 人 夏季研修会(教職員) 1 件 29 人 滋賀県中学校校長会 1 件 91 人 滋賀次世代文化芸術センター 1 件 6 人 NPO 法人ちやいれじ 1 件 8 人 研究会内訳) 守山市教育委員会(下之郷史跡公園) 3 件 19 人
合計		103 件	4,991 人	幼児～大学生 4,774 人 大人 217 人 講座平均 48.4 人



真剣に粘土に向きあう児童



穴窯内部見学と陶芸館見学



高精細復元した縄文土器に直接触れて学ぶ



産業の振興に関する事業

信楽窯業技術試験場との連携事業

(1) 試験場移転記念展に併せた取組み

移転記念展の開催を機に、かつて八木一夫や熊倉順吉らが試験場でデザインを手掛けた干支を商品化し、再生産に繋げる試作（ガチャガチャグッズ）に着手しました。

(2) 試験場研修生に対する滞在アーティスト等による講座の開催

滞在アーティストのトークショーに試験場研修生等を招き、アートやデザイン感覚の向上を図る機会を提供するなど、相互交流の場を設けて連携を深めました。

- ・アーティストトークショー（陶芸の森主催：計2回） <試験場参加者> 延10人
- ・窯元見学等／釉薬講義（試験場主催：計1回） <陶芸の森参加者> 延6人

人材育成事業

滋賀県立信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年生徒に対し、陶芸の森で各種体験授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して、地域での人材育成に努めました。

実施回数：5回 受講者数：149人

ア. 作家指導によるやきもの制作

<実施日>令和4年10月6日（木）

<参加者>25人 セラミック系列2年

<講師>谷 穹

講師が設定したテーマ（塊をくり貫いて茶碗をつくる。）で、茶碗の制作をおこないました。作家から造形、制作に関する考え方を学びました。

イ. 登り窯焼成実習



<実施日>令和4年10月20日（木）

<参加者>31人 セラミック系列2年

伝統的で大規模な登り窯の焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と作陶活動に対する意欲の向上を図りました。



ウ. デザイン系列絵付け実習

<実施日>令和4年11月11日（金）

<参加者>15人デザイン系列 3年

<講師>津守 愛香

3年生デザイン系列を対象とした、作家の指導による陶椅子への絵付け実習をおこないました。



エ. 陶芸の森 施設見学

<実施日>令和4年11月15日（火）

<参加者>48人 1年生

1年生を対象に陶芸に関する知識と関心を高めるために、職員による講義をおこないました。その後、グループに分かれて陶芸の森の施設見学をおこない、陶芸文化への理解を深めました。



オ. 野焼き体験実習

<実施日>令和4年11月24日（木）

<参加者>30人 セラミック系列2年

産業社会と人間で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深めました。作陶や造形、焼成作業をとおして野焼きについて学びました。



若手陶器産業後継者への支援事業（デザイン活性化事業）

陶芸館ミュージアムショップのがちやがちやの商品開発を目的に、作品の公募をおこないました。36点の応募があり、入賞3点を選びました。入賞作品は、陶芸の森ミュージアムショップのがちやがちやで販売しデザインの啓発の一環としました。

■主催 滋賀県立陶芸の森

■後援 信楽陶器工業協同組合、信楽陶芸作家協会

■募集期間 令和4年8月30日～12月25日

■応募点数 36点

■審査結果 金賞 清永 凧海（滋賀県）、銀賞 高井 葵衣（愛知県）



金賞



銀賞

銅賞



信楽産業展示館運営事業

展示会の開催（甲賀市が信楽焼振興協議会に委託）

期 間	展示内容	担 当	入館者数
令和 4年 4月 1日 令和 4年10月 2日	信楽焼産業総合展	信楽陶器卸商業協同組合	45,821 人
令和 4年10月 7日 令和 4年11月27日	六古窯展		22,202 人
令和 4年12月 3日 令和 5年 3月31日	信楽焼産業総合展	信楽陶器卸商業協同組合	13,036 人
			81,059 人 (77,198 人)

※入場者数の（ ）書きはR3年度の実績

企画展 ギャラリー展示

期 間	テ ー マ	担 当
令和 4年 4月 1日 令和 4年 5月15日	ほろ酔いうつわと地酒展	企画事業委員会
令和 4年 5月21日 令和 4年 7月 3日	信楽焼ビアカップ展	企画事業委員会
令和 4年 7月 9日 令和 4年 9月 4日	いまどき、しがらき、かやりき展	企画事業委員会
令和 4年 9月10日 令和 4年 9月25日	しがらきから吹いてくる風 日本・台湾交流展 2022	企画事業委員会
令和 4年12月 3日 令和 5年 1月15日	飯碗と茶の器展 令和5年干支（癸卯）展	企画事業委員会 信楽陶器卸商業協同組合
令和 5年 1月21日 令和 5年 3月12日	信楽焼の動物展	企画事業委員会

その他の事業

陶芸の森ミュージアムショップ6センス

「土に託されたきらめき」展では、展覧会出品作家の岡本太郎グッズをはじめ、展覧会出品作家の器やアクセサリーを販売。陶芸の森「つちっこプログラム」の陶芸家たちがつくった「きらめきアクセサリー」をガチャガチャマシンで販売しました。

また、今年度3回目となる「がちゃがちゃデザインコンペ2021」の入賞者の作品をガチャガチャマシンで販売しました。

■特集企画内容

○信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」

(会期 60日間) 売上合計 1,020,734円 (17,012円/日)

- ・展覧会出品の加藤達美、森正洋、柳宗理デザインの器をはじめ、信楽の出品作家の器、日本の伝統的な技術を守りながら、ユニークなデザインが斬新な手拭いや紙風船などを販売。

○「土に託されたきらめきー子どもたち×アーティスト セラミックス最先端展」(会期 62日間)

売上合計 874,583円 (14,106円/日)

- ・関連企画として、地元企業連携として、信楽で牧場を経営し、自社製生乳による乳製品を製造販売する山田牧場の商品を、土日曜日限定により陶芸館前で販売。

○「静中動：韓国スピリットをたどるー開かれた陶のアート」

(会期 80日間 ※うち臨時休園1日) 売上合計 1,228,660円 (15,552円/日)

- ・本展出品作家の作品や書籍を始め、本展開催協力の日本民藝館機関誌『民藝』に特集された韓国工芸関連の書籍や、韓国の美しい手工芸品を販売。

○「湯呑茶碗ー日本人がこよなく愛したやきもの」展(令和4年度会期 18日間)

売上合計 302,466円 (16,804円/日)

- ・関連企画として、滋賀県茶業会議所と連携し、近江茶の賞味会サービスを実施するとともに、ショップで近江銘茶「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」や、滋賀県産の丹波黒豆を使用した豆菓子、また「ちょっとレトロが新しい」をテーマに、レトロかわいい雑貨を販売。



資 料

収蔵品収集実績						
収蔵年度	区分	海外の現代陶芸	日本の現代陶芸	滋賀ゆかりの陶芸	クラフトと陶磁デザイン	計
平成元年～ 21年度	購 入	143	191	173	17	524
	寄 付	181	148	228	135	692
	計	324	339	401	152	1,216
平成23年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	22	6	63	0	91
	計	22	6	63	0	91
平成25年度	購 入	0	0	0	0	0
	寄 付	3	17	92	11	123
	計	3	17	92	11	123
平成26年度	購 入	0	1	0	0	1
	寄 付	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	1
平成27年度	購 入	0	0	1	0	1
	寄 付	11	5	31	7	54
	計	11	5	32	7	55
平成29年度	購 入	0	0	1	0	1
	寄 付	23	10	42	0	75
	計	23	10	43	0	76
平成30年度	購 入	0	0	5	0	5
	寄 付	17	35	11	1	64
	計	17	35	16	1	69
令和元年度	購 入	0	0	8	0	8
	寄 付	3	2	10	1	16
	計	3	2	18	1	24
令和2年度	購 入	0	3	2	0	5
	寄 付	1	11	1	0	13
	計	1	14	3	0	18
令和3年度	購 入	0	0	5	0	5
	寄 付	0	16	8	3	27
	窯試(移管)	0	11	20	15	46
	計	0	27	33	18	78
令和4年度	購 入	0	0	3	0	3
	寄 付	2	9	0	6	17
	窯試(移管)	0	0	0	33	33
	計	2	9	3	39	53
合 計	購入合計	143	195	198	17	553
	寄付合計	263	259	486	164	1,172
	窯試(移管)	0	11	20	48	79
総 計		406	465	704	229	1,804

収蔵品収集実績

収蔵年度	区分	海外の現代陶芸	日本の現代陶芸	滋賀ゆかりの陶芸	クラフトと陶磁デザイン	計
平成元年～ 21年度	購入	143	191	173	17	524
	寄付	181	148	228	135	692
	計	324	339	401	152	1,216
平成23年度	購入	0	0	0	0	0
	寄付	22	6	63	0	91
	計	22	6	63	0	91
平成25年度	購入	0	0	0	0	0
	寄付	3	17	92	11	123
	計	3	17	92	11	123
平成26年度	購入	0	1	0	0	1
	寄付	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	1
平成27年度	購入	0	0	1	0	1
	寄付	11	5	31	7	54
	計	11	5	32	7	55
平成29年度	購入	0	0	1	0	1
	寄付	23	10	42	0	75
	計	23	10	43	0	76
平成30年度	購入	0	0	5	0	5
	寄付	17	35	11	1	64
	計	17	35	16	1	69
令和元年度	購入	0	0	8	0	8
	寄付	3	2	10	1	16
	計	3	2	18	1	24
令和2年度	購入	0	3	2	0	5
	寄付	1	11	1	0	13
	計	1	14	3	0	18
令和3年度	購入	0	0	5	0	5
	寄付	0	16	8	3	27
	窯試(移管)	0	11	20	15	46
	計	0	27	33	18	78
令和4年度	購入	0	0	3	0	3
	寄付	2	9	0	6	17
	窯試(移管)	0	0	0	33	33
	計	2	9	3	39	53
合計	購入合計	143	195	198	17	553
	寄付合計	263	259	486	164	1,172
	窯試(移管)	0	11	20	48	79
総計		406	465	704	229	1,804

2022 (令和4) 年度 滋賀県立陶芸の森 陶芸館 収蔵作品一覧

1. 購入 3件

分類番号	作者・窯(産地)	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	数量	作品写真	備考
SC-298	五代清水六兵衛(絵付=山元春琴)	御本手雪ノ里絵茶碗	1920-1933/大正9-昭和8	高6.1×口径13.2×底径4.8	1		鉄絵銘「春琴」印刻銘「清」
SO-316	湖東焼	染付花唐草文露酒徳利	19C中頃/江戸時代後期	高25.6×口径5.3×幅15.7×奥行15.3×底径10.6	1		染付銘「湖東製」
SO-317	湖南焼・永楽保全(画=狩野永岳)	奥洲俵形鉢	19C後半/江戸時代後期	高8.5×幅15.0×奥行14.2×底径7.0	1		染付銘「於湖南永楽造」鉄絵銘「永岳画」

2. 寄付 17件

分類番号	作者(デザイン)・窯(産地)	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	数量	作品写真	備考
C-147	富本憲吉デザイン	色絵「花」字文角花瓶	1960s後半(デザインc.1957)	高19.8×口径3.6×肩径7.8×胴径8.0×底径6.1	1		染付銘「富泉」
C-148	富本憲吉デザイン	染付色絵角盒・陶管・蓋物	1960s後半(デザインc.1957)	角盒=高8.4×幅13.9×奥行10.3×底径10.8・7.3、陶管=高8.0×口径6.0×胴径9.0×底径5.0、蓋物=高13.2×口径7.1×幅・奥行9.3×底径8.1	3		染付銘「富泉」
C-149	富本憲吉デザイン	色絵竹文番茶器	1960s後半(デザインc.1957)	急須=高(本体)9.8×口径8.7×幅15.8×奥行13.8×底径7.6、茶碗=高5.5×口径8.9×底径4.5	5		染付銘「富泉」
C-150	日本陶磁振興会(デザイン・描画=日根野作三)	色絵皿	c.1949	高2.6×口径25.4×底径15.7	1		色絵転写銘「日本陶磁振興会」素地=金中製陶所(瑞浪) 太平洋陶園にて絵付け
C-151	日本陶磁振興会(デザイン・描画=日根野作三)	色絵鉢	c.1949	高3.9×口径19.6×底径10.6	1		色絵転写銘「日本陶磁振興会」素地=金中製陶所(瑞浪) 太平洋陶園にて絵付け
C-152	川端陶器(デザイン監修=鈴木治)	織部花入	1970s	高14.4×口径5.0・4.4×幅10.9×奥行9.9	1		共箱(紙製)、葉
J-413	河井 寛次郎	白地草花図扇壺	c.1938 / 昭和13年頃	高22.3×幅15.6×奥行11.2(×口径6.5×底11.2・8.1)	1		共箱、蓋裏「扇壺/草花図/寛/朱印」
J-414	濱田 庄司	黒釉灰落し	c.1940 / 昭和15年頃	高5.3×幅12.5×奥行8.2×底9.0・5.8	1		
J-415	濱田 庄司	網目文筒描マグ	1950s	高14.0×幅13.0×奥行(口径)10.6×底径6.9	1		
J-416	赤澤 鏡太郎	染付薫風景図皿	1970s	高3.5×口径26.2×底径18.8	1		鉄絵銘「鏡」フ=高橋素斎窯の登窯 モチー
J-417	重森 陽子	動物・人物・画		人物=高13.7×幅25.3×奥行15.8、動物-A(熊茶)高25.2×幅21.0×奥行14.4、B(白)高21.9×幅24.4×奥行12.6、C(緑)高9.5×幅25.9×奥行14.4、D(青)高18.3×幅18.4×奥行6.5、E(黒)高7.9×幅28.2×奥行9.7、F(茶)高12.7×幅19.2×奥行11.7、画A=楕40.2×横40.0×厚0.4、画B=楕20.2×横30.2×厚1.2	9		
J-418	赤沢正中(四代赤沢露石)	交趾線文花瓶		高37.0×口径3.4×胴径16.3×底径8.7	1		印刻銘「正中」
J-419	赤沢正中(四代赤沢露石)	黄交趾線文蓋物	1983/昭和58	高13.3×径32.2×底径21.0	1		印刻銘「正中」第30回日本伝統工芸展入選作
J-420	赤沢嘉則(五代赤沢露石)	無限	2008/平成20	高16.6×口径9.3×胴径16.6×底径8.4	1		陽刻銘「嘉」第37回日本伝統工芸展近畿展入選作
J-421	赤沢嘉則(五代赤沢露石)	喜雨	2009/平成21	高24.4×口径6.1×幅18.8×奥行7.8×底9.6・4.9	1		陽刻銘「嘉」第10回ピラン国際陶芸展(スロベニア・ピラン)入選作と同品
FW-233	淡 茉莉	ながれ Study of Through the Ages	2022/令和4	高18.0×幅87.0×奥行29.0	1		滋賀県立陶芸の森創作研修館にて制作
FW-234	淡 茉莉	あはうみのつちときおく III - i Biwa Lake's Horizons III - i	2022/令和4	高1.7×幅28.0×奥行28.0	4		滋賀県立陶芸の森創作研修館にて制作

3. 移管 33件

分類番号	作者(デザイン)・窯(産地)	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	数量	作品写真	備考
CI-016	滋賀県立窯業試験場 (絵付=赤澤誠太郎)	花卉文花瓶	1947 / 昭和22	高25.0×口径×胴径25.0×底径	1		
CI-017	滋賀県立窯業試験場 (絵付=新井輝也)	染付北京公園行人陶皿	1947 / 昭和22	高9.6×口径36.0×底径	1		染付銘「学鮮画書」「■■■小亭風」
CI-018	滋賀県立信楽窯業試験場 (絵付=ポール・オットー・マッテ)	鉄絵魚文花器	1958 / 昭和33	高30.0×径7.0	1		鉄絵銘「MATTE 58」
CI-019	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	花器	1958 / 昭和33	高38.5×径18.0	1		
CI-020	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	蛟肌釉花器	1958 / 昭和33	高39.5×径19.5	1		◎日本手芸品対米輸出推進計画=ラッセル・ライト計画 (通称:マル手 1960年度発掘選定品)
CI-021	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	植木鉢	1958 / 昭和33	高52.5×径41.5	1		
CI-022	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	灰皿	1958 / 昭和33	高7.7×径16.0	2		印刷銘「志がらき」「ノザワ」◎日本手芸品対米輸出推進計画=ラッセル・ライト計画 (通称:マル手) 1960年度発掘選定品
CI-023	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	汽車土瓶	1959 / 昭和34	高9.4×幅9.8×奥行5.5 / 高9.5×幅9.5×奥行6.0 / 高8.8×幅9.7×奥行8.0	3		
CI-024	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	漬物セット	1960s	手付鉢=高4.0×径19.0、醤油差し=高8.7×径5.6、小皿=高2.5×径11.0	7		醤油差し1点は予備
CI-025	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	ティーセット	1967 / 昭和42 (デザイン1965 / 昭和40)	ポット=高14.2×幅20.0×奥行14.4、カップ=高6.5×幅12.6×奥行9.0、ソーサー=高2.4×径17.4、砂糖入れ=高10.4×径10.2、ミルク入れ=高8.8×幅10.9×奥行9.2	5		◎日本手芸品対米輸出推進計画=ラッセル・ライト計画 (通称:マル手 1965年度発掘選定品)
CI-026	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=日根野作三)	灰皿	1969 / 昭和44	高9.0×幅・奥行21.0	2		
CI-027	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=藤森健次)	小物入れ	1976 / 昭和51	紫=高13.6×径9.0、黒中央=高11.1×径7.5、黒左高11.2×径6.5、瑠璃青=高6.1×径7.1、トルコ青中央=高6.3×径7.1、トルコ青左=高7.2×径7.7	6		
CI-028	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=藤森健次)	蓋物	1970s	高7.8×幅・奥行8.0	1		
CI-029	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	コーヒーセット&スープ碗皿	1974 / 昭和49	ポット=高18.0×幅11.0、カップ=高7.0×幅8.0、ソーサー=高2.5×径15.0 / シュガー=高10.0×径9.0、スープボウル=高5.5×幅12.0、受皿小=高2.5×径20.0、受皿中=高2.8×径31.0	4		
CI-030	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	パーティーセット	c.1975 / 昭和50年頃	バスケット大=高23.7×幅13.5×奥行11.5 / バスケット小=高10.4×幅10.3×奥行9.0 / 盛鉢大=高7.4×口径23.8 / 浅鉢小=高4.9×口径14.8 / カップ=高6.2×幅11.0×奥行7.8 / ソーサー=高2.0×径14.2 / 鉢=高6.6×口径13.9 / 受皿=径21.0・19.8 / ドレッシング入れ=高14.0×幅6.4×奥行6.3 / 塩入れ高12.3×径6.2 / 胡椒入れ(2個)=高9.7×径6.0	10		第12回陶磁器試験研究機関作品展出品作
CI-031	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	寿司鉢セット	1978 / 昭和53	醤油差し=高8.0×幅7.7、鉢大=高4.4×径25.5、鉢中=高4.1×径2.2、鉢小=高2.4×径10.2	4		第14回陶磁器試験研究機関作品展出品作
CI-032	滋賀県立信楽窯業試験場 (デザイン=和田三千穂)	モーニングセット	1979 / 昭和54	トレイ=2.5×幅28.3×奥行13.3	4		第16回陶磁器試験研究機関作品展出品作
CI-033	セラミック・ジャパン	エッグスタンド	1970s後半	高2.9×幅8.6×奥行6.1	1		
CI-034	セラミック・ジャパン	フック	1970s後半	高4.5×径6.4	1		

分類番号	作者(デザイン)・窯(産地)	作品・資料名	制作年(代)	寸法(cm)	数量	作品写真	備考
CI-035	セラミック・ジャパン(デザイン=柴木正敏)	クリーマー	1970s後半	高3.8×幅13.8×奥行10.8	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-036	セラミック・ジャパン(デザイン=柴木正敏)	クリーマー	1970s後半	高7.5×幅11.3×奥行7.3	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-037	セラミック・ジャパン	クリーマー	1970s後半	高5.0×幅10.7×奥行9.4	1		色絵転写銘「せらみっく」
CI-038	セラミック・ジャパン(デザイン=柴木正敏)	トレー	1980s	高2.0×幅20.4×奥行16.8	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-039	セラミック・ジャパン(デザイン=柴木正敏)	カップ&ソーサー	1970s後半	カップ=高5.8×幅11.0×奥行8.0、ソーサー=高1.7×口径14.7	1		写銘(ロゴ)あり 「手描きシリーズ」
CI-040	セラミック・ジャパン(デザイン=柴木正敏)	カップ&ソーサー	1970s後半	カップ=高6.0×幅8.5×奥行6.0、ソーサー=高2.0×口径11.3	1		色絵転写銘(ロゴ)あり 「手描きシリーズ」
CI-041	セラミック・ジャパン(デザイン=小松誠)	注器(SQセット)シリーズ	1970s	高8.2×幅10.6×奥行5.2	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-042	セラミック・ジャパン(デザイン=小松誠)	カップ(CRINKLE)シリーズ	1970s後半	高5.0×幅5.8×奥行5.5	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-043	セラミック・ジャパン(デザイン=小松誠)	カップ(CRINKLE)シリーズ	1970s後半	高6.4×径7.1	1		色絵転写銘(ロゴ)あり
CI-044	滋賀県立信楽窯業試験場(デザイン=船津英治)	干支(亥)	1958/昭和33	高13.0×幅20.0×奥行7.5	1		
CI-045	滋賀県立信楽窯業試験場(デザイン=船津英治)	干支(巳)	1964/昭和39	高20.1×幅19.0×奥行7.2	1		2022リデザイン(アニマルトイ)試作
CI-046	滋賀県立信楽窯業試験場(デザイン=船津英治)	干支(未)	1967/昭和42	高13.4×幅19.0×奥行8.6	1		2022リデザイン(アニマルトイ)試作
CI-047	滋賀県立信楽窯業試験場(デザイン=八木一夫)	干支(辰)	1963/昭和38	高13.4×幅19.0×奥行8.6	1		
CI-048	滋賀県立信楽窯業試験場(デザイン=八木一夫)	干支(卯)	1962/昭和37	高15.3×幅10.0×奥行11.3	1		2022リデザイン(アニマルトイ)試作

施設利用実績

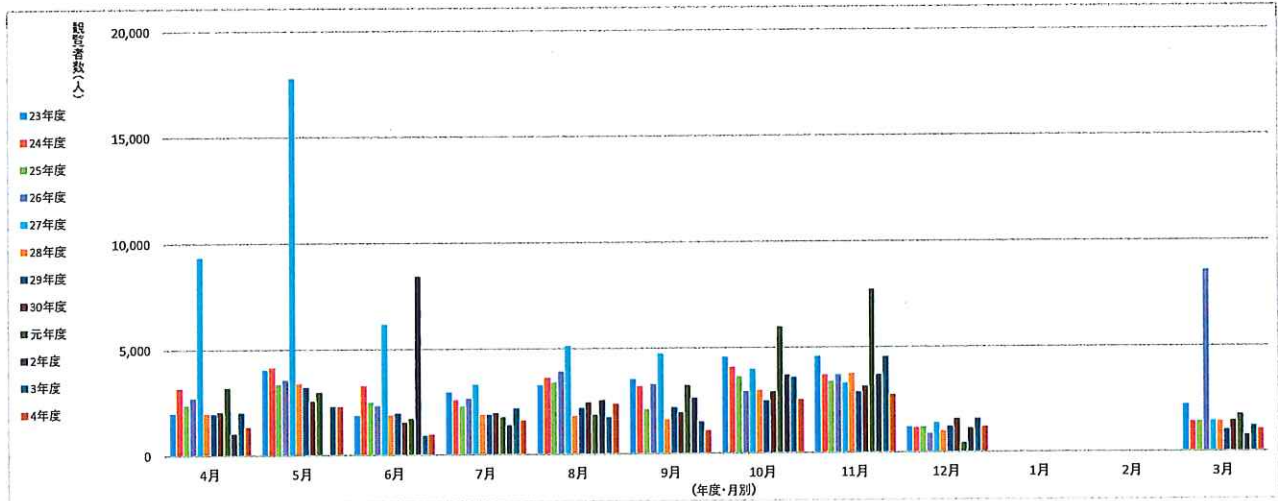
陶芸の森 年度別・月別入園者数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1ヶ月平均
15～22年度	253,056	318,805	178,548	177,995	194,121	243,735	437,289	267,781	112,707	87,666	130,072	161,734	2,563,509	35,604
23年度	23,404	38,330	19,042	19,207	19,945	26,336	55,483	39,456	17,875	11,737	13,386	19,112	303,313	25,276
24年度	24,902	39,253	19,453	18,772	23,856	22,288	53,241	39,380	17,772	13,793	16,279	24,130	313,119	26,093
25年度	31,090	51,404	26,371	21,131	25,777	28,047	55,580	36,874	17,039	12,052	13,247	19,779	338,391	28,199
26年度	27,903	52,863	21,987	21,522	23,390	28,955	48,100	40,276	12,544	11,406	15,256	32,188	336,390	28,033
27年度	39,836	73,243	29,028	25,346	27,845	37,850	58,307	35,315	17,601	13,201	17,855	24,811	400,238	33,353
28年度	28,390	58,906	22,453	24,009	33,151	32,853	63,790	42,067	20,890	13,885	18,182	28,485	387,061	32,255
29年度	32,741	56,846	26,342	24,921	29,880	27,222	46,184	35,737	18,851	13,312	16,511	25,234	353,781	29,482
30年度	31,960	54,517	24,324	20,129	27,459	23,614	49,910	36,170	19,258	14,468	17,476	26,879	346,164	28,847
元年度	33,588	67,724	23,730	22,173	24,597	47,034	48,296	69,062	26,434	28,992	36,528	20,399	448,557	37,380
2年度	16,552	10,075	34,672	26,676	29,955	56,347	39,741	42,579	20,092	15,960	22,400	24,843	339,892	28,324
3年度	29,720	31,126	24,564	44,035	21,200	26,815	37,754	61,861	18,746	15,072	16,716	24,550	352,159	29,347
4年度	29,638	65,025	25,335	24,817	25,698	26,987	40,440	47,370	17,598	0	16,189	27,057	346,154	28,846
合計	602,780	918,117	475,849	470,733	506,874	628,083	1,034,115	793,928	337,407	251,544	350,097	459,201	6,828,728	391,039

※合計は入園者の計測開始年度（平成15年度）以降の計

陶芸館 年度別・月別観覧者数

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
3～22年度	入場者数	72,947	111,012	78,459	83,495	112,453	92,566	111,280	118,421	35,188	22,253	29,200	54,521	921,795	177
	開催日数	484	485	454	481	522	451	519	493	333	274	286	422	5,204	
23年度	入場者数	1,978	4,020	1,850	2,936	3,251	3,501	4,544	4,558	1,189	0	0	2,192	30,019	128
	開催日数	22	27	18	27	26	26	26	26	10	0	0	26	234	
24年度	入場者数	3,152	4,131	3,274	2,576	3,600	3,170	4,067	3,666	1,152	0	0	1,390	30,178	128
	開催日数	26	27	26	22	26	22	26	26	14	0	0	20	235	
25年度	入場者数	2,356	3,343	2,481	2,268	3,371	2,083	3,605	3,380	1,194	0	0	1,385	25,466	109
	開催日数	26	27	20	26	28	19	28	26	13	0	0	20	233	
26年度	入場者数	2,687	3,535	2,305	2,634	3,882	3,258	2,917	3,674	868	0	0	8,562	34,322	146
	開催日数	26	28	20	27	27	24	23	26	13	0	0	21	235	
27年度	入場者数	9,336	17,767	6,172	3,292	5,110	4,715	3,955	3,284	1,375	0	0	1,425	56,431	251
	開催日数	26	27	20	27	26	21	24	25	12	0	0	17	225	
28年度	入場者数	1,958	3,365	1,865	1,864	1,790	1,596	2,969	3,741	994	0	0	1,414	21,556	94
	開催日数	26	26	21	27	26	20	29	26	10	0	0	18	229	
29年度	入場者数	1,954	3,187	1,951	1,866	2,154	2,161	2,470	2,848	1,199	0	0	1,003	20,793	90
	開催日数	26	26	20	26	27	21	26	26	15	0	0	19	232	
30年度	入場者数	2,032	2,539	1,519	1,940	2,428	1,930	2,889	3,130	1,569	0	0	1,437	21,413	93
	開催日数	26	26	21	26	27	21	22	26	17	0	0	18	230	
元年度	入場者数	3,192	2,961	1,710	1,748	1,836	3,208	5,972	7,706	431	0	0	1,747	30,511	150
	開催日数	26	27	20	26	26	19	26	26	1	0	0	6	203	
2年度	入場者数	1,017	0	8,397	1,367	2,529	2,600	3,683	3,665	1,116	0	0	764	25,138	154
	開催日数	9	0	24	12	26	20	25	25	12	0	0	10	163	
3年度	入場者数	1,994	2,281	901	2,162	1,717	1,488	3,563	4,521	1,561	0	0	1,182	21,370	98
	開催日数	26	26	8	27	24	16	27	25	17	0	0	23	219	
4年度	入場者数	1,318	2,255	946	1,596	2,346	1,067	2,508	2,726	1,186	0	0	1,024	16,972	78
	開催日数	26	26	13	27	26	15	26	26	16	0	0	18	219	
合計	入場者数	105,921	160,396	111,830	109,744	146,467	123,343	154,422	165,320	49,022	22,253	29,200	78,046	1,255,964	1,696
	開催日数	775	778	685	781	837	695	827	802	483	274	286	638	7,861	



陶芸館展覧会別観覧者数

収蔵品展・特別企画展

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	一日平均	
3年度	世界の現代陶芸展	H3.7.20~12.15	128	41,006	320	
	世界の現代陶芸展Ⅱ	H4.2.12~3.19	32	6,179	193	
	世界の現代陶芸展Ⅲ	H4.5.12~9.30	121	35,717	295	
4年度	世界の現代陶芸展	H4.9.18~9.30	11	4,141	376	
	朝日陶芸展'92	H4.12.1~H5.3.19	78	9,785	125	
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	(H5.3.2~3.14)				
5年度	世界の現代陶芸展	H5.6.1~9.3	82	20,043	244	
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	(H6.3.1~3.13)				
6年度	世界の現代陶芸展	H6.6.12~9.15	83	18,667	225	
	世界の現代陶芸展 特別企画展(森で生まれた作品展)	H6.12.3~H7.3.10 (H7.2.25~3.10)	75	7,141	95	
7年度	世界の現代陶芸展	H7.6.3~7.13	35	7,353	210	
	パプアニューギニアの土器展	H7.7.18~10.15	78	23,407	300	
	世界の現代陶芸展 (森で生まれた作品展)	H7.11.25~H8.3.17 (H8.3.5~3.17)	90	11,377	126	
8年度	陶芸の森新館蔵品展	H8.5.25~7.7	38	9,803	258	
	陶芸の森館蔵品展	H8.7.11~9.23	65	21,652	333	
	陶芸の森 館蔵品展 (森で生まれた作品展)	H8.11.30~H9.3.7 (H9.2.5~3.7)	74	6,955	94	
9年度	新・収蔵品展	H9.5.31~7.9	34	6,332	186	
	変貌する陶芸展	H9.7.13~9.14	55	14,185	258	
	陶の表現展 (森で生まれた作品展)	H9.11.1~H10.3.15 (H10.2.4~3.15)	108	16,585	154	
10年度	新・収蔵品展	H10.6.6~7.4	25	3,766	151	
	滋賀やきもの探訪・やきもの動物の森展	H10.9.12~12.23	88	17,597	200	
	陶芸の美展 (森で生まれた作品展)	H11.1.5~H12.3.14 (H11.2.3~3.14)	59	5,817	99	
11年度	美の所産展	H11.5.29~7.4	32	5,612	175	
	陶芸...使うこと・味わうこと展	H11.7.10~9.26	68	13,483	198	
	アーティスト・イン・レジデンス90年代の歩み展	H11.12.5~H12.3.11	77	5,835	76	
12年度	滋賀やきもの探訪「信楽焼-伝統の技」	H12.5.20~7.9	44	7,356	167	
	滋賀やきもの探訪「陶芸の森コレクションから」	H12.7.15~9.17	56	10,257	183	
	「陶芸-最前線」	H12.12.23~H13.3.11	61	3,868	63	
13年度	陶芸の森10年の歩みⅠ-世界の現代陶芸	H13.7.14~9.24	63	10,074	160	
	女性たちの陶芸展-女流陶芸と欧米作家たちとの競演	H13.12.1~H14.1.27	43	4,361	101	
	陶芸の森10年の歩みⅡ-滋賀ゆかりのやきもの・日本の現代陶芸	H14.2.2~3.31	44	4,542	103	
14年度	特別企画展「ルンシー展 ~静寂の美~」	H14.4.6~6.30	74	12,189	165	
	収蔵品によるテーマ展「古くて、新しい表現」陶の可能性」	H14.12.3~H15.3.30	96	6,123	64	
	企画展「まぼろしのやきもの-滋賀の埴簾」	H15.4.4~8.22	121	20,270	168	
15年度	特別企画展「神々の形象 パプアニューギニアの土器」	H16.3.20~3.31	10	1,122	112	
	特別企画展「神々の形象 パプアニューギニアの土器」	H16.4.1~7.30	104	13,161	127	
	特別企画展「信楽のやきものとともに-寒六窯と遊陶人」	H16.11.23~12.15	20	3,106	155	
17年度	特別企画「日本の現代陶芸・海外の現代陶芸-迫力の時代」	H17.6.19~9.25	85	10,038	118	
18年度	特別企画「信楽を訪れた594人の陶芸家たち-アーティスト・イン・レジデンスの軌跡」	H18.7.4~9.24	72	7,924	110	
19年度	特別企画「魅せられる...今、注目される日本の陶芸」	H19.6.10~9.24	92	10,771	117	
20年度	特別企画「やきもの動物パラダイス」&「滋賀のやきもの」展	H20.9.21~3.31	95	15,935	168	
21年度	特別企画「やきもの動物パラダイス」&「滋賀のやきもの」展	H21.4.1~4.12	11	1,561	142	
	特別企画展「陶の“うつわ”と“かたち”」	H21.4.19~6.28	62	8,694	140	
	Part1 使ってみよう! 愉しみの“うつわ”/心を潤す 癒しの“かたち” 特別企画展「陶の“うつわ”と“かたち”」	H21.7.5~9.12	60	7,812	130	
22年度	Part2 華やかと味わいの“うつわ”/驚きと発見! コーモラスな“かたち”	H22.6.26~9.10	66	8,053	122	
	特別企画展「わくわくミュージアム-ちよと不思議で楽しい“やきもの”」	H22.3.1~3.31	27	1,889	70	
	特別企画展「近江に花開いたやきもの-街道とともに...」	H23.4.1~4.17	15	1,307	87	
23年度	特別企画展「近江に花開いたやきもの-街道とともに...」	H23.4.1~4.17	15	1,307	87	
	特別企画展「陶芸を楽しむ“グ・ル・ム”な、やきものたち」	H23.6.30~12.11	142	20,019	141	
	特別企画展「あれもやきもの これもやきもの」	H25.6.18~9.23	85	8,947	105	
25年度	一陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス20年のあゆみ-」	H25.3.8~3.30	20	1,385	69	
	特別企画展「現代イギリスの陶芸-バーナード・リーチから若手作家まで」	H26.4.1~6.22	73	8,323	114	
	特別企画展「信楽焼の美-炎が作り出す野趣溢れる肌合い」	H26.6.29~9.28	78	9,978	128	
26年度	特別企画展「現代イギリスの陶芸-バーナード・リーチから若手作家まで」	H26.4.1~6.22	73	8,323	114	
	特別企画展「信楽焼の美-炎が作り出す野趣溢れる肌合い」	H26.6.29~9.28	78	9,978	128	
	特別企画展「集まれ! 奇想天外な“やきもの”たち」	H27.6.14~9.23	88	14,974	170	
27年度	特別企画「土・祈り・イメージーション...岡本太郎の言葉とともに」展	H27.6.14~9.23	88	14,974	170	
28年度	特別企画展「インサイド×アウトサイド-陶芸の森アート・クルーズ」	H28.6.19~9.23	83	6,314	76	
	特別企画「“うつわ” ドラマチック」展	H29.3.11~3.31	18	1,414	79	
	特別企画「“うつわ” ドラマチック」展	H28.4.1~6.11	62	6,217	100	
29年度	特別企画「十人陶色-豊かな色の世界」展	H29.6.20~9.24	84	7,056	84	
	特別企画「ジャズ・スピリットを感じて...熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展	H30.3.10~3.31	19	1,003	53	
	特別企画「ジャズ・スピリットを感じて...熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展	H30.4.1~6.17	67	5,773	86	
30年度	特別企画「世界の形象土器」展	H30.6.24~9.24	77	6,615	86	
	特別企画「陶の花 FLOWERS」展	H31.3.12~3.31	18	1,437	80	
	特別企画「陶の花 FLOWERS」展	H31.3.12~R元.6.9	78	8,645	110	
元年度	特別企画「交流と実験-新時代の(やきもの)をめざして」展	R元.6.18~9.6	69	4,552	66	
2年度	特別企画「湖国・滋賀の陶芸-風土と伝統そして交流のなかで」展	R2.7.18~9.22	58	6,496	112	
3年度	信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイル-やきものXデザインX生活」	R4.3.5~3.31	23	1,182	51	
4年度	信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイル-やきものXデザインX生活」	R4.4.1~6.9	60	4,181	70	
	特別企画「静中動: 韓国のスピリットをたどる一開かれた陶のアート」	R4.9.17~12.18	79	7,159	91	
	特別企画「湯呑茶碗-日本人がこよなく愛したやきもの」	R5.3.11~3.31	18	1,024	57	
合計				4,260	632,617	149

陶芸館展覧会別観覧者数

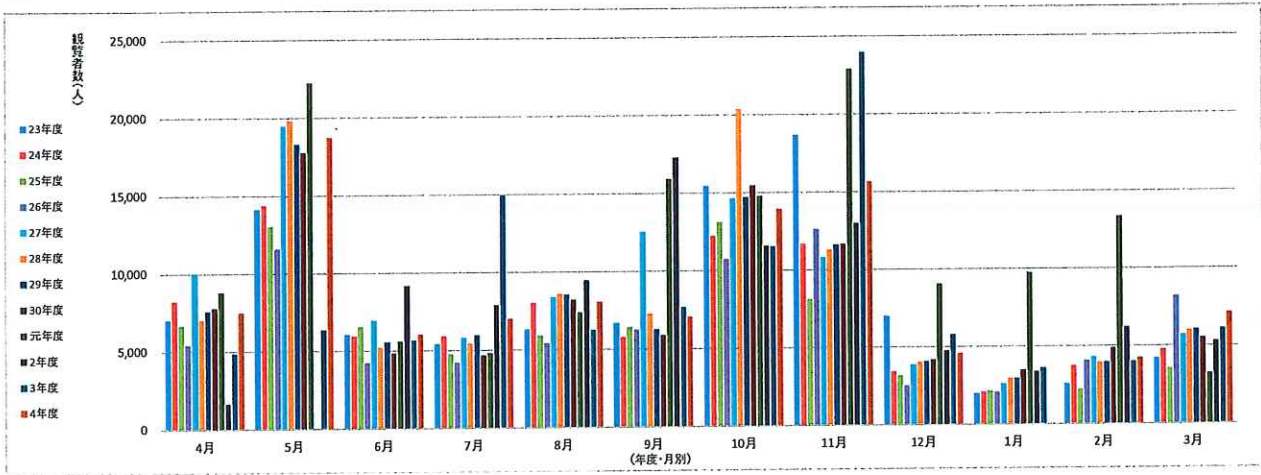
特別展・公募展

年度	展覧会名	会 期	開催日数	観覧者数	一日平均
3年度	おしゃべりなティポット展	H4.1.5~2.11	32	4,265	133
	近江のやきもの展	H4.3.20~3.31	10	2,786	279
4年度	近江のやきもの展	H4.4.1~5.10	35	10,943	313
	現代イタリア陶芸展	H4.10.10~11.23	39	8,389	215
5年度	熊倉順吉とその仲間たち	H5.3.20~3.31	10	1,355	136
	熊倉順吉とその仲間たち	H5.4.1~5.30	52	9,058	174
	八木一夫が出会った子供たち	H5.9.4~10.31	50	7,840	157
6年度	エイドリアン・サククス展	H6.3.20~3.31	10	1,180	118
	エイドリアン・サククス展	H6.4.1~6.5	57	6,724	118
	近江のやきもの展	H6.9.20~11.27	60	12,094	202
7年度	現代イギリス陶芸展	H7.3.19~3.31	11	1,300	118
	現代イギリス陶芸展	H7.4.1~5.28	50	7,494	150
	トプカブ宮殿の名品展	H7.10.21~11.19	26	10,650	410
8年度	凜-現代の陶芸美	H8.3.23~3.31	8	1,774	222
	凜-現代の陶芸美	H8.4.1~5.19	42	12,445	296
	明治のやきもの	H8.9.29~11.24	49	14,794	302
9年度	画家たちのやきもの	H9.3.15~3.31	14	2,580	184
	画家たちのやきもの	H9.4.1~5.25	48	11,053	230
	バーナード・リーチ展	H9.9.20~10.26	32	11,125	348
10年度	つくり手たちの原像展	H10.3.21~3.31	9	1,918	213
	つくり手たちの原像展	H10.4.1~5.31	53	10,782	203
	セーブル名品展	H10.7.11~9.6	50	11,407	228
11年度	なんてき・れい・いなんて不思議展	H11.3.20~3.31	10	1,892	189
	なんてき・れい・いなんて不思議展	H11.4.1~5.23	46	12,417	270
	やきもの20世紀	H11.10.2~11.28	50	14,147	283
12年度	アール・ヌーヴォーとアール・デコの陶芸展	H12.3.19~3.31	11	1,866	170
	アール・ヌーヴォーとアール・デコの陶芸展	H12.4.1~5.14	38	8,514	224
	「熊倉順吉ジャズの響きをやきものにした作家」	H12.9.23~12.17	74	9,155	124
13年度	「イタリア陶磁器の伝統と革新-ジノリ展」	H13.3.18~3.31	12	1,418	118
	「イタリア陶磁器の伝統と革新-ジノリ展」	H13.4.1~5.20	43	10,730	250
	「ドイツ陶芸の100年-アール・ヌーヴォーから現代作家まで」	H13.5.27~7.8	37	6,234	168
14年度	「大信楽展-焼締めの美への憧れとその軌跡-」	H13.10.2~11.25	48	11,195	233
	特別展「スイスの陶芸 -ルネッサンスから現代まで-」	H14.7.9~9.8	54	8,005	148
	特別展「暮らしに美を求めて -陶磁器試験場の技術とデザイン」	H14.9.15~11.24	61	8,552	140
15年度	特別展「桃山陶に魅せられた七人の陶芸家-陶片に学んだ技と美」	H15.8.30~10.13	39	7,698	197
	特別展「ロシア・アヴァンギャルドの陶芸 -モダンデザインの実験」	H15.10.21~11.30	37	6,514	176
	特別展「デンマーク王室の陶磁コレクション-ロイヤル・コペンハーゲン」	H16.8.8~11.14	85	15,261	180
16年度	特別展「北欧のスタイリッシュ・デザイン-フィンランドのアラビア窯」	H17.3.19~3.31	11	1,706	155
	特別展「北欧のスタイリッシュ・デザイン-フィンランドのアラビア窯」	H17.4.1~6.12	63	13,586	216
	特別展「湖国を彩るやきもの-滋賀の陶芸家たち」	H17.10.2~12.18	67	10,330	154
17年度	特別展「入のかたち-もうひとつの陶芸美」	H18.3.18~3.31	12	1,104	92
	特別展「入のかたち-もうひとつの陶芸美」	H18.4.1~6.25	75	8,431	112
	特別展「近江やきものがたり」	H18.10.1~12.17	67	9,737	145
18年度	特別展「ようこそ！ ためき御殿へ-おもしろき日本の理表現」	H19. 3.17~3.31	12	2,482	207
	特別展「ようこそ！ ためき御殿へ-おもしろき日本の理表現」	H19.4.1~6.3	56	13,301	238
	特別展「ジャポニスムのテーブルウェア-西洋の食卓を彩った「日本」-」	H19.10.2~12.24	73	9,025	124
19年度	特別展「近江の商家のくらしとやきもの」	H20/3.15~3.30	14	1,960	140
	特別展「近江の商家のくらしとやきもの」	H20.4.1~6.29	80	12,935	162
	特別展「世界に誇る和製テーブルウェア-オールドノリタケと懐かしの洋食器」	H20.7.6~9.15	62	10,141	164
20年度	特別展「没後50年 北大路魯山人」	H21.9.19~12.13	75	23,496	313
	特別展「ハンス・コパー展-20世紀陶芸の革新-」	H21.3.13~3.31	16	1,340	84
	特別展「ハンス・コパー展-20世紀陶芸の革新-」	H22.4.1~6.17	68	8,389	123
21年度	特別展「しがらきやき-直方の茶陶 春斎の壺-」	H22.9.18~12.12	82	14,004	171
	特別展「ウイリアム・ド・モガン-楽しい生活を彩るタイルと陶器」	H23.4.23~6.19	50	6,501	130
	特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」	H24.3.3~3.31	25	2,192	88
22年度	特別展「陶芸の魅力×アートのドキドキ」	H24.4.1~7.6	84	11,222	133
	特別展「明治・大正時代の日本陶磁-産業と工芸美術-」	H24.7.14~8.26	43	5,511	128
	特別展「しがらきやきII-大西忠左と勅旨の名工たち-」	H24.9.6~12.16	88	12,055	137
23年度	特別展「フランス印象派の陶磁器1866-1886ジャポニスムの成熟」	H25.3.9~3.31	20	1,390	69
	特別展「フランス印象派の陶磁器1866-1886ジャポニスムの成熟」	H25.4.1~6.9	61	6,955	114
	特別展「酒器の玉手箱」	H25.10.2~12.15	66	8,179	124
24年度	特別展「やきものって何ダ？-陶芸美術館8館の名品に学ぶ」	H26.10.5~12.14	61	7,459	122
	特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」	H27.3.7~3.31	21	8,562	408
	特別展「北欧スウェーデンの動物のやきもの リサ・ラーソン展」	H27.4.1~6.7	59	31,418	533
25年度	特別展「信楽への眼差し」	H27.10.4~12.13	61	8,614	141
	公募展「マイヤ-信楽大賞 日本陶芸の今-伝統と革新」	H28.3.12~3.31	17	1,425	84
	公募展「マイヤ-信楽大賞 日本陶芸の今-伝統と革新」	H28.4.1~6.12	63	6,124	97
26年度	特別展「珠玉の湖東焼」	H28.10.1~12.11	65	7,704	119
	特別展「粋な古伊万里-江戸好みの器デザイン」	H29.10.1~12.17	67	6,517	97
	特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」	H30.10.6~12.20	65	7,588	117

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	一日平均
元年度	特別展「北大路魯山人 古典復興－現代陶芸をひらく」	R元.9.14～12.1	67	17,004	254
	特別展「リサ・ラーソン－創作と出会いをめぐる旅」	R2.3.25～3.31	6	1,747	291
2年度	特別展「リサ・ラーソン－創作と出会いをめぐる旅」	R2.4.1～6.28	33	9,414	285
	特別展「奇跡の土－信楽焼をめぐる三つの景色」	R2.10.3～12.13	62	8,464	137
	特別展「神楽ニッポン 明治のやきもの－幻の横浜焼・東京焼」	R3.3.20～3.31	10	764	76
3年度	特別展「神楽ニッポン 明治のやきもの－幻の横浜焼・東京焼」	R3.4.1～6.6	58	5,097	88
	特別展「Human and Animal 土に吹きこまれた命 21世紀陶芸の最先端」Part1 子どもたちとともに	R3.6.29～9.5	58	4,276	74
	特別展「Human and Animal 土に吹きこまれた命 21世紀陶芸の最先端」Part2 アーティストたちに迫る	R3.9.18～12.19	80	10,815	135
4年度	特別展「土に託されたきらめき－子どもたち×アーティスト／セラミックス最先端」	R4.6.25～9.4	62	4,608	74
合 計			3,577	629,126	176

信楽産業展示館 年度別・月別観覧者数

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
3～22年度	入場者数	154,937	247,243	122,742	165,909	184,605	134,554	230,468	223,475	63,498	51,138	77,346	124,611	1,780,526	305
	開催日数	484	506	488	440	531	481	487	493	462	463	483	523	5,841	
23年度	入場者数	7,001	14,114	6,040	5,394	6,302	6,674	15,446	18,673	6,974	1,962	2,569	4,190	95,339	309
	開催日数	26	27	26	27	26	26	26	26	23	23	25	28	309	
24年度	入場者数	8,193	14,371	5,938	5,899	8,004	5,774	12,219	11,661	3,428	2,063	3,726	4,739	86,015	276
	開催日数	26	27	26	28	30	26	26	26	23	23	24	27	312	
25年度	入場者数	6,655	13,025	6,536	4,727	5,920	6,409	13,111	8,103	3,154	2,125	2,216	3,540	75,521	245
	開催日数	26	27	26	26	28	24	29	26	23	23	24	26	308	
26年度	入場者数	5,406	11,578	4,217	4,200	5,390	6,245	10,722	12,601	2,501	2,049	4,043	8,181	77,133	251
	開催日数	26	28	25	27	27	25	27	26	23	23	24	26	307	
27年度	入場者数	10,018	19,459	6,955	5,794	8,364	12,527	14,636	10,784	3,839	2,596	4,279	5,717	104,968	341
	開催日数	26	27	25	27	26	26	27	25	24	24	24	27	308	
28年度	入場者数	7,009	19,817	5,201	5,448	8,573	7,245	20,346	11,295	4,017	2,924	3,956	5,994	101,825	330
	開催日数	26	26	26	27	26	26	29	26	23	23	24	27	309	
29年度	入場者数	7,566	18,303	5,534	5,952	8,528	6,243	14,683	11,606	4,054	2,948	3,953	6,034	95,404	312
	開催日数	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	
30年度	入場者数	7,763	17,752	4,825	4,655	8,186	5,876	15,441	11,639	4,152	3,463	4,844	5,492	94,088	307
	開催日数	26	26	26	26	27	26	26	26	23	23	24	27	306	
元年度	入場者数	8,795	22,227	5,586	4,792	7,374	15,917	14,767	22,901	9,033	9,740	13,330	3,230	137,692	481
	開催日数	26	27	26	26	27	25	27	26	23	23	24	6	286	
2年度	入場者数	1,619	0	9,166	7,876	9,438	17,279	11,561	12,969	4,729	3,363	6,208	5,299	89,507	346
	開催日数	5	0	25	27	26	26	27	25	24	24	24	26	259	
3年度	入場者数	4,832	6,334	5,660	14,944	6,236	7,650	11,516	23,953	5,767	3,600	3,982	6,101	100,575	331
	開催日数	26	26	26	27	24	26	27	25	23	23	24	27	304	
4年度	入場者数	7,452	18,699	6,004	6,980	8,037	7,043	13,914	15,656	4,552	0	4,206	7,113	99,656	356
	開催日数	26	26	26	27	26	25	26	26	23	0	22	27	280	
合計	入場者数	237,246	422,922	194,404	242,570	274,957	239,436	398,830	395,316	119,698	87,971	134,658	190,241	2,938,249	311
	開催日数	775	799	797	761	851	788	810	802	740	718	770	824	9,435	



信楽ホール・会議室利用件数

(単位：回)

催事内容	3～22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	計
式典・総会等	171	3	4	2	3	4	3	7	3	4	1	5	3	213
芸能・音楽発表会等	474	12	9	15	10	14	13	10	5	9	5	9	11	596
講演会・シンポジウム等	85	2	1	2	3	3	2	9	3	4	1	0	3	118
研修・映画会等	130	6	4	5	7	4	1	2	2	4	1	1	3	170
計	860	23	18	24	23	25	19	28	13	21	8	15	20	1097

沿革と記録

昭和 60 年 (1985 年) 4 月	陶芸の森設置の検討 (商工労働部商工課経済対策係)
昭和 61 年 (1986 年) 3 月	滋賀県立陶芸の森整備基金条例の公布 (基金 10 億円)
平成元年 (1989 年) 3 月	建築工事着手
7 月	公園工事着手
平成 2 年 (1990 年) 4 月	財団法人滋賀県陶芸の森設立
6 月	竣工・プレ世界陶芸祭開催 (6 月 2 日～6 日)
平成 3 年 (1991 年) 4 月	世界陶芸祭開催 (4 月 20 日開幕)
5 月	世界陶芸祭中止 (5 月 15 日閉場)
7 月	平常業務再開 (7 月 20 日)
平成 4 年 (1992 年) 7 月	創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業開始
平成 7 年 (1995 年) 10 月	開設 5 周年記念シンポジウム「今日のうつわを考える一用と美の対立を超えて」開催
平成 11 年 (1999 年)	オランダのフェンロ市立美術館で初めて海外での陶芸の森のコレクション「日本の現代陶芸—前衛の動向—」展を開催
平成 13 年 (2001 年) 10 月	・開設 10 周年記念イベント鼎談「土と炎と創作と—21 世紀の陶芸を見すえて—」開催 ・10 周年記念展として陶芸館で特別展「第信楽焼展—焼締め的美への憧れとその軌跡」を開催
平成 14 年 (2002 年) 1 月	・陶芸館入館者数 60 万人記録 ・創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受入者の延べ人数が 500 人を超える ・信楽産業展示館入館者数 100 万人記録
平成 16 年 (2004 年) 10 月	文部科学省「子どもの居場所づくり」キャンペーン事業「本物と出合う—森・もり! やきもの大作戦」開始
平成 17 年 (2005 年) 3 月	中世穴窯/金山遺跡の再現事業で「金山再現窯」完成
平成 18 年 (2006 年) 4 月	指定管理者制度に基づき財団法人滋賀県陶芸の森が滋賀県立陶芸の森の指定管理者となる
6 月	創立 15 周年記念特別企画展「信楽を訪れた 594 人の陶芸家たち展」を開催

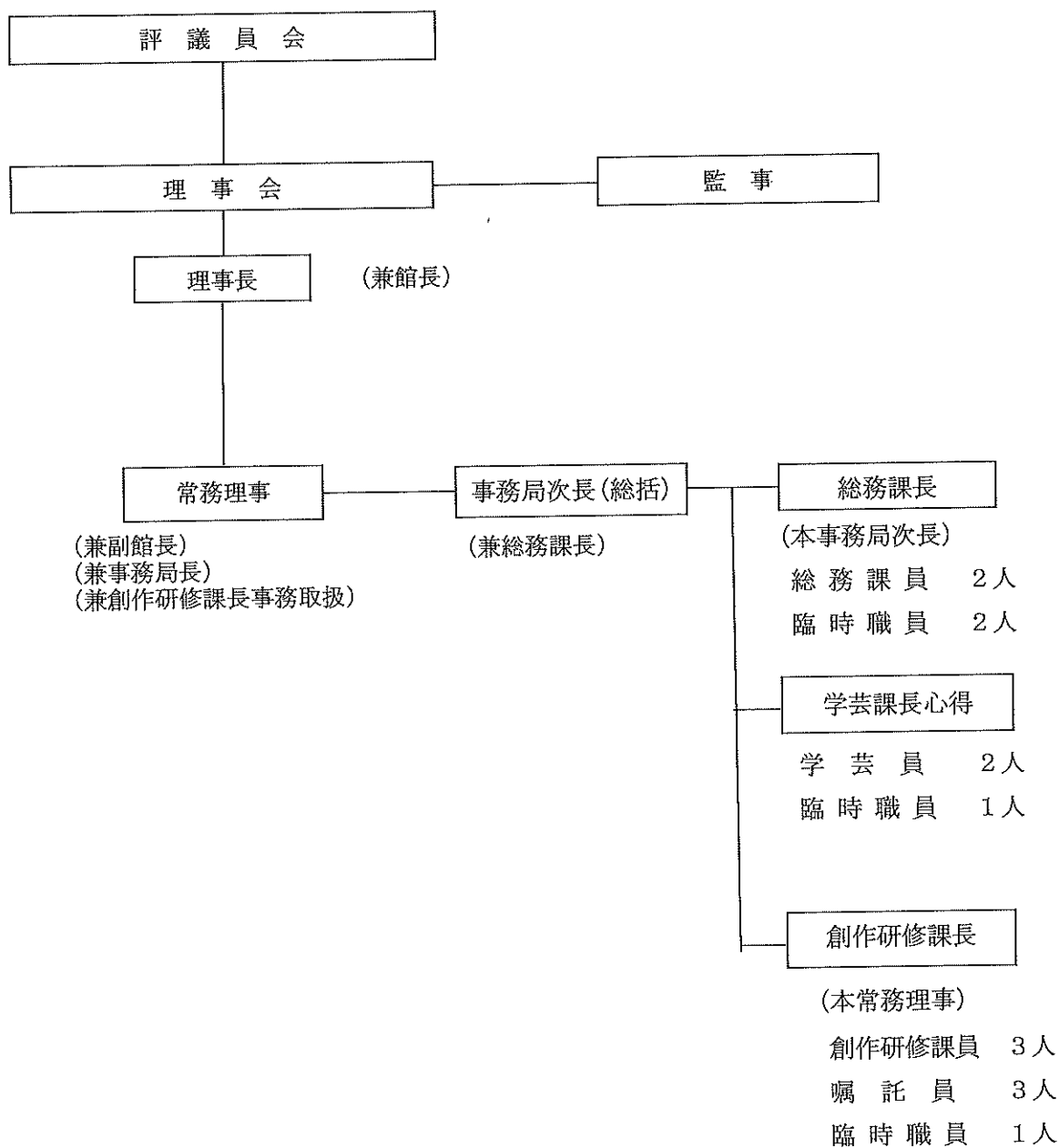
平成 19 年 (2007 年)	7 月	『近江やきものがたり』京都新聞出版センターより出版
	11 月	天皇皇后両陛下を御迎えする
平成 22 年 (2010 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 開設 20 周年記念特別展「しがらきやき—直方の茶陶 春斎の壺—」を開催 ・ 開設 20 周年記念シンポジウム「芸術・産業・観光から 活力あるしがらきの未来を考える—やきものが信楽を創造する—」を開催 ・ 創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受入者の延べ人数が 800 人を超える
平成 24 年 (2012 年)	4 月	公益法人制度改革により公益財団法人滋賀県陶芸の森に移行
平成 25 年 (2013 年)		陶芸館累計入館者数 100 万人達成
平成 27 年 (2015 年)	10 月	<p>開設 25 周年事業として、「25 周年記念事業—国際陶芸ワークショップ・シンポジウム アーティスト・イン・レジデンスを視点として「信楽から世界を見る 世界から信楽を見る」を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作研修館でのアーティスト・イン・レジデンス事業での受入者の延べ人数が 1,000 人を超える
平成 28 年 (2016 年)		文化庁補助事業として、海外のレジデンス機関への陶芸家の派遣をはじめめる
平成 29 年 (2017 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 陶芸館累計入館者数 120 万人達成 ・ つちっこプログラム累計参加者数 10 万人達成 ・ 信楽長野地区の商店街の中に陶芸の森地域連携拠点として、「FUJIKI」をオープン
平成 30 年 (2018 年)		信楽産業展示館累計入館者数 240 万人達成
令和元年 (2019 年)		年間入園者数が 448,557 人となり、入園者の計測を開始した平成 15 年以降で最大となる
令和 2 年 (2020 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 開設 30 周年記念事業として「薪窯の魅力語る会×薪窯ワークショップ」、特別展「奇跡の土—信楽焼をめぐる三つの景色」を開催 ・ 新型コロナウイルス感染症流行による緊急事態宣言の発令に伴い、休園や陶芸館の臨時休館をおこなう
令和 3 年 (2021 年)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理第 4 期 (5 年間) の初年度として、新たに第 4 期中期経営計画を策定 ・ 信楽窯業技術試験場の令和 4 年度の隣接移転を見据えて、記念展「JAPAN STYLE—信楽クラフトデザインのあゆみ」を開催

令和4年(2022年)

- ・令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の流行も年度半ばから収束傾向が見られ、入園者は概ねコロナ禍前に回復。
施設修繕工事で1か月間の臨時休園があったものの、入園者数は、目標値の35万人に迫る346,154人を達成。

組 織・名 簿 (R4年度)

組 織



公益財団法人滋賀県陶芸の森評議員名簿

令和4年4月1日現在

役職	現職名	氏名	備考
評議員	滋賀県商工観光労働部長	浅見 裕見子	
評議員	甲賀市産業経済部長	黒田 芳司	
評議員	姫路市立美術館副館長	不動 美里	
評議員	岐阜県現代陶芸美術館顧問	榎本 徹	
評議員	日本工芸会理事	神農 巖	
評議員	信楽陶器工業協同組合理事長	大原 耕造	
評議員	信楽陶器卸商業協同組合理事長	脇阪 昇	
評議員	甲賀市商工会信楽支部長	植西 雄次郎	
評議員	株式会社京都新聞社滋賀本社代表	石川 一郎	
評議員	文筆家・編集者	成実(村松)美賀子	

任期 令和2年6月17日～令和6年6月まで

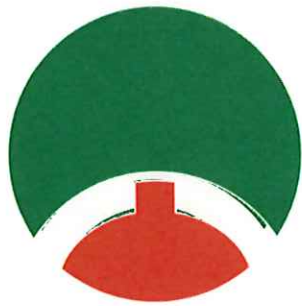
公益財団法人滋賀県陶芸の森理事および監事名簿

令和4年6月22日現在

役職	現職名	氏名	備考
理事	滋賀県商工観光労働部モノづくり振興課長	森野 実知子	
理事	滋賀県工業技術総合センター 信楽窯業技術試験場長	中島 孝	
理事	甲賀市産業経済部商工労政課長	松下 泰也	
理事	滋賀県立美術館館長	保坂 建二郎	
理事	滋賀県立安土城考古博物館館長	青木 幸一	
理事	陶芸作家（六代 上田直方）・日本工芸会会員	上田 光春	
理事	京都芸術大学教授	服部 滋樹	
理事	滋賀県立陶芸の森館長	松井 利夫	
理事	同 副館長	津田 清和	
監事	滋賀銀行信楽支店長	北川 琢也	
監事	中小企業診断士	三宅 裕之	

任期 令和4年6月22日～令和6年6月





陶芸の森
The Shigaraki Ceramic
Cultural Park